

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

五本指の手の歴史と、自作品への応用

A History of "A Hand with Fingers" and Its Applications

北條高史

Hojyo Takashi

折り図 Diagrams

イヌ

Dog

神谷哲史

Kamiya Satoshi

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

やませみ
山翡翠

Crested Kingfisher

森末 圭

Morisue Kei



つまみおり Information

6OSME参加登録受付中

6OSME Registration Still Open

通巻 144 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

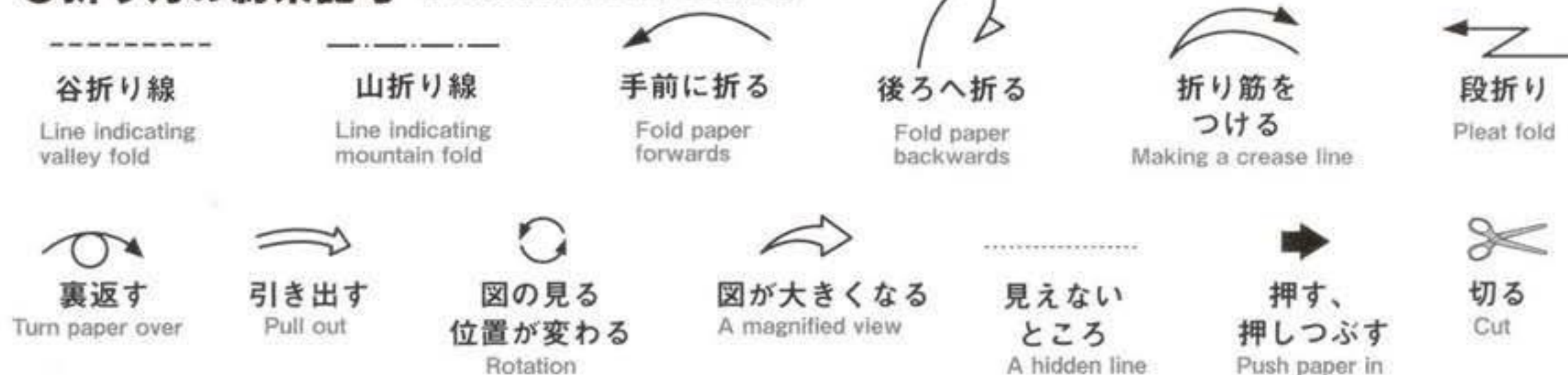
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes* designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



「山翡翠」(P.38)
Crested Kingfisher (P.38)

作: 森末 圭
by Morisue Kei

■トレードマークの「ぼさぼさ頭」と、意外に重量感があるイメージの胴体。全体的に余裕があって自由度の高い構造になっていて、広げた状態の翼を折り出すことができます。これほどの十分な面積があると、翼を閉じたポーズでも、実際の翼のたたみ方を調べたりして細部まで徹底的に作り込んでみたくなることでしょう。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **144**



Crested Kingfisher: Morisue Kei

クローズアップ / Close-up

**P.13 五本指の手の歴史と、
自作品への応用**

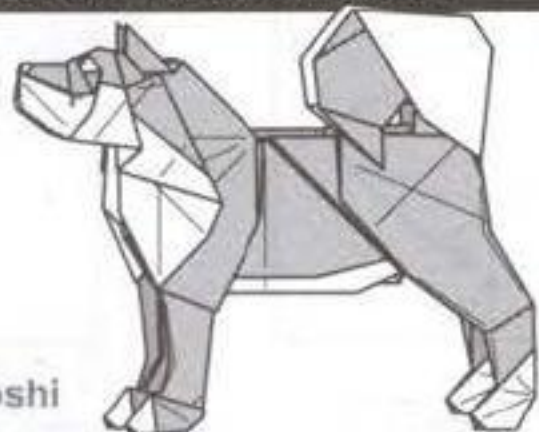
A History of "A Hand with Fingers"
and Its Applications

北條高史
Hojyo Takashi

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 イヌ
Dog

神谷哲史
Kamiya Satoshi



P.38 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

やませみ
山翡翠

Crested Kingfisher

森末 圭
Morisue Kei

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折紙散歩

Exploring into Modular Models

色鉛筆市松立方体、猫の眼立方体、トゲトゲ立方体
Colored Pencil Check Cube, Cat's Eye Cube, Spiky Cube

前川 淳
Maekawa Jun

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

底のある長靴、兜、富士山
Rubber Boots, Boy's Festival Samurai Helmet, Mt. Fuji

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

折り紙でつくる海の生き物たち
Origami Sea Life

各務 均
Kakami Hitoshi

P.39 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

山北克彦
Yamakita Katsuhiko

取材：川村みゆき
Kawamura Miyuki

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.37 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

高村侑樹
Komura Yuki

情報 / Information

P.18 日本折紙学会24期事業報告と25期予定

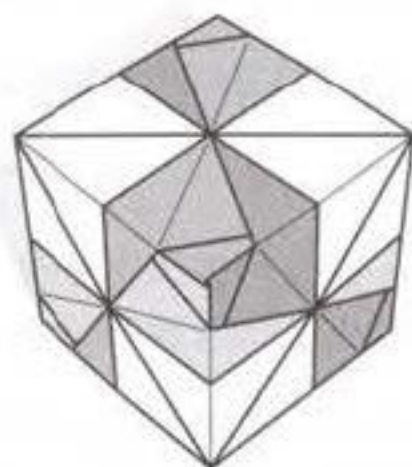
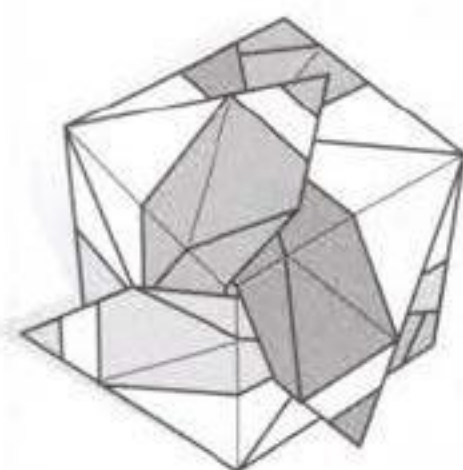
JOAS' Annual Report: Activities in the 24th Year and
Prospects in the 25th Year

P.40 つまみおり Rabbit Ear

OSME参加登録受付中
6OSME Registration Still Open

ユニット折紙散歩

Exploring into Modular Models 前川淳 MAEKAWA Jun

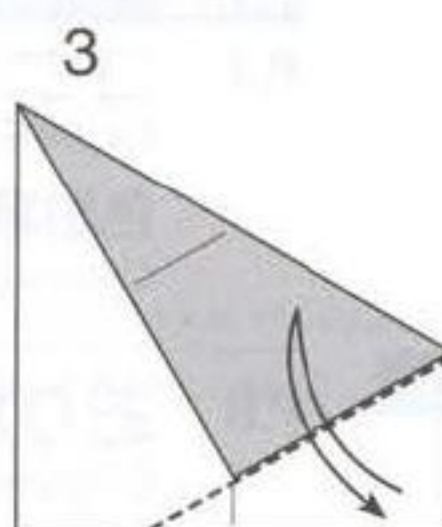
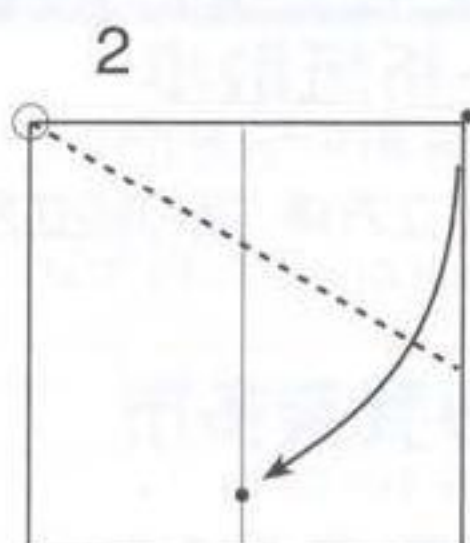
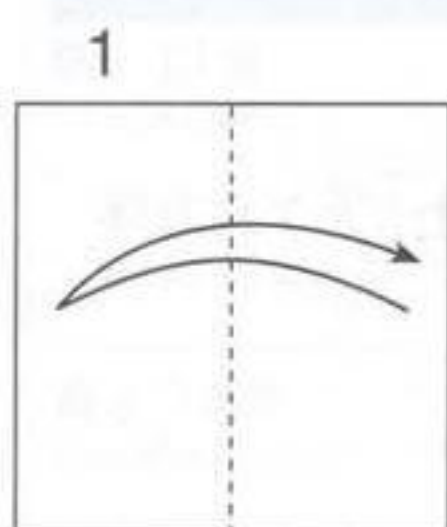


色鉛筆市松立方体

Colored Pencil
Check Cube

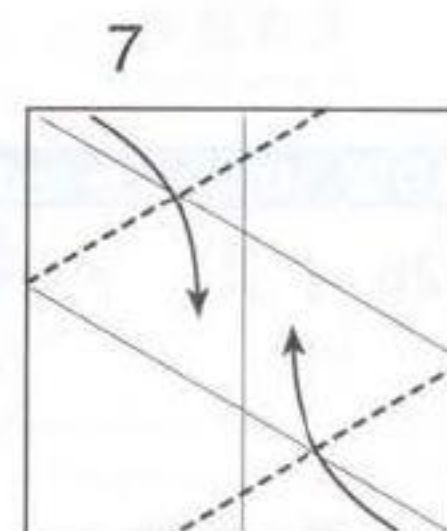
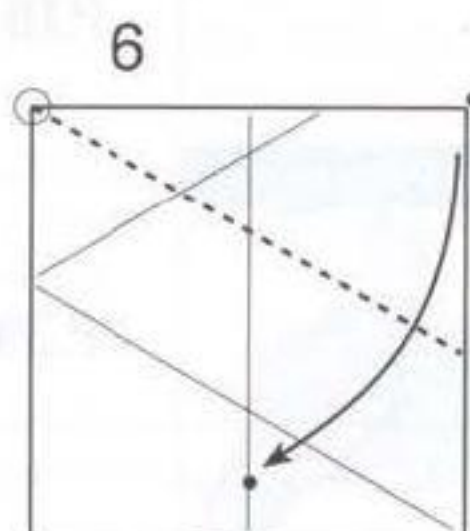
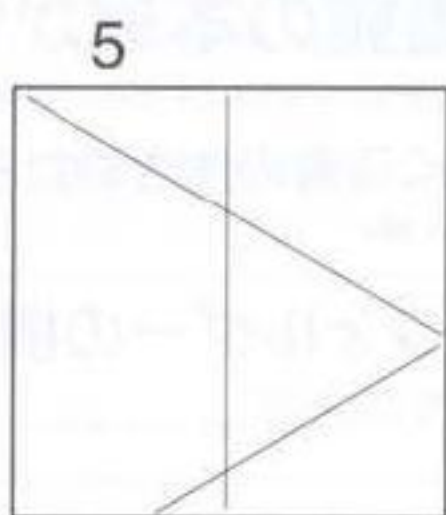
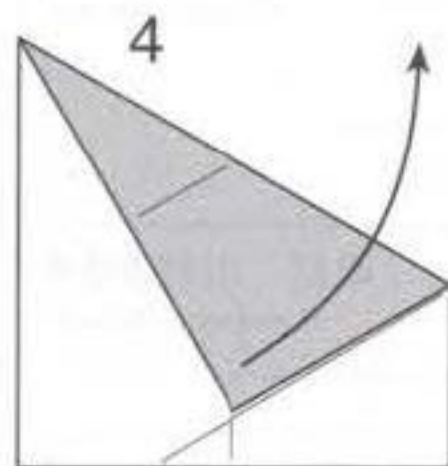


正方形6枚をつかいます。
3色をすすめます。

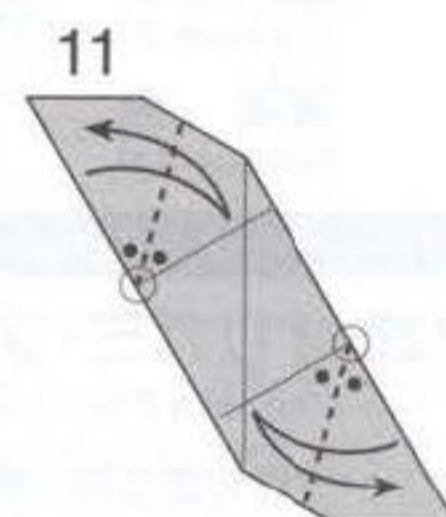
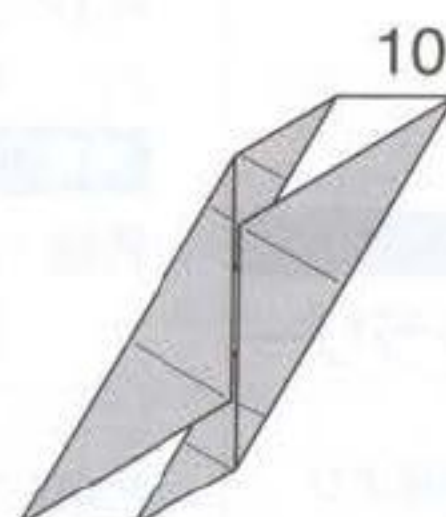
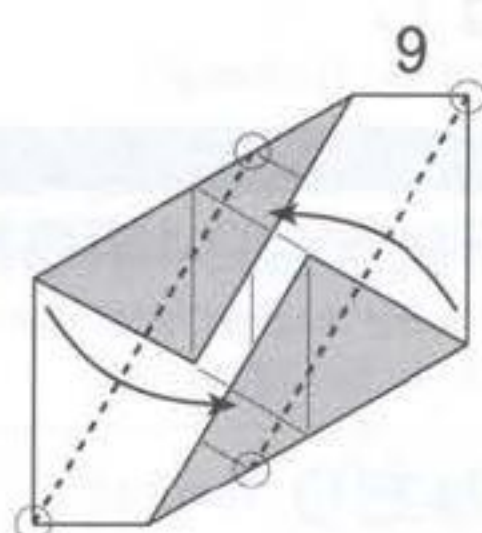
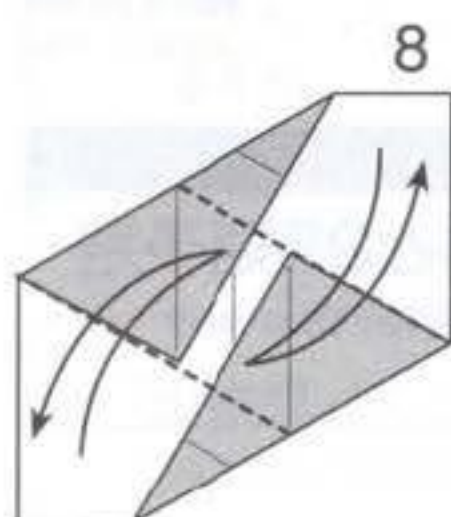


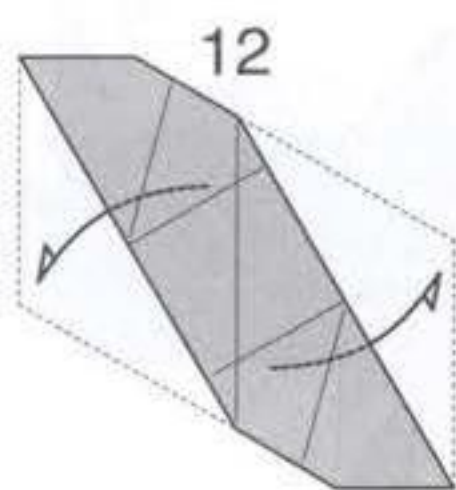
組むと、色鉛筆のかたちは見えなくなります。

折り紙の面白さは、完成したかたちだけにあるのではない、ということです。

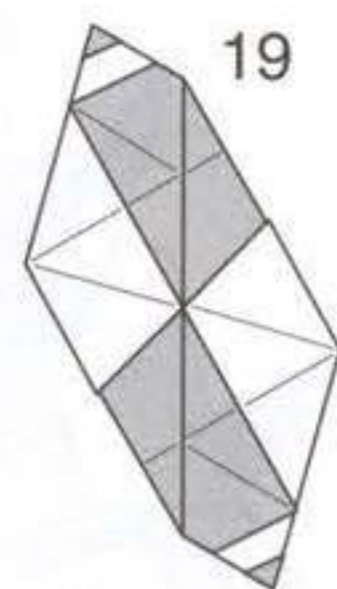
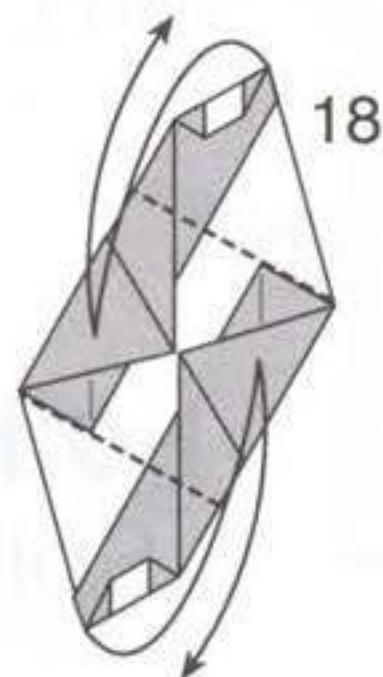
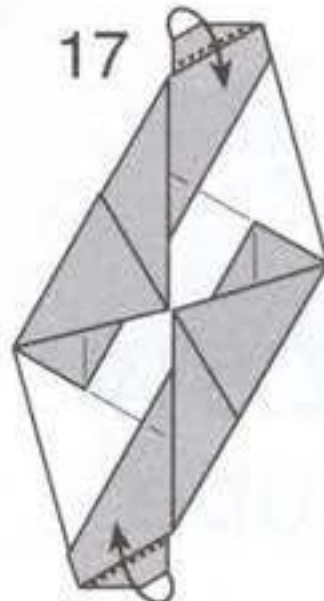
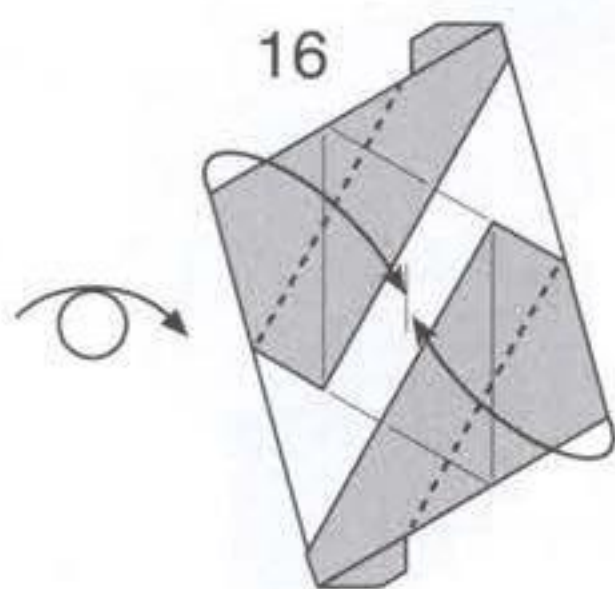
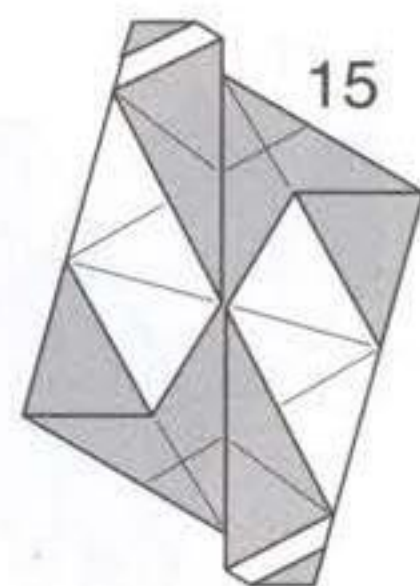
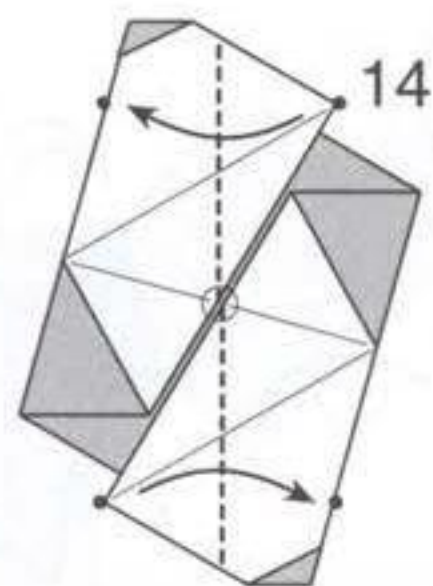
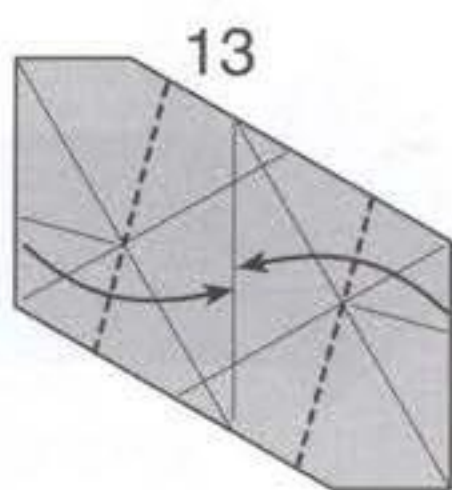


2-4と同じ

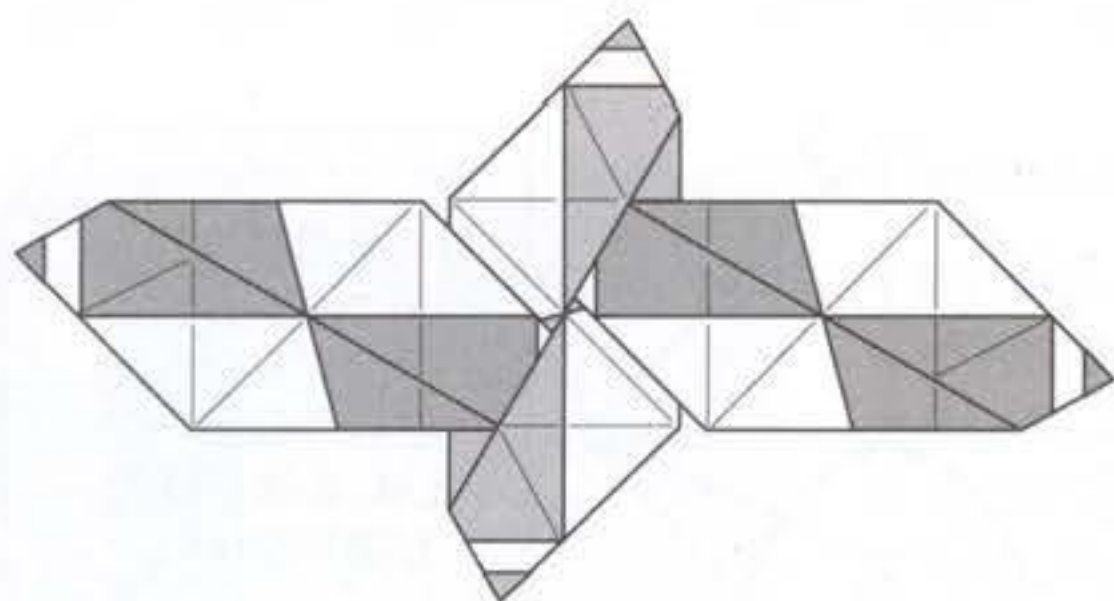




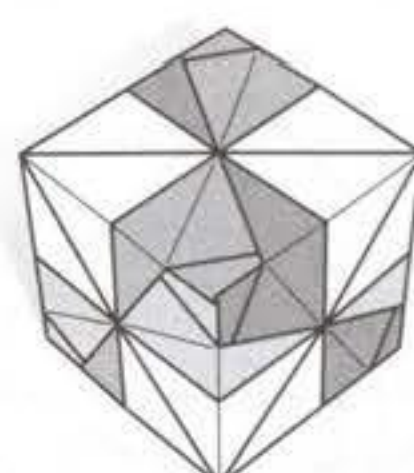
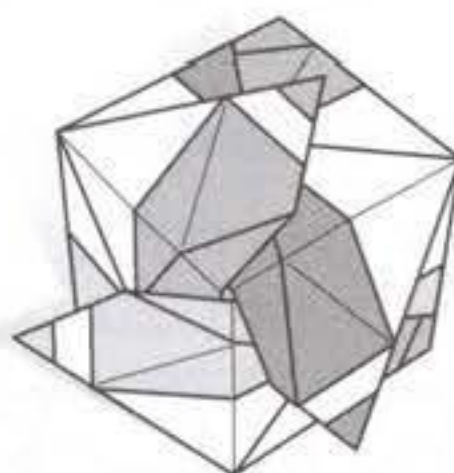
8と同じかたちまでもどします。



同じものを6つ
つくります。



組みかた。

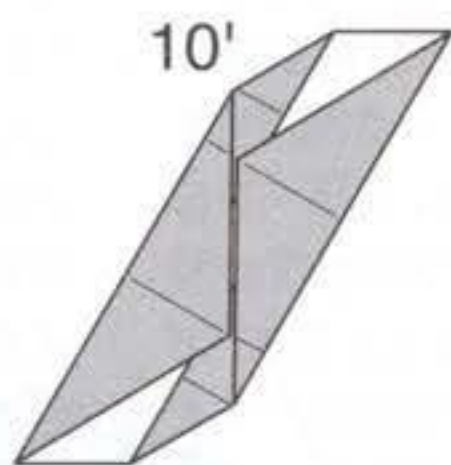


できあがり。
市松模様になります。

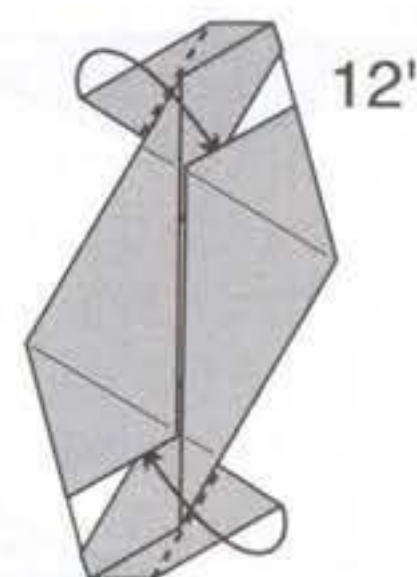
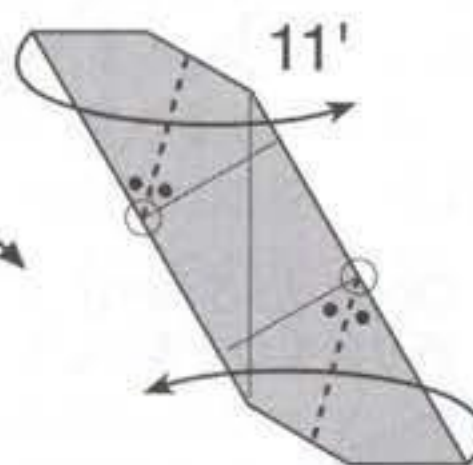
猫の眼立方体 Cat's Eye Cube

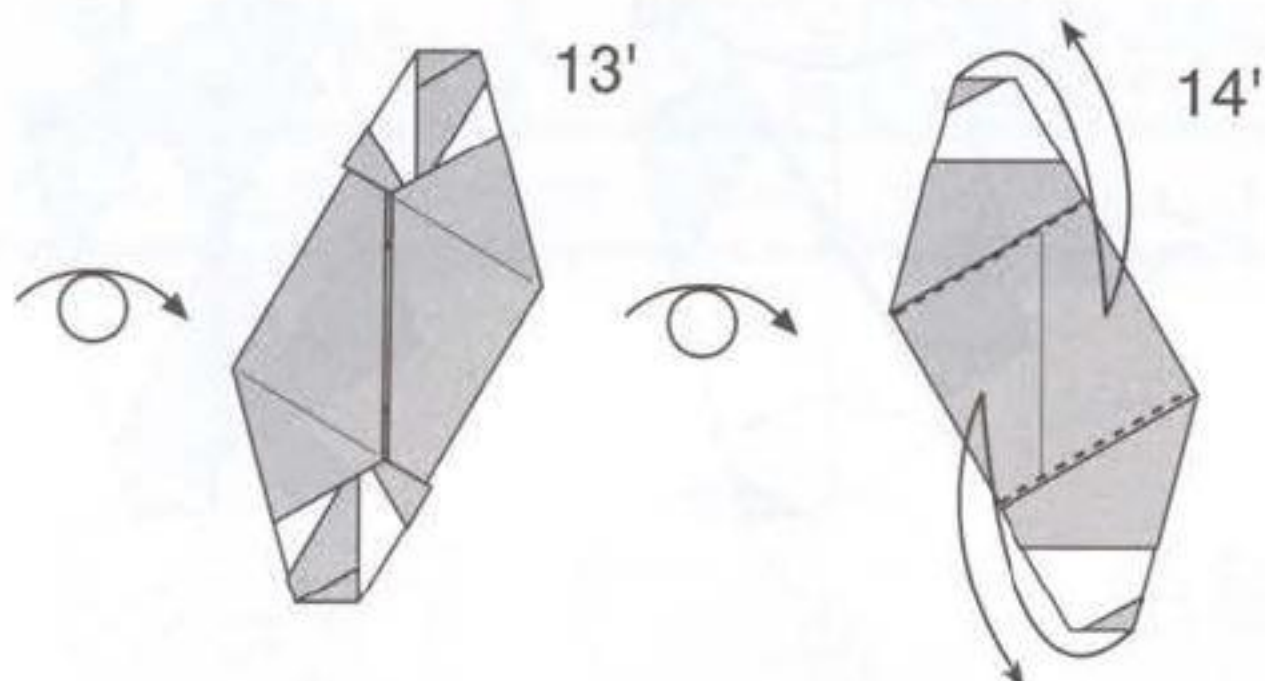
色鉛筆市松立方体の
バリエーションで
す。工程 10 から始
めます。

目つきの悪い眼のよ
うな模様が現れま
す。

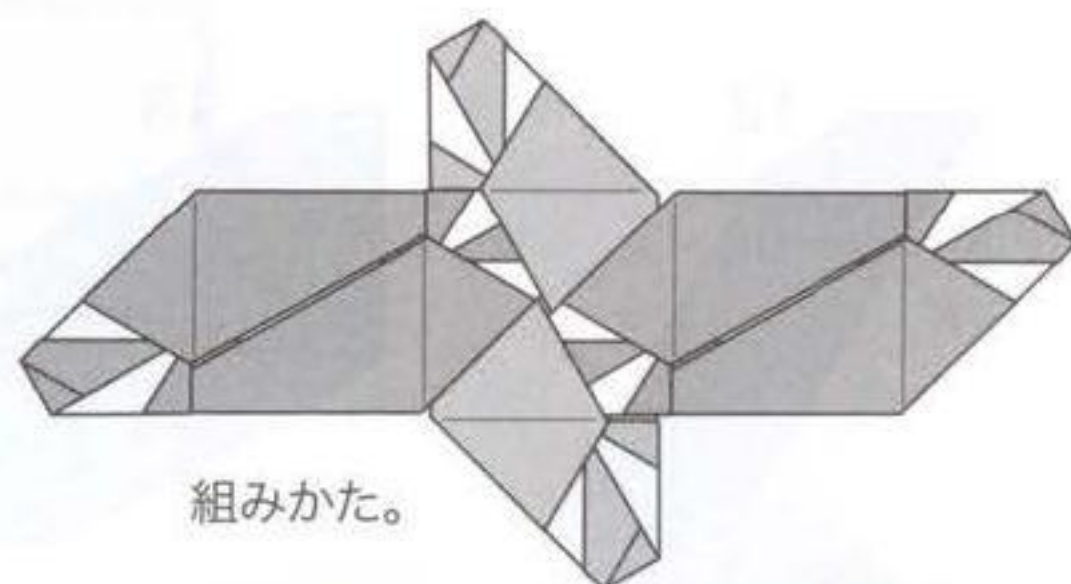


色鉛筆市松立方体の
10 から。

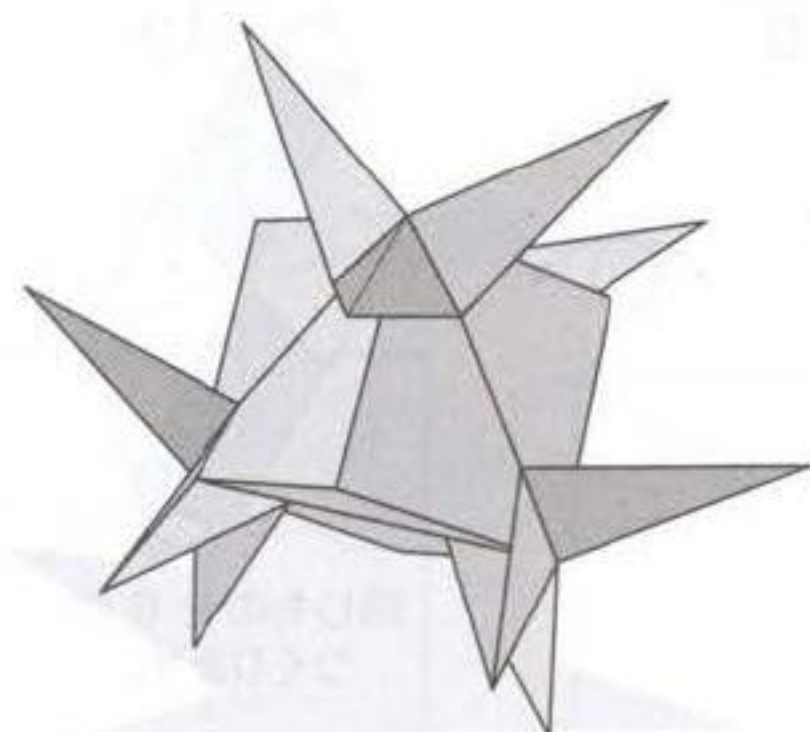




同じものを6つ
つくります。



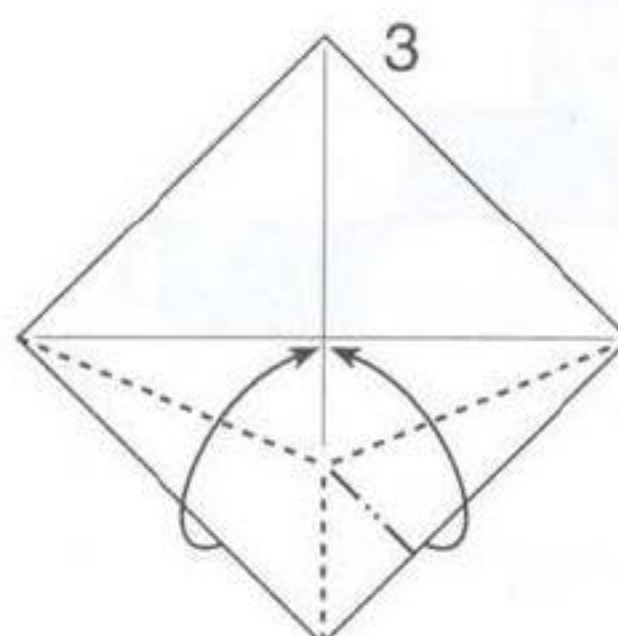
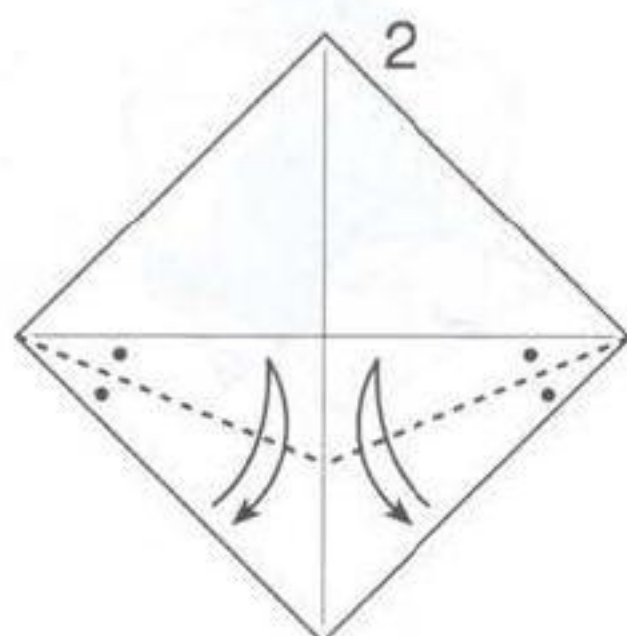
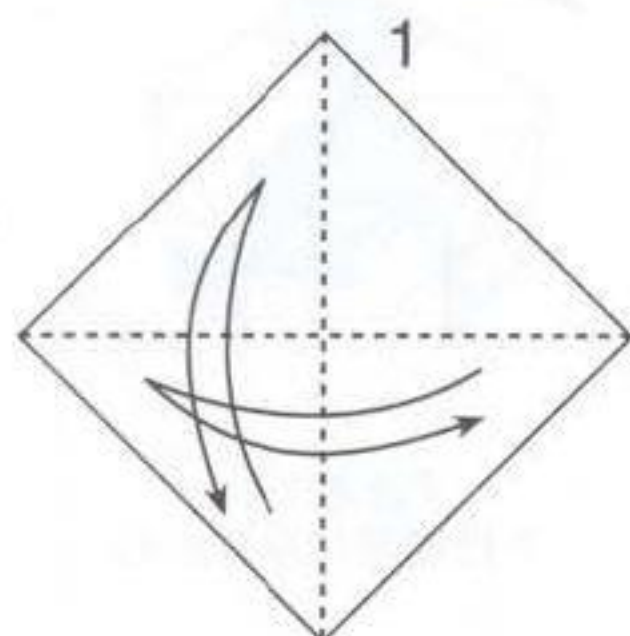
できあがり。



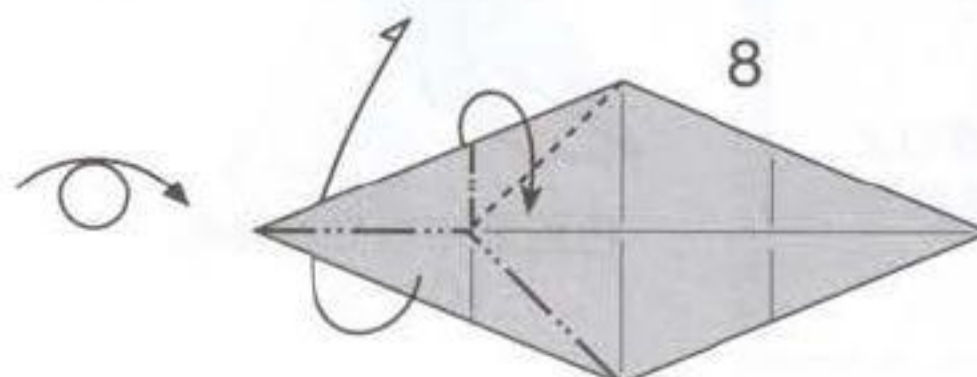
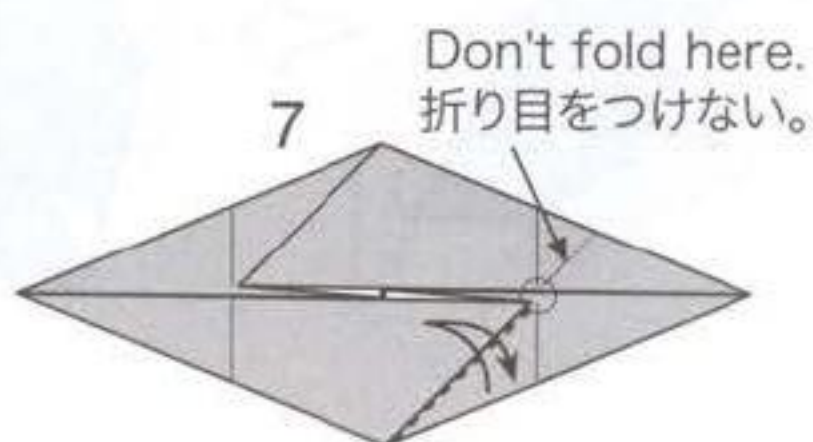
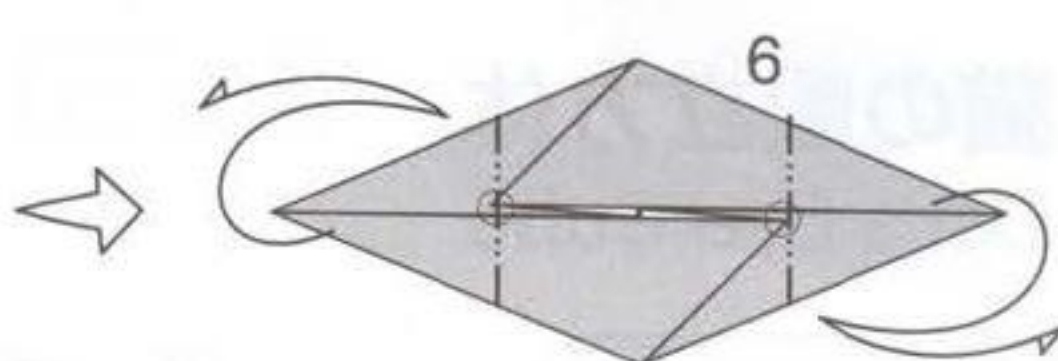
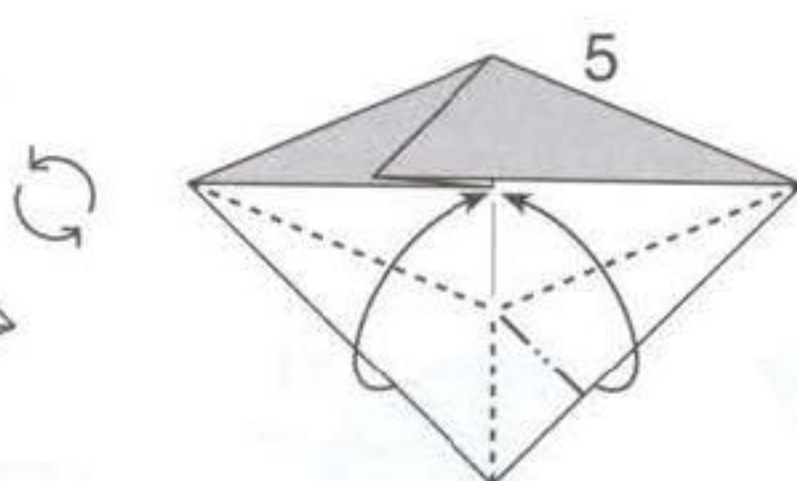
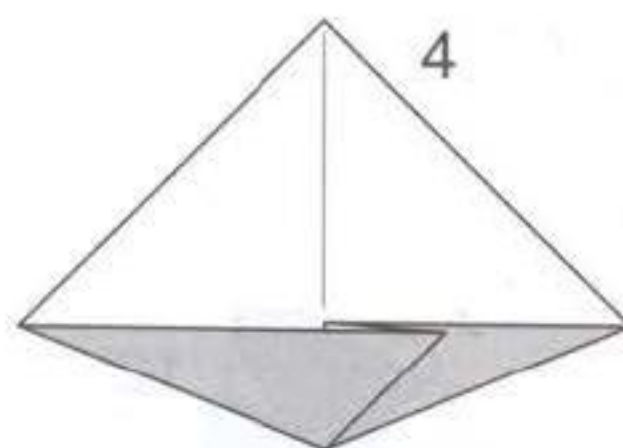
トゲトゲ立方体 Spiky Cube

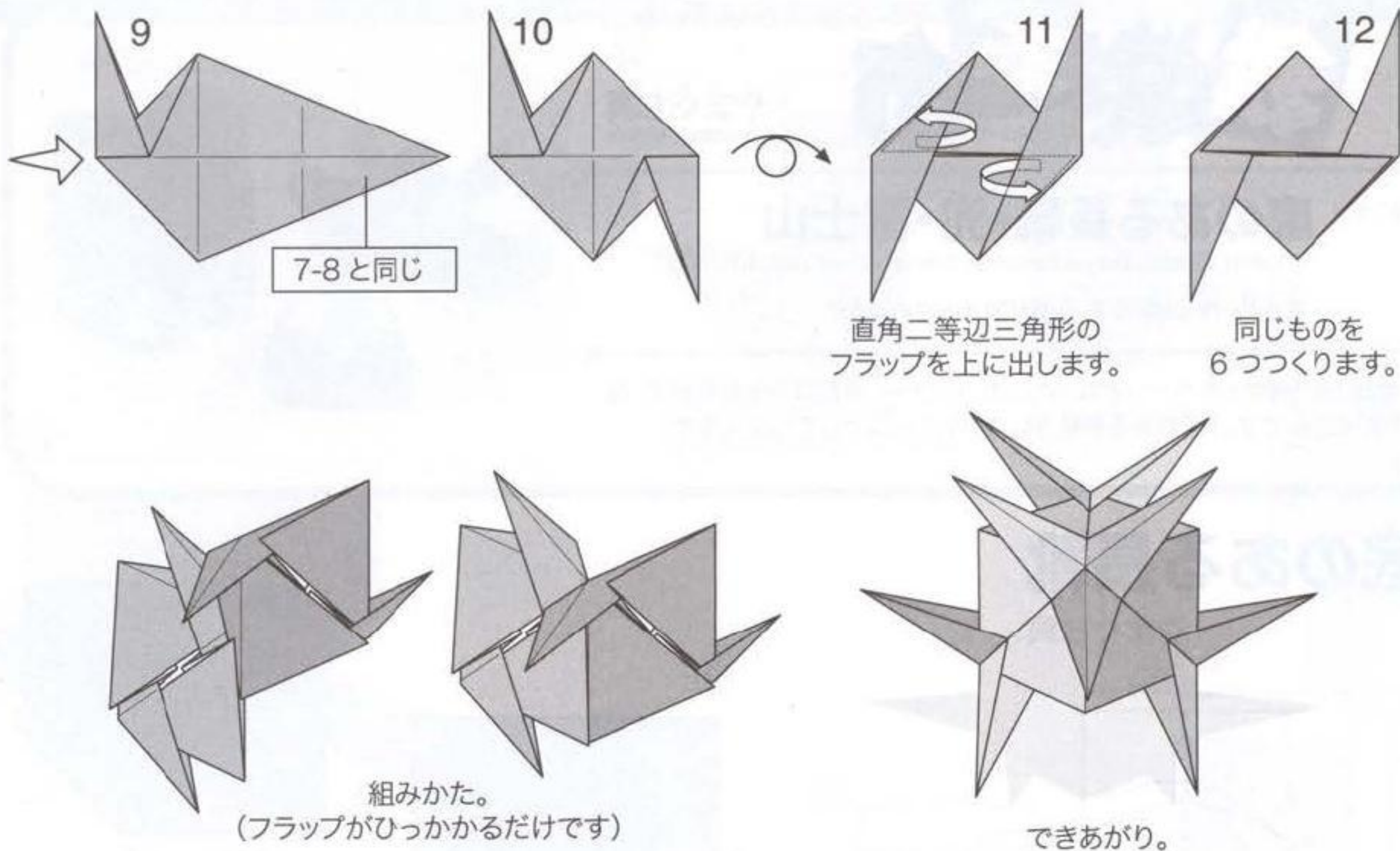


正方形6枚をつかいます。
3色をすすめます。



サカナの基本形か
らつくります。
フラップをひっか
けるような組みか
たは、あまり類例
がありません。





折り紙の 周辺

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

第63回

雪の日

A Snowy Day

関東や甲府に大雪が降った日、ここも大雪となり1メートル近く積もった。朝起きると停電していた。さっそく中部電力に電話を入れると「事態は把握しています」とのこと。冬の停電はきつい。毎年冬になると1回は停電する。田畑や家屋が放棄され竹や木が繁って雪の重みで断線する。今回は朝だったのでまだまし。夕刻の停電は心細く寂しく寒い。雪の降り方積り方から推測して、これは長引くと覚悟。さっそ

く買い置きの豆炭を起こしてコタツにいたり、連れ合いは道の雪かきをしているうち、午前10時ころには電気が通った。ああ、よかった。昨夜晩ご飯のとき、子供の頃数ヶ月停電して、毎晩石油ランプを灯して家族で夜はランプをしたことなど、停電のたのしい思い出を連れ合いに語ったが、今となってはそう無邪気になれないだろう。家の前の道は午後3時に除雪車が来て孤立は解消された。

子供の頃、冬のコタツは折り紙の指定席だった。家族もそろってコタツにあたり、それぞれ何かをしており、私は出来上がった折り紙を見せて意見をきいたり、ほめられたり、楽しく心地よかった。今はもうコタツではなくちゃんと机に向かって季節を問わず毎日折り紙をしている。そして折り紙の本を広げて見るだけでなく、折り紙の本を書いてい

る。たぶん今も変わらないのは、色とりどりの折り紙用紙を広げたとき、触ったときの、ちょっと心の浮き立つ感じだろう。そうそう、商標は忘れてしまったけれど、ある会社の折り紙用紙は色がよく落ちて、色水を作ったり、雪を染めて遊んだ。よく落ちる色とそうでない色があった。

連れ合いは今グリム童話に題材をとった版画制作をしている。日課の散歩のとき、その奇想天外な、浮世離れしたような、浮世そのもののような話をぽつぽつ聞く。魔法にかけられてカラスになった王子たち、キャベツを食べてロバに変身する狩人、ゆえあってガチョウの番をしている王女、王様、よこしまな后、魔法使い……するうち、はて、こうして歩いているのは、夢か現か……。道は白一色。だれもいない。雪は不思議な力を持つ。景色が変わり、世界も変わる。

第65回 **底のある長靴・兜・富士山**

Rubber Boots, Boy's Festival Samurai Helmet, Mt. Fuji

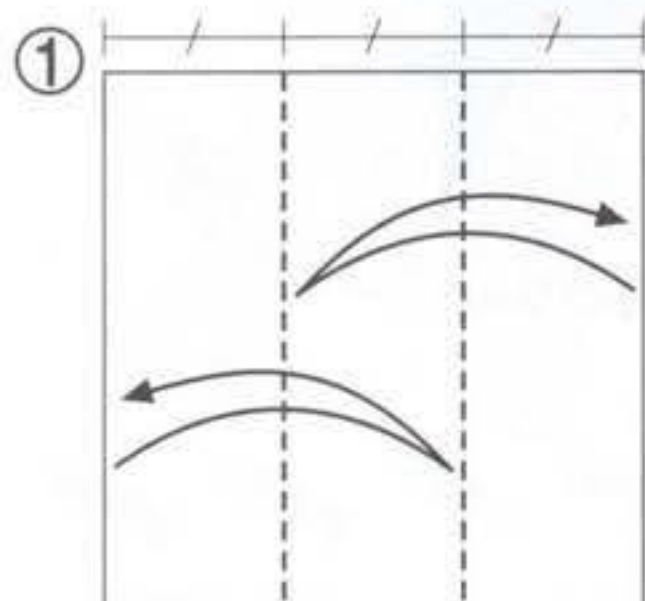
富士山・作:山梨明子 / 折り図:おりがみはうす

本誌143号から5ページとなったこのコーナー。今回は3作品掲載で、盛りたくさんです。「底のある長靴」は、ギフトケースとしても使えます。



底のある長靴

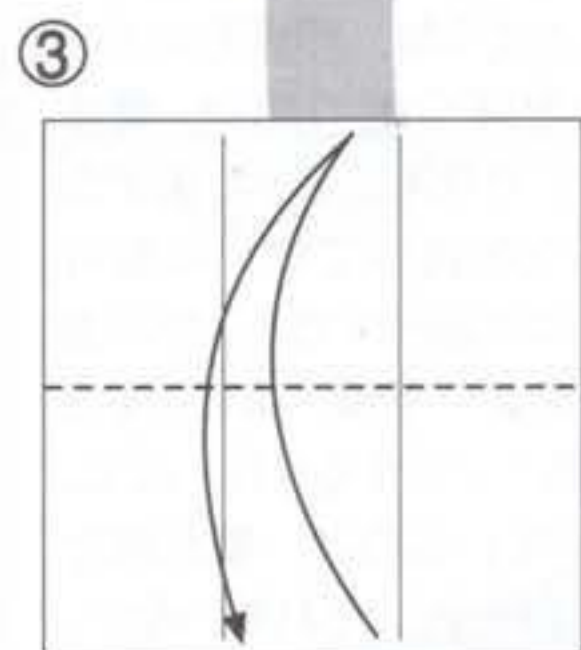
やまぐち真



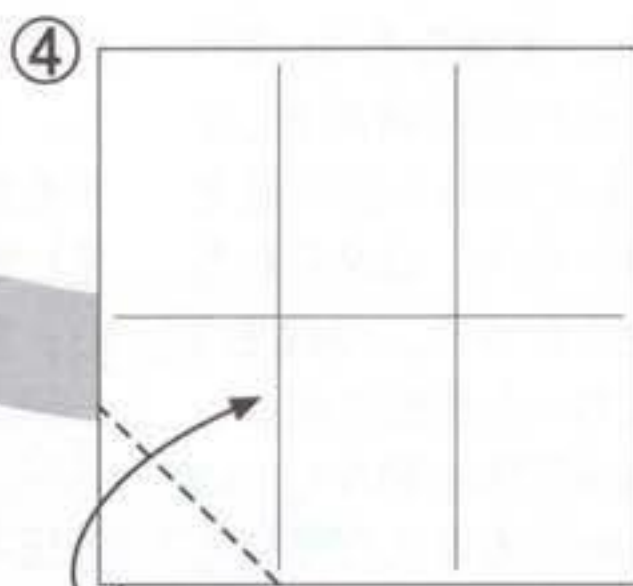
1/3のはばで
折りすじをつける



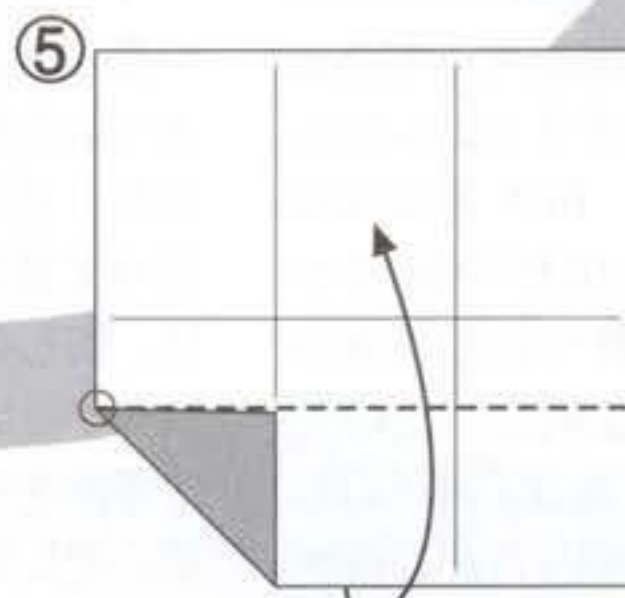
このようにして
折りすじを
つけるとよい



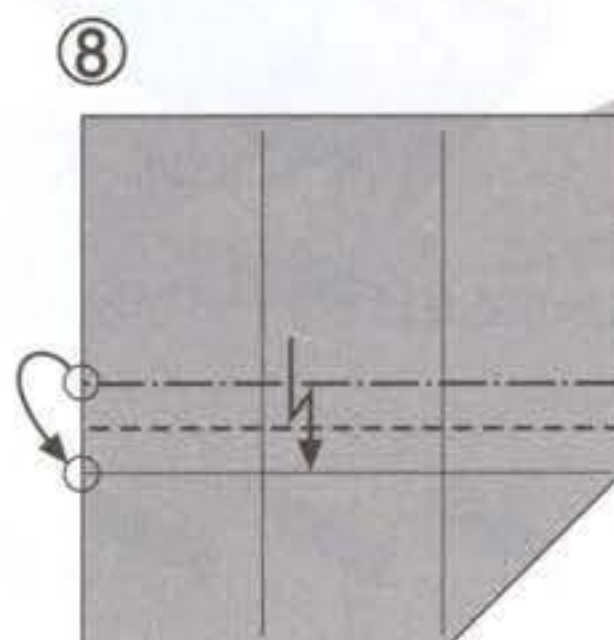
半分に折りすじをつける



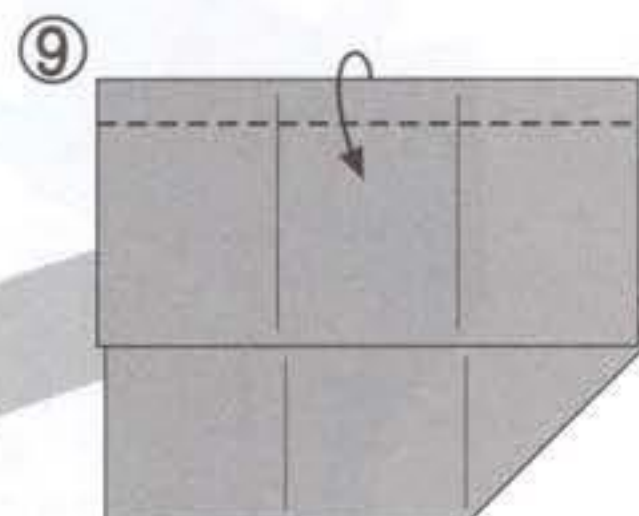
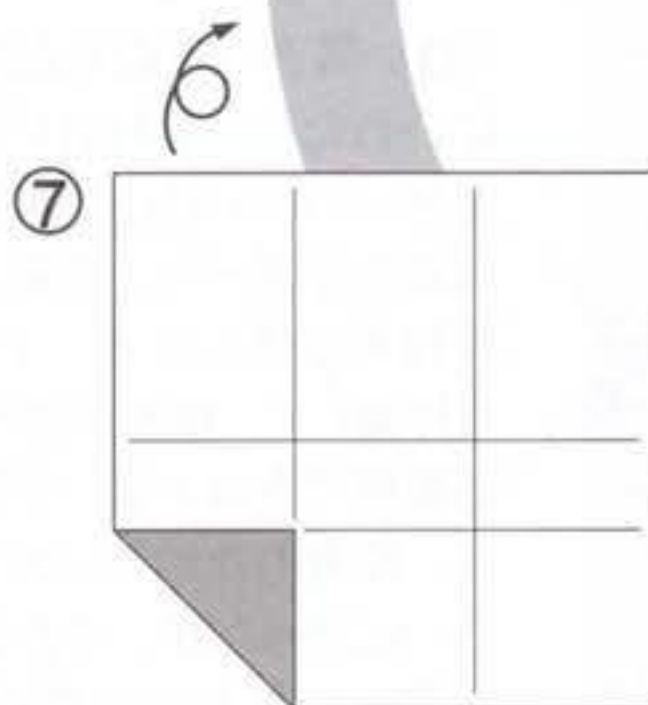
フチを折りすじに
合わせて折る



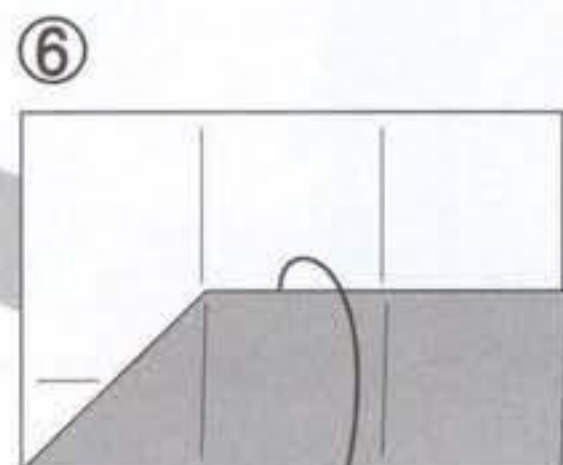
○のところで
フチを上へ折る



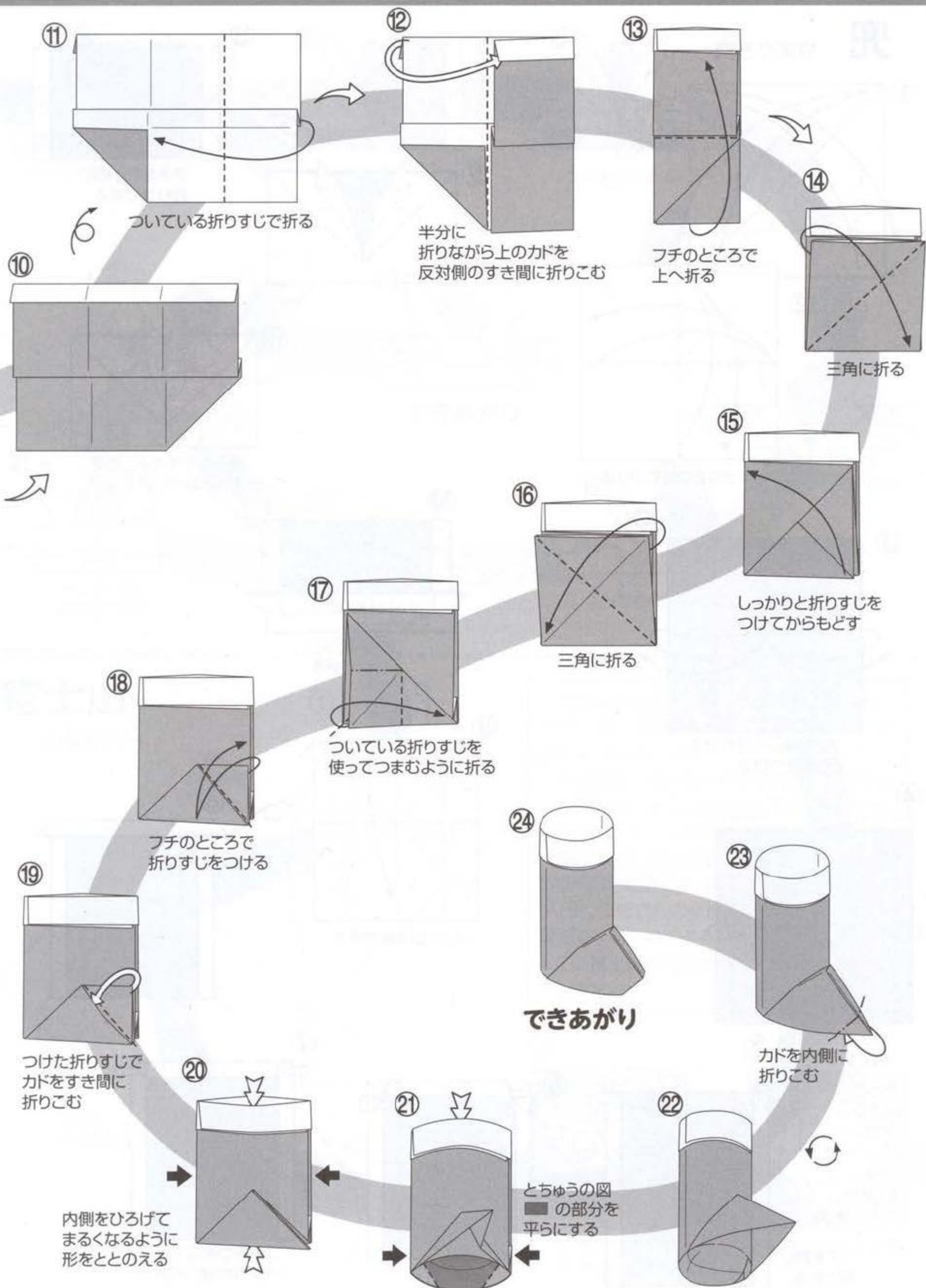
半分のはばでだん折り



フチを少し折る

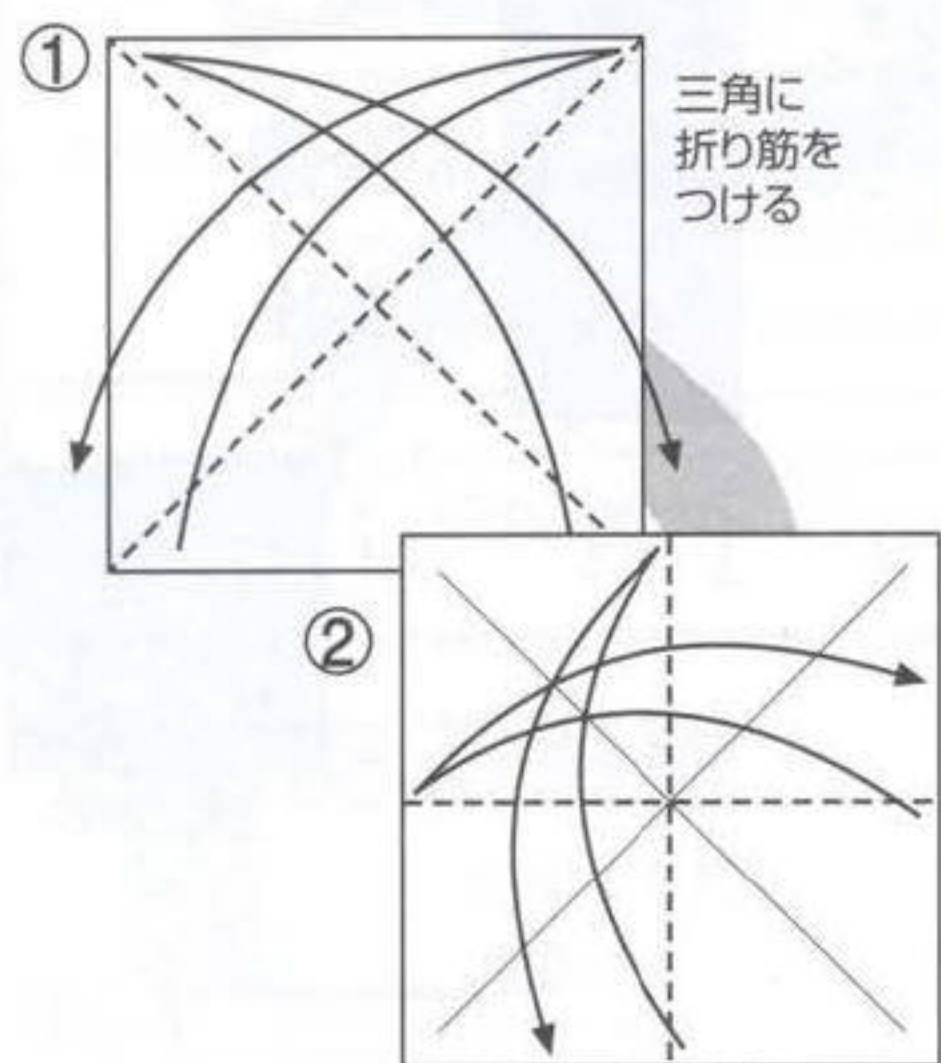


しっかりと
折りすじを
つけてからもどす



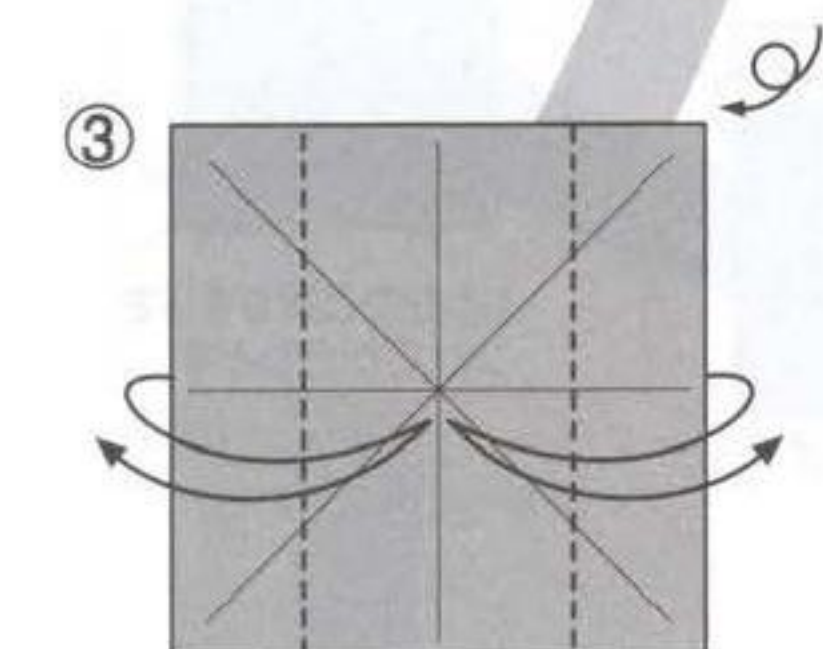
兜

やまぐち真

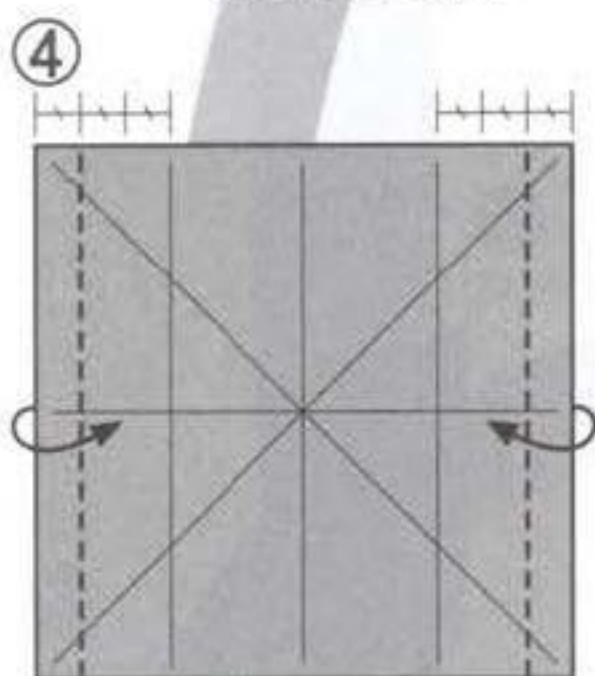


三角に
折り筋を
つける

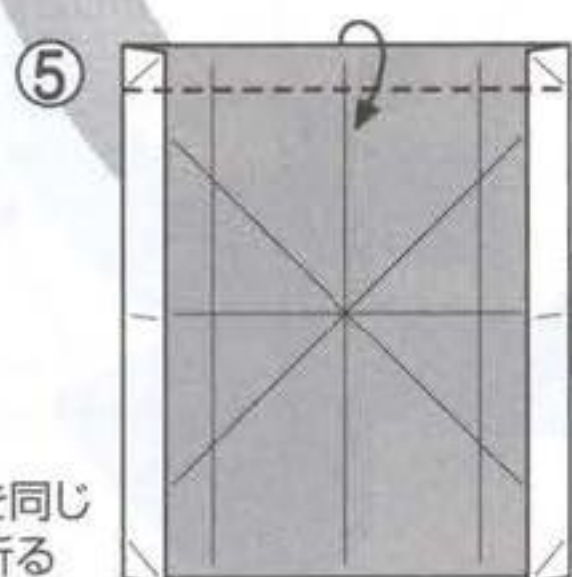
半分に折り筋をつける



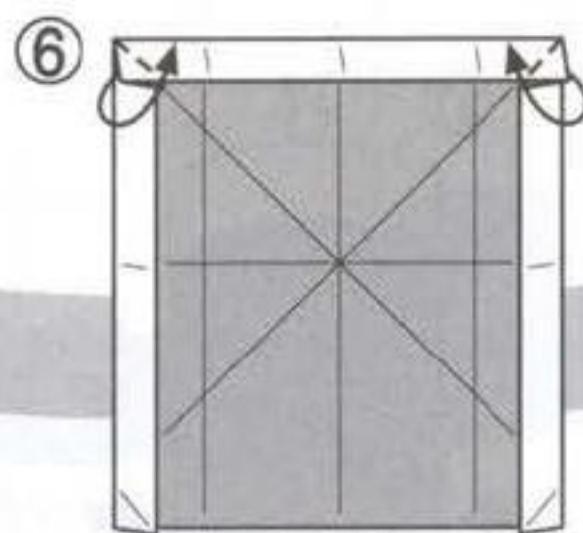
フチを中心に
合わせて
折り筋をつける



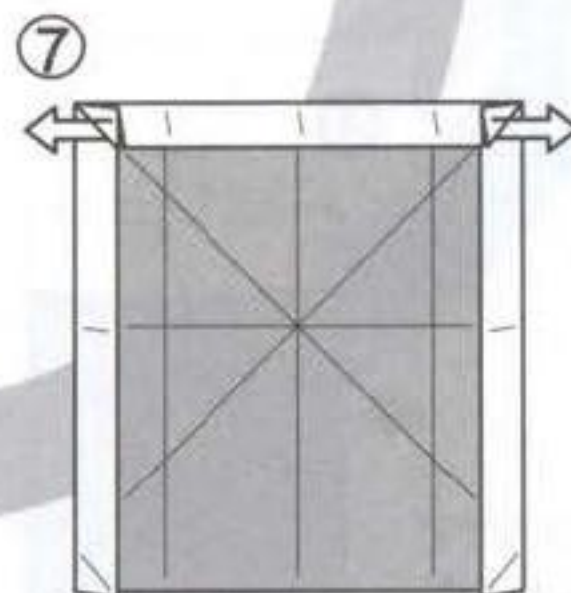
フチを1/3くらいの
幅で折る



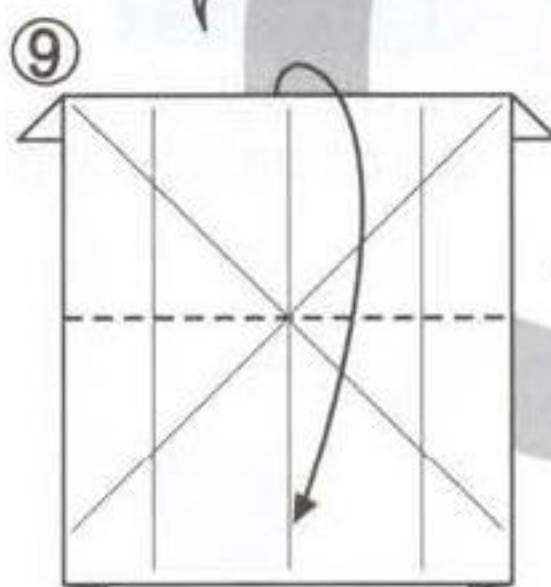
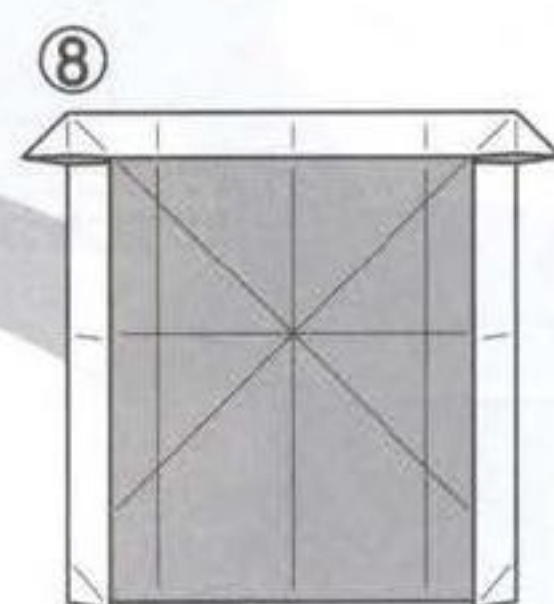
フチを同じ
幅で折る



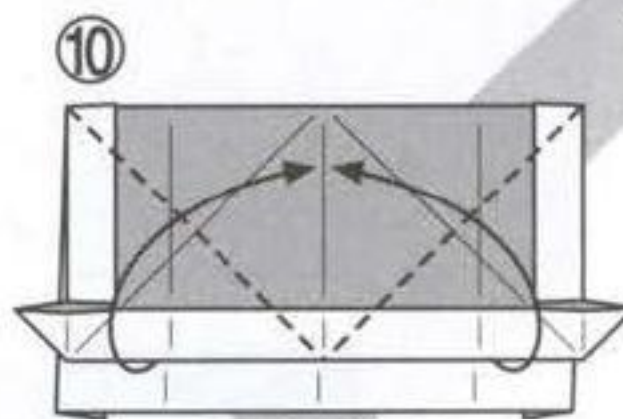
三角に折る



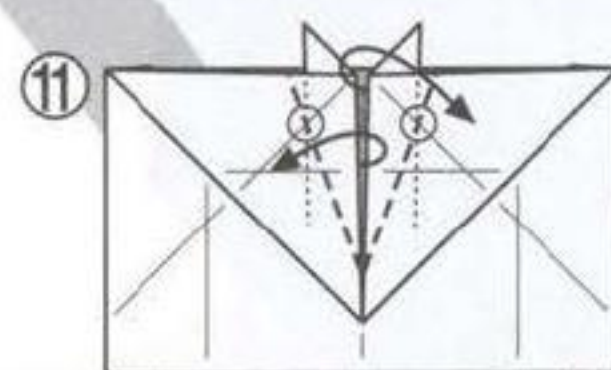
カドをつまんで
引き出すように折る



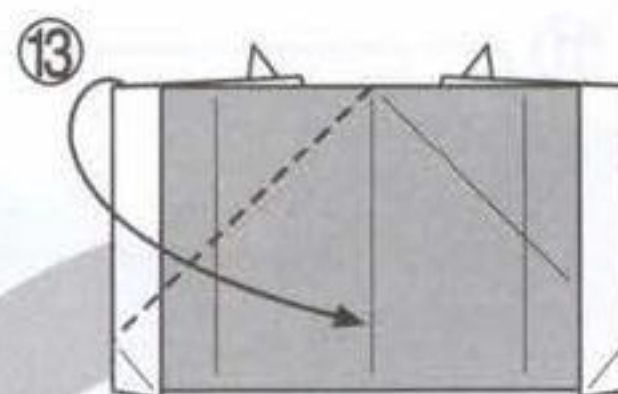
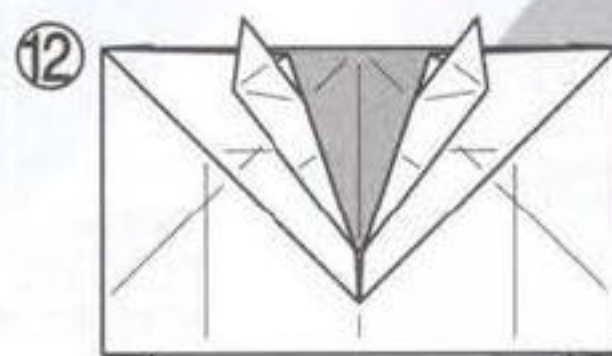
ついている線で折る



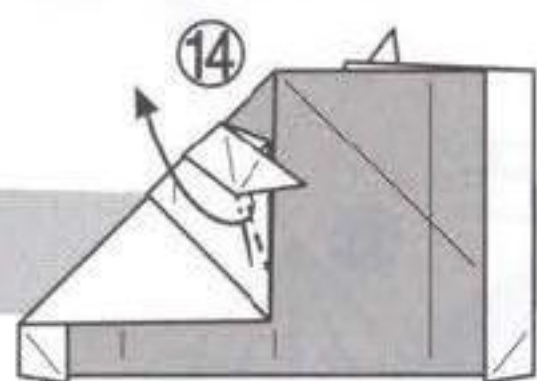
フチを中心に
合わせて折る



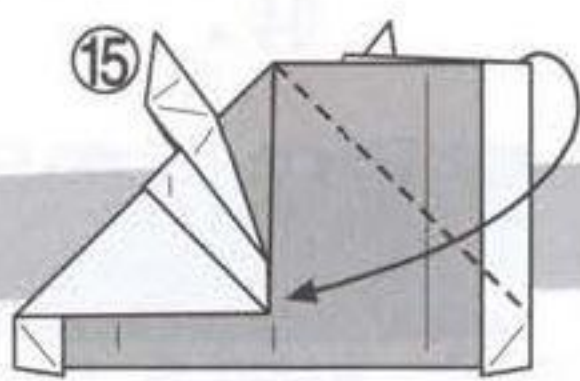
後ろのフチのところで
カドを斜めに折る



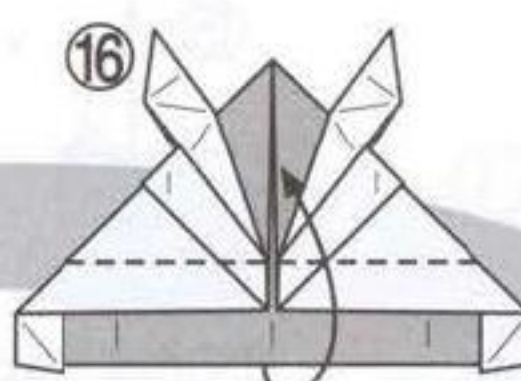
フチを折り筋に
合わせて折る



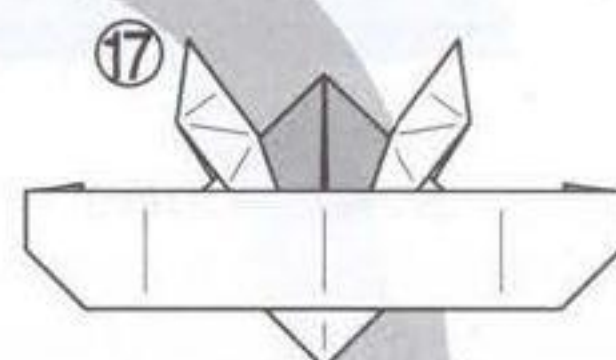
カドをつまむように折る



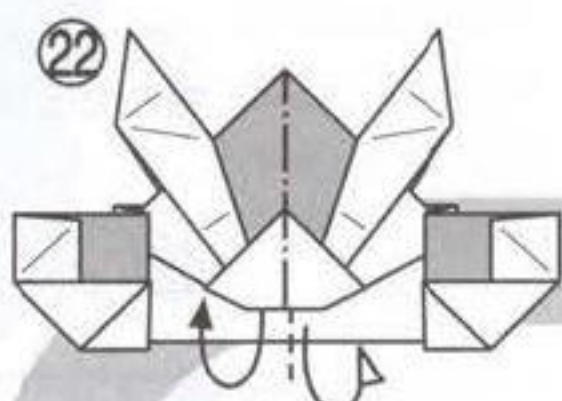
反対側も⑬～⑭と同じように折る



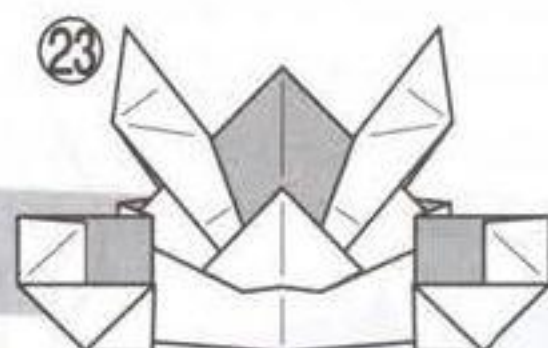
フチを上へ折る



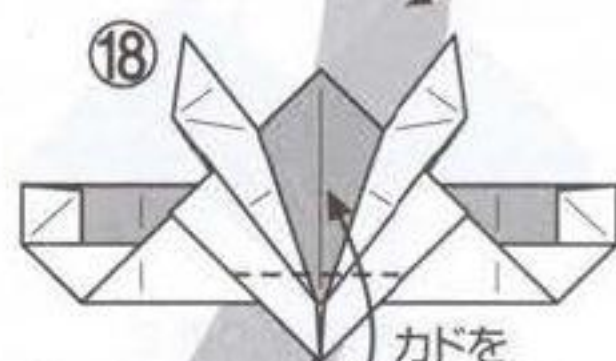
⑬



かるくひろげて
立体にする

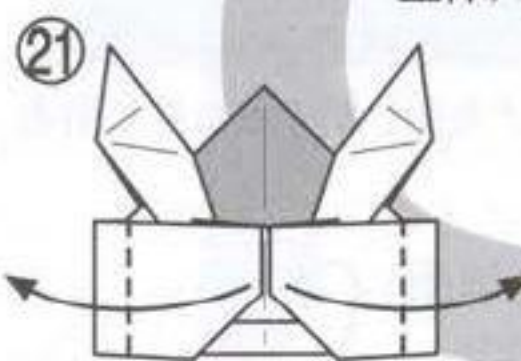


できあがり

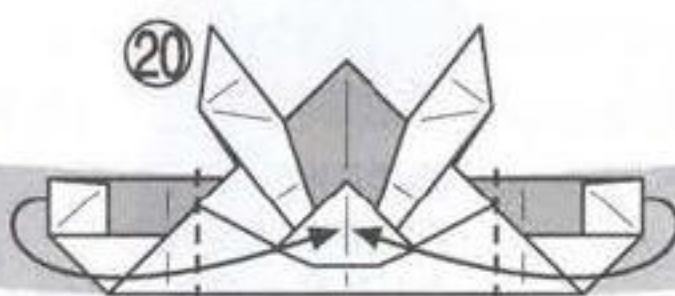


⑬

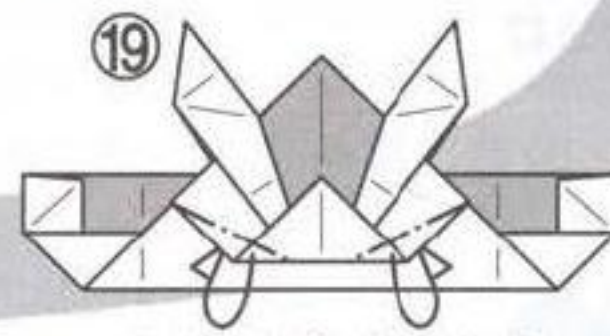
カドを
上へ折る



ついている
折り筋で折る



フチを中心に
合わせて折る



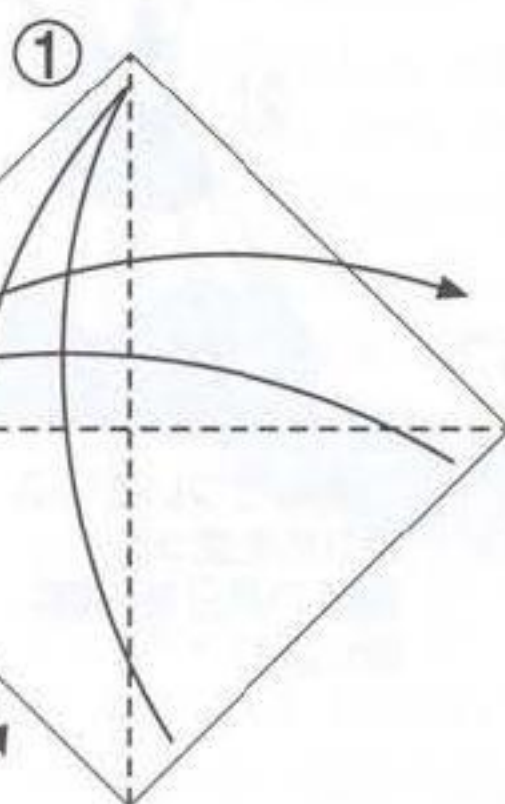
⑬

カドを内側に折り込む

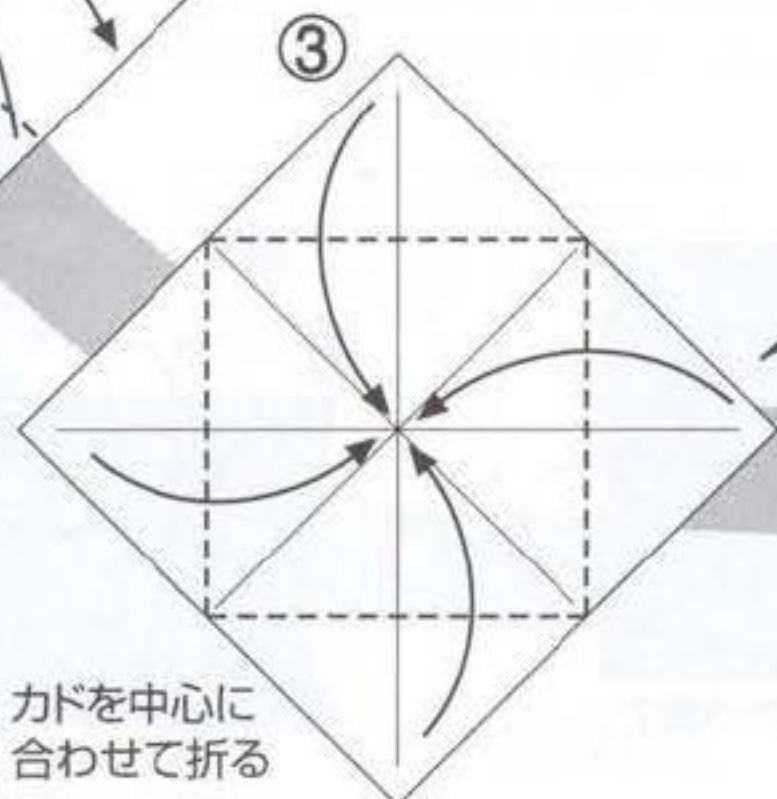
富士山

山梨明子

三角に
折り筋を
つける

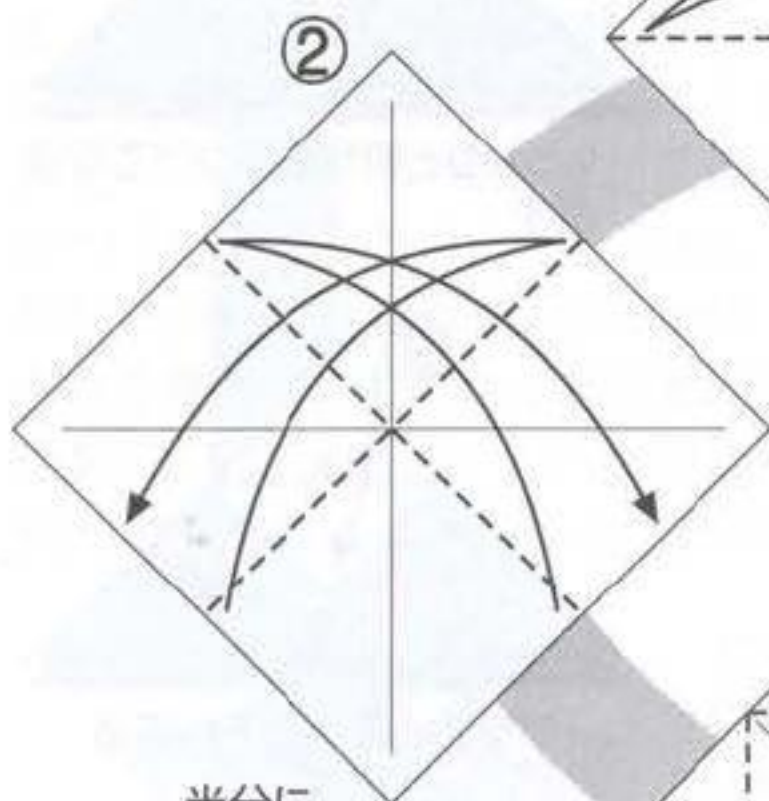


③



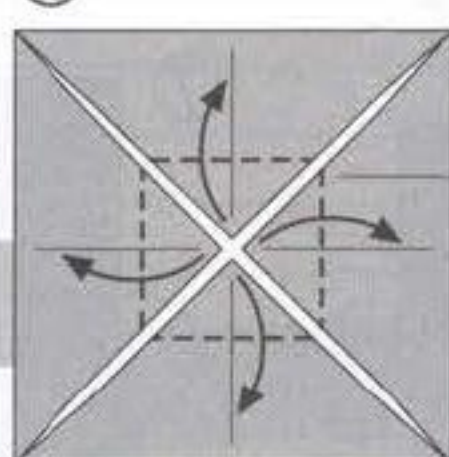
カドを中心に
合わせて折る

②



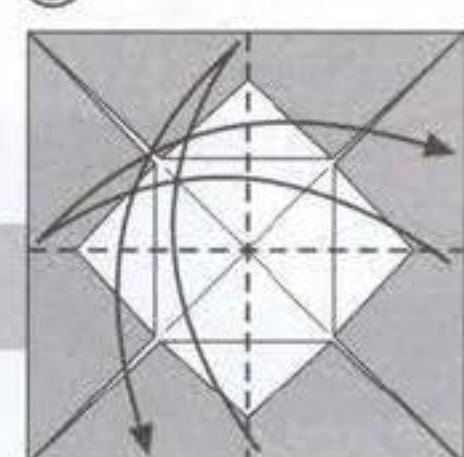
半分に
折り筋をつける

④



カドを1/3より
少し大きく折る

⑤

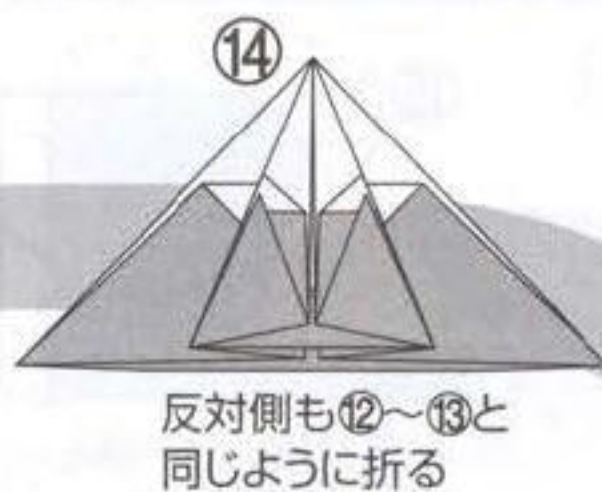
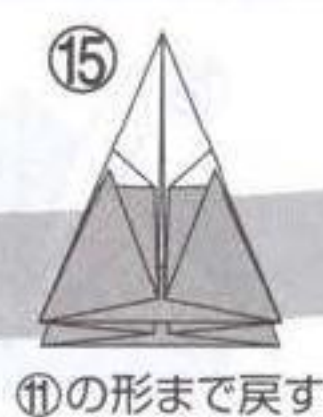
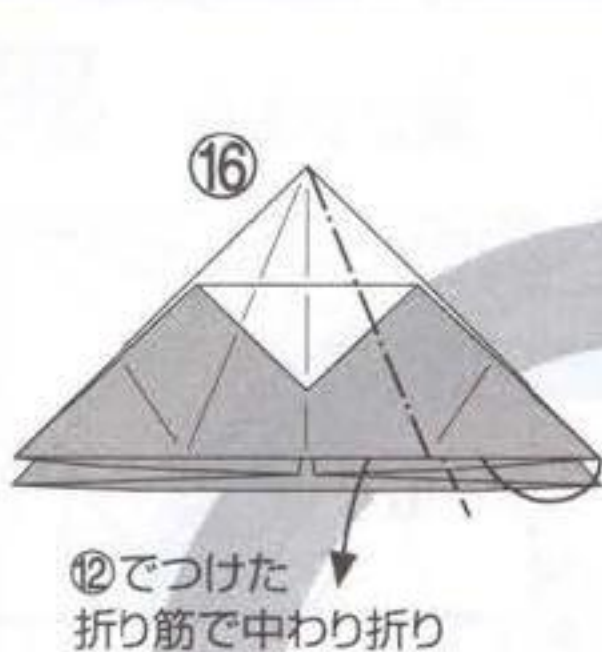
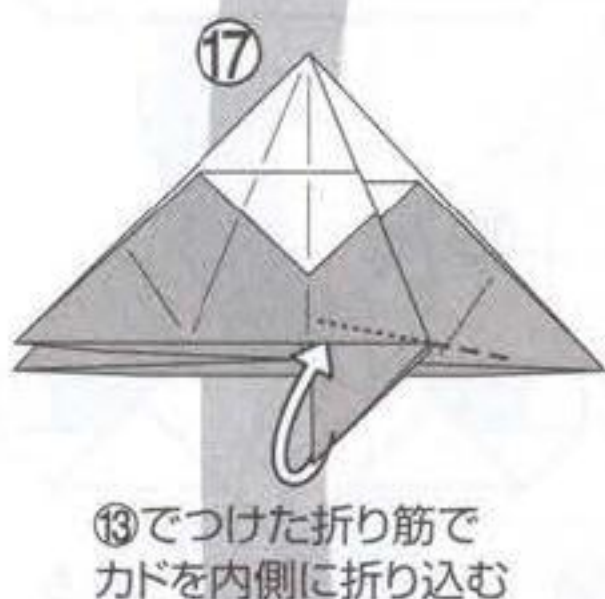
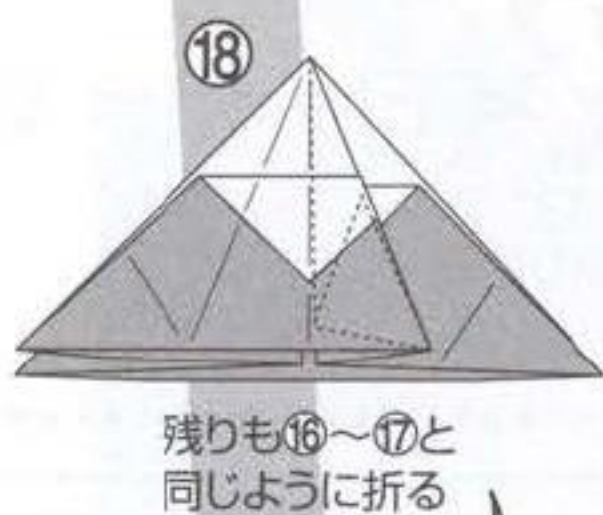
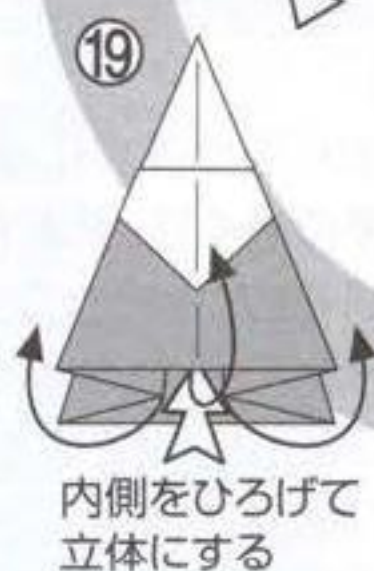
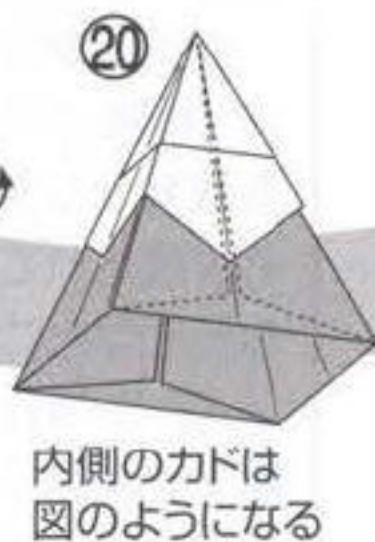
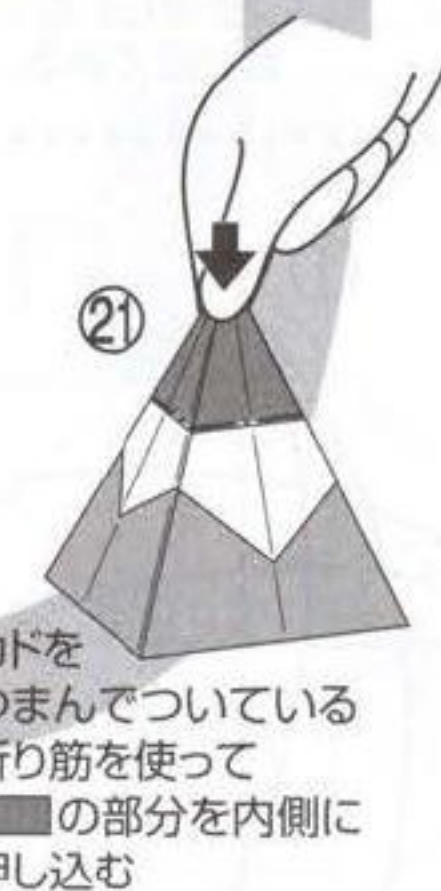
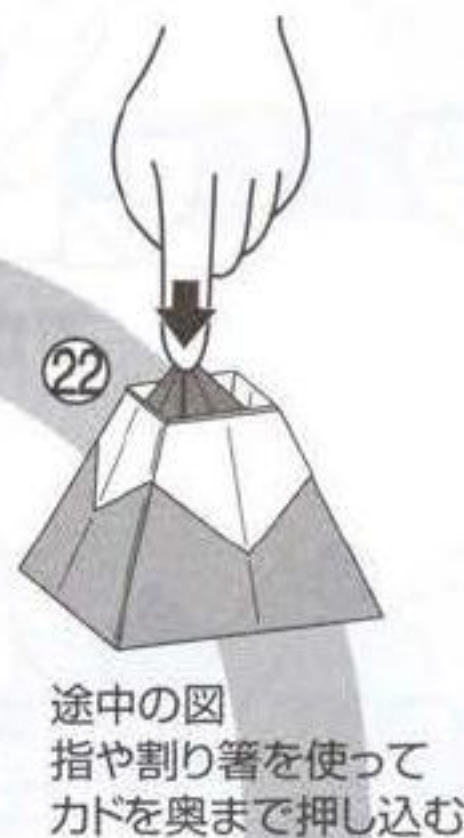
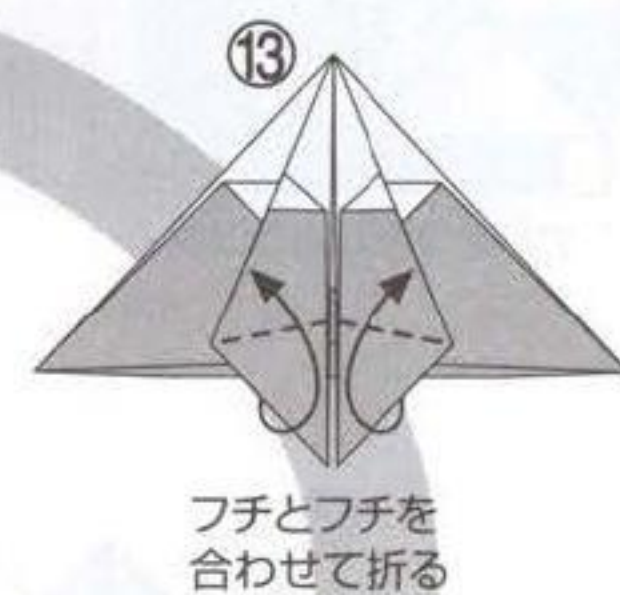
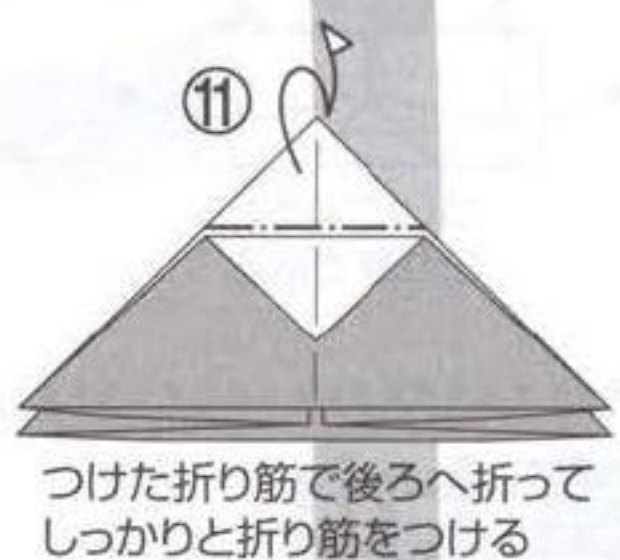
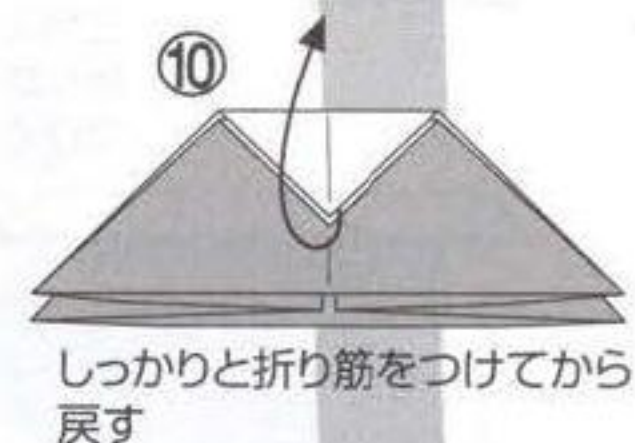
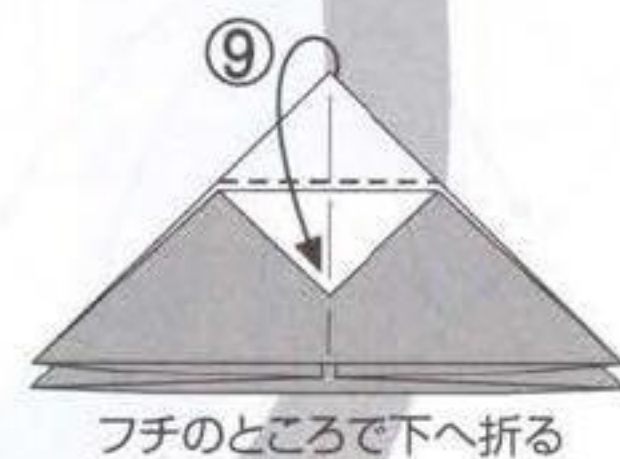
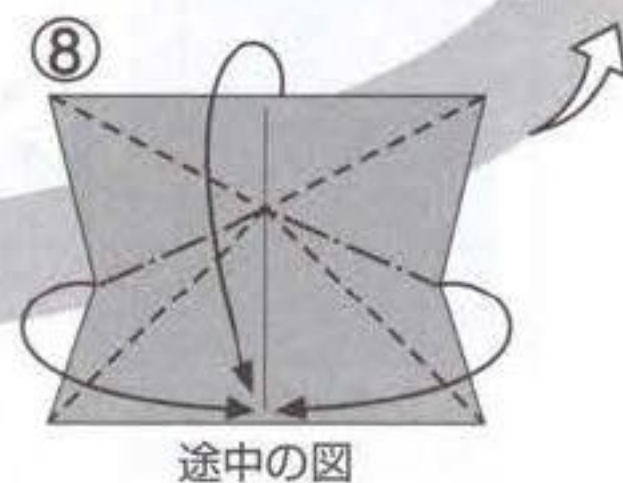
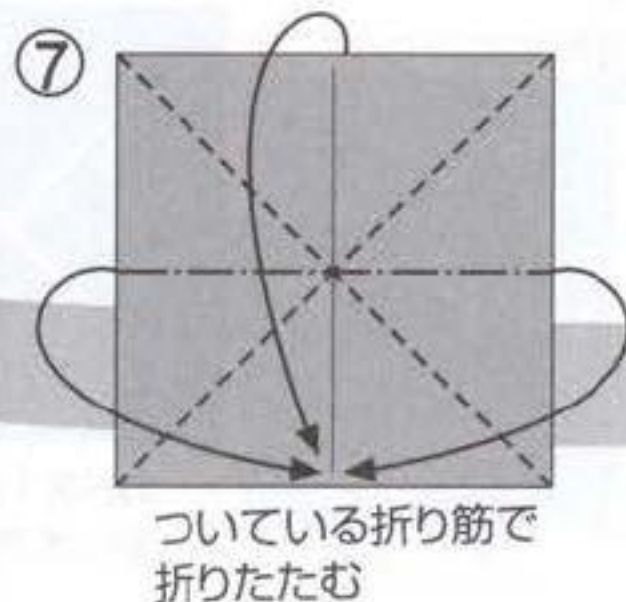
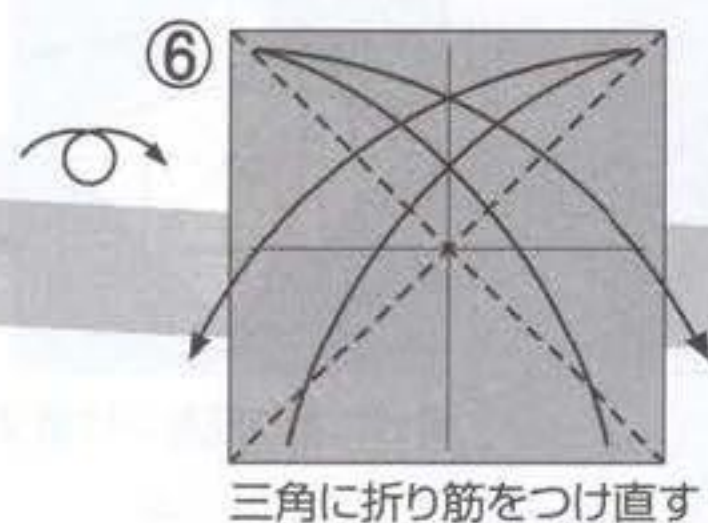


半分に折り筋をつけ直す

今年の名古屋コンベンションは10年振りに静岡に移して開催されることになりました。(会期は11月22,23日)

会場は富士山に含まれて世界文化遺産となった景勝地三保の松原の近くで、東海大学社会教育センター三保研修館というところ。宿泊も併設されており、移動する手間も省け、とても便利なところ。まだ少し先ではありますが、多くの皆さんの参加をお待ちしています。観光をかねて参加するのも良いでしょう。

この富士山の作品はそれを記念して紹介しています。



五本指の手の歴史と、自作品への応用

A History of "A Hand with Fingers" and Its Applications

北條高史

Hojyo Takashi

■はじめに

1970年代までは、「折り紙人物像の手」に使える技術・技法は非常に限られていた。「腕となるカドの先端部分を、少し広げたもの」や「親指と他の指を分離して、ミトンのような形にした手」は存在したが、それ以上の複雑さを持つ作品はなかなか現れなかった。

これらの「手」を組み込んだ作品の中には、全体として非常に優れた形状バランスに至る作品もあった。しかし、「折り紙をしたことがない鑑賞者」からは、技術的に未熟なものと捉えられることも多かっただろう。

そのような状況が、1980年に大きな転機を迎える。前川淳氏の「悪魔」が雑誌『サイエンス』（現・『日経サイエンス』）で発表され、「五本の指が枝分かれしている表現」を技術的に達成可能であることが示されたのである（図1、図2）。

「悪魔」を含む前川氏の作品群を収録した『ビバ!おりがみ』（1983年）によってもたらされた影響は絶大であった。人物や動物に使用できる「手」の表現バリエーションが一気に広がり、かつては考えられなかったほどに豊かになった。複雑な構成から導き出される豪華さ・こまやかさに加えて、さまざまな感情のイメージまでも、比較的容易に作品に盛り込むことが可

能となったのである。

この技法に魅了された者にとっては、「どんな作品にでも、とりあえず五本指を組み込んでしまった」ということは共通の思い出だろう（もちろん筆者（北條）も、である）。そのような状況のもとでは当然の如く、「五本指の技術を安易に使用して、バランスが破綻した作品」も多数発生することになった。そうした作品を木村良寿氏が『季刊をる』16号で「迷走」と評するなど、この問題点はさまざまなところでたびたび指摘されている。

この時期以降の創作者たちは、以前には想像もできなかったほどの「表現の可能性と自由度」を手に入れたと同時に、それに伴う大きな悩みを抱え込んだことは間違いない。このような状況を総合した上で、「やっと、現代折り紙のスタート地点に立った」ということなのかもしれない。

さらにその後、前川作品からの応用や、別の新規な構造・デザイン方針を盛り込んでさまざまな特徴を備えた「五本指の手」が、創作家たちの研究によって生み出されるようになった。筆者はこれまで、長期間にわたって人物造形に取り組んできたこともあり、それらの技法のほとんどについて、積極的に自作品に組み込んで実験を繰り返してきたつもりである。

そこでここからは、技術面・形状面で特徴のある「五本指の手」を組み込んだ代表的な作品と、それを参考に筆者が作成した応用例を見ていくことにする。北條作品で出典を記載していないものについては、「現代折り紙」（<http://origami.gr.jp/~hojyo/index.htm>）をご覧ください。それ以外の作品については可能な限り、創作年と出典を記載した。

以下、現時点で筆者が確認できる範囲の情報・知識に基づいて書いているが、見落とししていることがあったり、今後新たな史料が発掘される可能性もある。そのような場合には是非、日本折紙学会（webman@origami.gr.jp）宛で情報をお寄せいただきたい。

■「源流」ー 前川「悪魔」「両手」「鬼」

前川氏の「悪魔」の手（図2）は、22.5°の角度構成を基調とし、用紙のカドの部分に配置して使用する構造である。それに加えて『ビバ!おりがみ』では、「両手」などの作品で使われた「蛇腹構造に組み込むパターン」（図3）や、それらの融合技術と捉えるべき「鬼」の手（図4）も示されている。これらの構造が、今日さまざまな形に応用されている五本指表現の、すべての源流と考えられる。

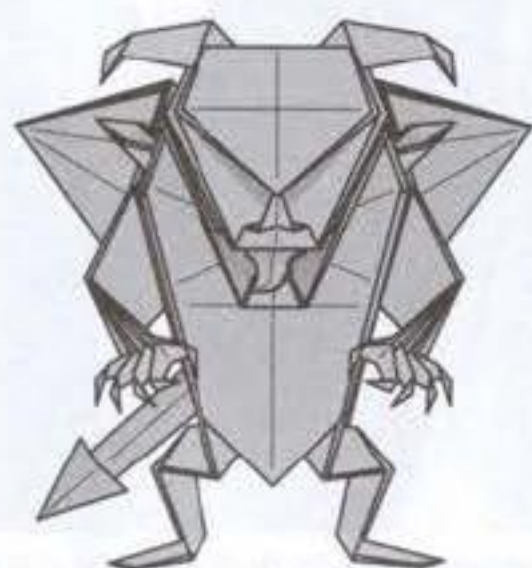


図1 「悪魔」完成形
（作図：小松英夫）

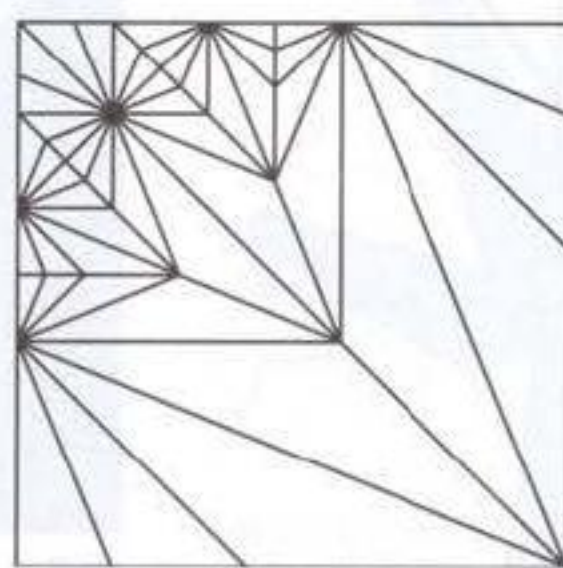


図2 「悪魔」の手の展開図

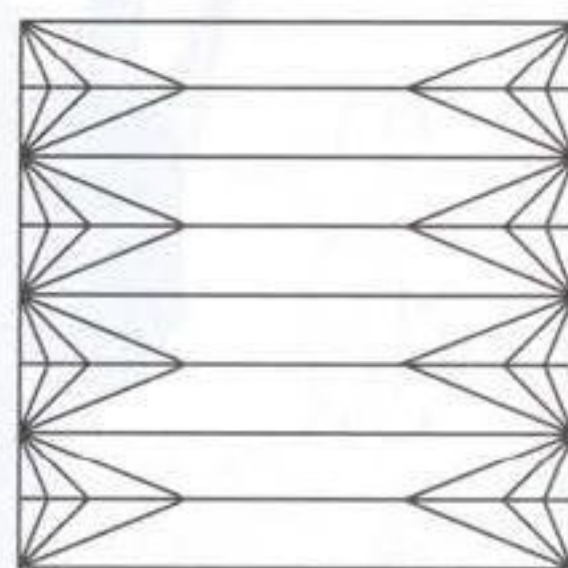


図3 「両手」の展開図

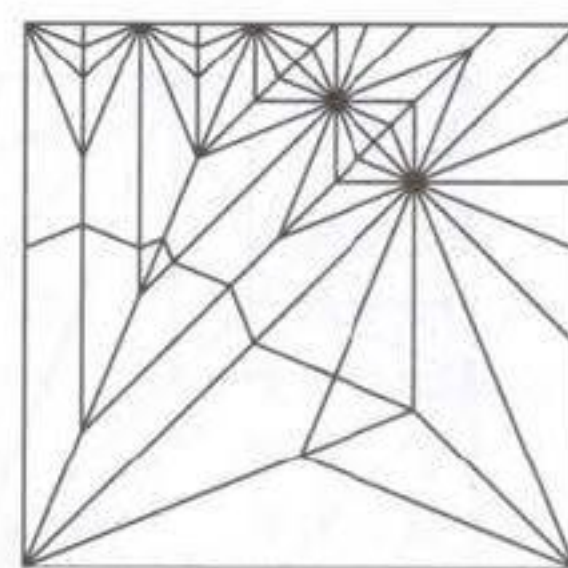


図4 「鬼」の手の展開図
（作図：小松英夫）

五本指の手の歴史と、自作品への応用

A History of "A Hand with Fingers" and Its Applications

北條高史

Hojyo Takashi

「悪魔」の手の展開図を見たときに、「中指にはカドの部分を使うほうが(図5)、指をさらに長く折り出すことができる」と思いつく人もいるだろう(この構造は、図3の構造を用紙のカドに配置した場合、と解釈することもできる)。しかし「悪魔」の手では、「カドを折り込んで、中指部分の用紙の重なりが増えたことにより、中指が薄くなりすぎることを防いで存在感が増す」という利点がある。

ところが、図5の構造を積極的に、有効に活用した作品も存在する。宮島登氏の「死神」だ(『折紙探偵団コンベンション折り図集Vol.5』に折り図収録)。この構造を使うことにより「すべての指にインサイドアウトで色の筋が入る」のだが、それが「異形の手の甲」の雰囲気を出しているように見えるのだ。

逆に、この構造を消極的な方向性で使っているのが拙作「珊底羅大将」(2013年創作、本誌前号p.25に写真掲載)である。作品全体を力強いイメージにするために厚めの紙を使ったのだが、握り拳を作る際に「悪魔の手の構造」では中指が厚すぎて曲げられなくなってしまった。そこで右手には図5の構造を使い、中指は最終段階の仕上げ加工で膨らませている。それに対して「ひらいている左手」には、「悪魔」と同じ中指を使っている。

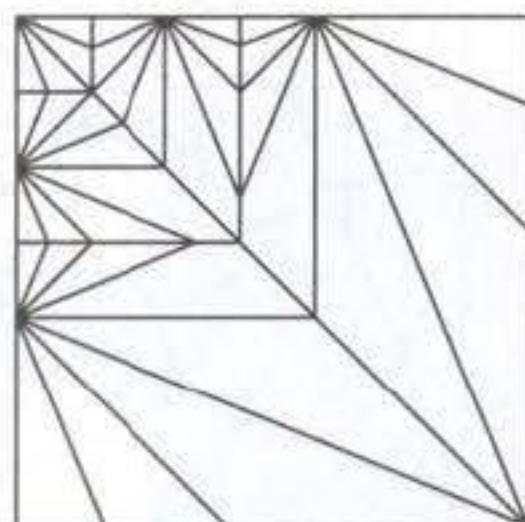


図5 指が少しだけ長くなる構造の「手」

■「手のひらと拇指球の表現」— 西川「仏像」・小松「ミノタウロス」

20年ほど前に制作された西川誠司氏の「仏像」が、「明確に『手のひら』の具体的な表現を盛り込んだ作品」としては最初のものではないかと思う。技術面の概略としては、「悪魔」の手の「中指で用紙が重なっている部分」の下端を、引き出して広げるというものである(図6)。ちなみに、『季刊をる』3号(1993年)誌上の西川氏による記事「生物造形講座」では、手のひらの表現がテーマとして採り上げられている。記事内では「鳥獣戯画の蛙」(『西川誠司作品集』に折り図収録)に於ける「親指を他の指から離すこと・拇指球(親指の根元の肉)を表現することによって、手のひらと甲を区別する」技法について説明されている。その記事内では触れていないものの、この時期以前にすでに図6の技法も完成していたとのこと。残念ながら完成作品の写真は残っていないが、仏像は全体で正方形3枚の複合(光背・蓮台、腕・胸・足、頭部)による構成だったそうだ。

西川氏の「仏像」に強い感銘を受けた筆者は、ここに親指の根元の紙をめぐって巻き付けることによって、(蛇足的ではあるが)拇指球をさらに強調

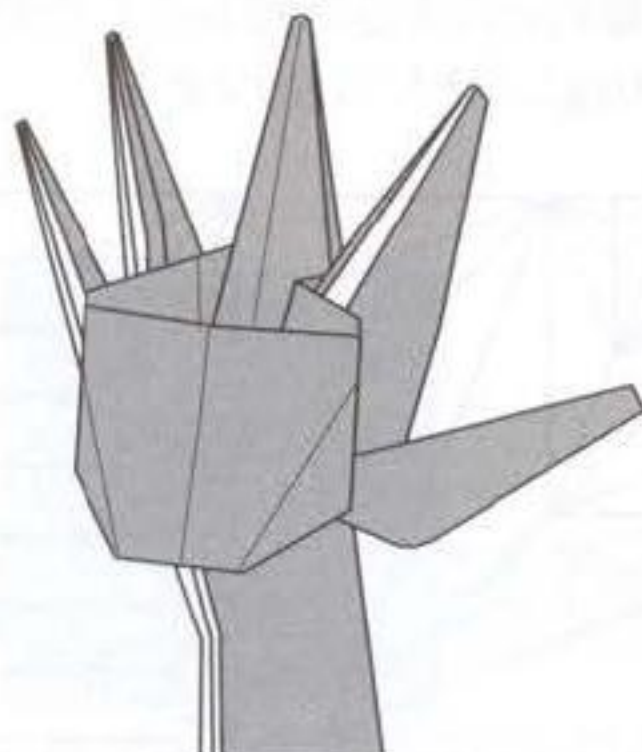


図6 「仏像」(西川)の手

してみた。この技法は1996年に自作の「仏像」に組み込んだのが初回で、以降も「イカロス」「金剛力士像」など複数の作品で使用している。

小松英夫氏の「ミノタウロス」(2006年創作、試作品的な扱いであるとのこと。小松氏のサイト「折り紙計画」<http://origami.gr.jp/~komatsu/>に掲載)の手は、悪魔と同様に用紙カドの領域を使っているが、大きく異なる構造である(図7)。親指のみを用紙内部から取り出し、用紙の辺から得た他の指と距離をとっていることで、より自然な印象・バランスを持つ完成形が得られる。さらに、手のひらや拇指球、小指球(手のひらの小指側の縁の肉)の表現も盛り込むことが可能。この構造自体は、2004年以前に創作したものであるとのこと。

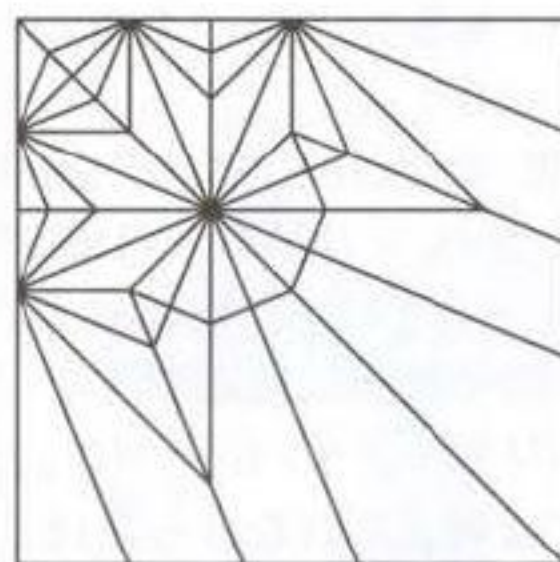


図7 「ミノタウロス」の手の展開図・完成形(作図:小松英夫)

○北條高史(ほうじょう・たかし)＝日本折紙学会評議員。某漢方系のど飴がカブトムシの蛹と近いニオイのように思えたり、新品のワイシャツにアイロンをかけたときのニオイがなぜか菓子パンに似ていたりしたときに、なにか共通の成分が存在するのではなからうか、などと考えたりしています。



この構造を、筆者は「伐折羅大将」(2006年創作)に組み込んでみた。サイズの見積もりを間違えて、最終完成形の中では少々アンバランスで小さな手になってしまったが、展開図上でぴったりと収まって袖の表現にもうまく繋がったことから、「手だけを大きくするための部分的な改修」は考えていない。再度着手する場合には、全体構造も含めて見直すことになるだろう。

■「物を持っている手」ー 北條「暫」

この区分については、拙作「暫」(1999年創作)を例として採り上げる(図8)。用紙の辺から親指・持ち物(扇子)・小指を出し、用紙内部からそのほかの指を折り出す構造となっている。類似の構造で手指を折り出した作品としては、神谷哲史氏の「ディバインドラゴン」(1997年創作、『神谷哲史作品集』に折り図収録)がある。暫で扇にしている「用紙の辺上のカド」が、こちらでは親指となっている。

■「用紙内部のカドひとつを使用」ー 尾川「五体面」

尾川知氏の「五体面」(2000～

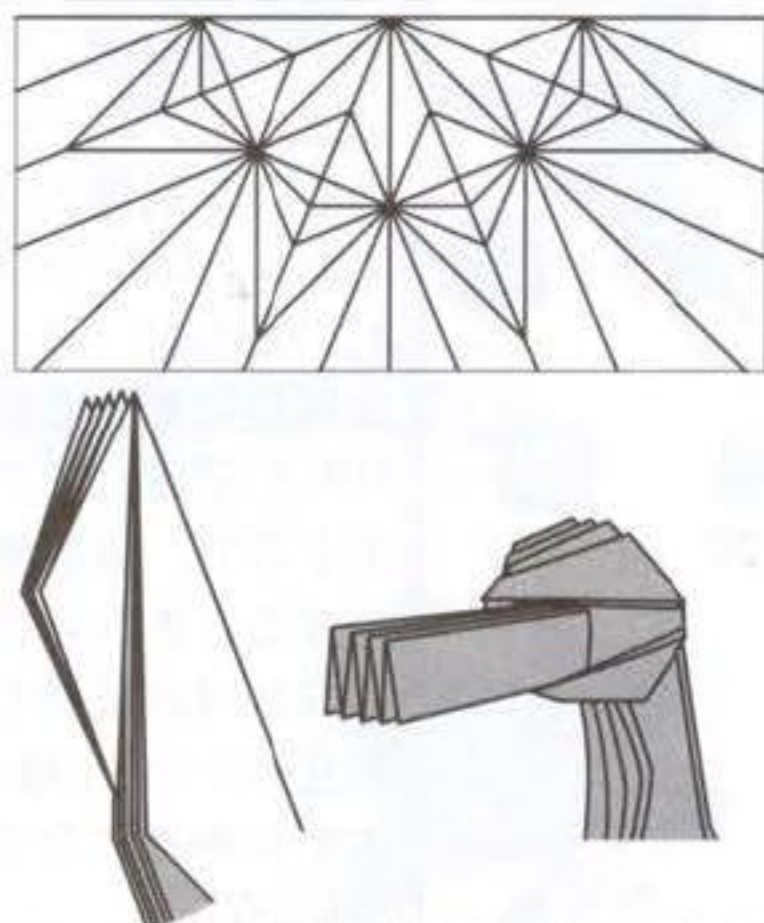


図8 「暫」の手の展開図・展開図折り状態・完成形

2005年に創作。『折紙探偵団コンベンション折り図集Vol.11』に折り図収録、発表時の題名は「妖怪五体面」。現在は改題)では、用紙内部から出るカド(アヤメの基本形の中心部のようなカド)ひとつを使って手を折り出している(図9)。内部カドの先端を沈めてできた正八角形から、「実際に枝分かれしているカド」の長さよりも長く見える五本指と、手のひらを折り出すことに成功している。

尾川作品を参考にして、拙作「イカロス」のバリエーション(2005年改修)にも「内部カドの五本指技法」を組み込んでみた。「五本指の手と翼が付いた腕」をつくるにあたって、用紙内部から五本指を出すことにより、用紙のカド部分を余裕を持って翼に充てることができた。

尾川氏はこの技法の参考にした作品・技法として、直接的なものとしては「樹」(北條、1993年創作)の、8方向に分かれた根元部分を挙げている。さらに「用紙内部のカドを含む構造で指を出した参考例」として、「ディバインドラゴン」(神谷氏)、「エンシェントドラゴン」(神谷氏、1999年創作。

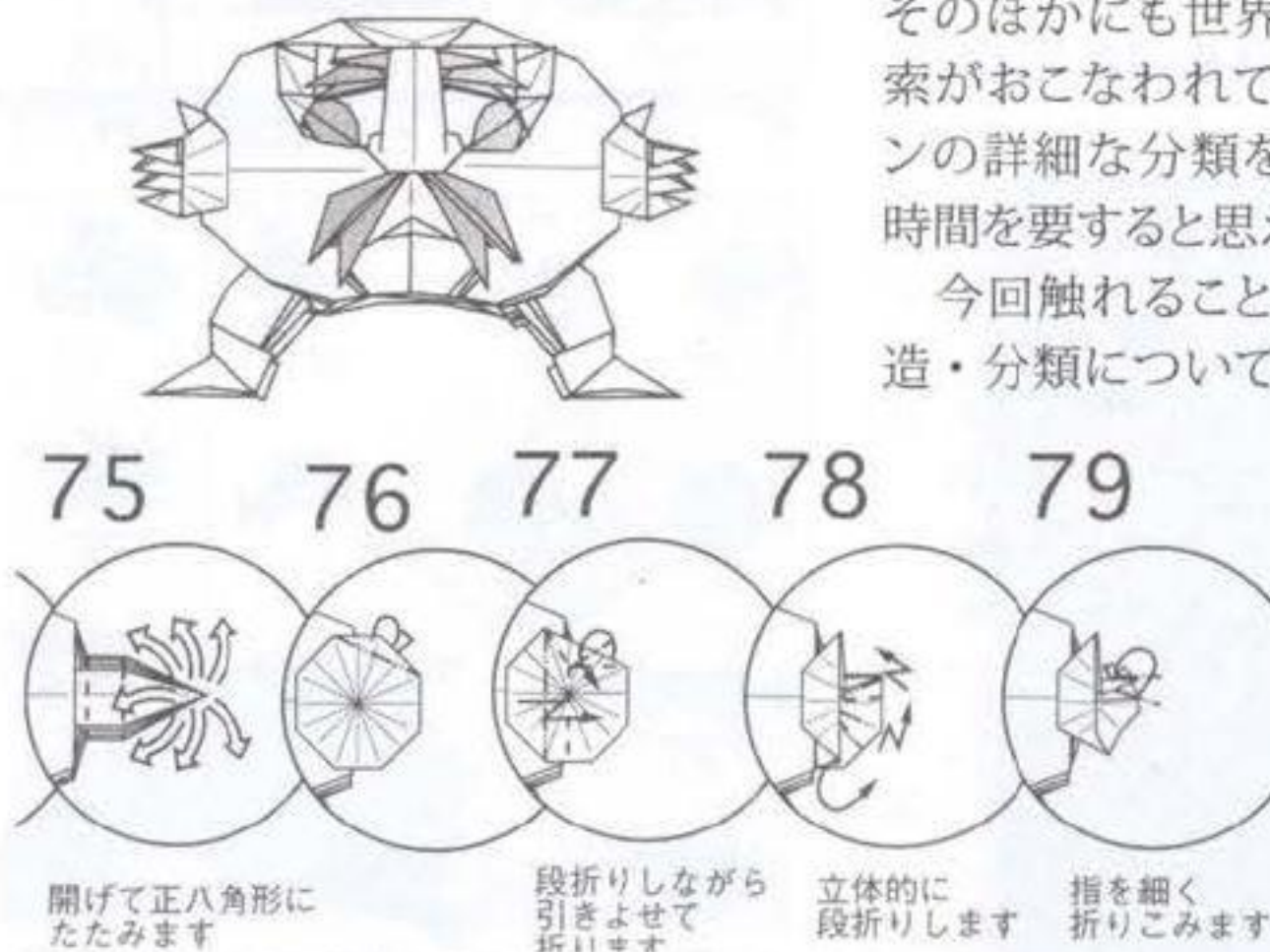


図9 「五体面」の完成形と、手の工程の一部(作図:尾川知)

『神谷哲史作品集』に折り図収録)、「キングギドラ」(小笹一氏、『折紙探偵団コンベンション折り図集Vol.5』に折り図収録)、そして「鬼」(前川氏)を挙げている。

さらに補足しておく、筆者の「樹」の根元部分は、故・吉野一生氏の「ぬえ」(『季刊をる』4号に写真掲載)や「虎」(『一生スーパーコンプレックスおりがみ Part 1』に折り図収録)の頭部表現からヒントを得たものであった。

■おわりに

今回の記事で列挙した「五本指技法の区分・分類」は、「なんらかの特筆すべきポイントを持つ」という観点からのものであるが、必ずしも厳密・適切ではないかもしれない。今後、「展開図構造・技術面に絞った分類」や「最終デザインに着目した分類」などの観点から詳細に分析し、考察・比較できるようにしてゆくべきだろう。

また、「ボックスブリーツを主体とした構造の手」の応用例には、今回は触れなかった。この分野では複数の応用パターンが堀口直人氏・小松氏・神谷氏らによって作りだされている。そのほかにも世界中でさまざまな模索がおこなわれていて、応用パターンの詳細な分類をおこなうにはまだ時間を要すると思える。

今回触れることができなかった構造・分類についても、別の機会にあらためてまとめたと考えている。

<謝辞>今回は小松英夫氏から、既存作品情報の調査にあたって多大な協力を得た。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

各務 均 Kakami Hitoshi

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

40冊目『折り紙でつくる海の生き物たち』ジョン・モントロール、ロバート・J・ラング共著

"Origami Sea Life" by John Montroll and Robert J. Lang

魚を折りたいのですがどうしたら良いのでしょうか、お薦めの本はありませんか。そんな相談を受けることがきつとあると思いますので、良いアドバイスができるように予め回答案を考えておきましょう。「どんな魚が折りたいの？ それだったらとても良い本を知ってるよ!」とか、「その魚は誰も折ってないんじゃないかな。だったら自分で創作すればいいんじゃない?」とか、「今その魚の折り図描いてるから、もう少し待ってて!!」なんて返事ができたら、その後の会話も弾むのではないのでしょうか。そんなときに、話の種にさせていただけたらなと思いながら本稿の執筆を始めました。

さて、前置きはこれぐらいにしておきまして、今回の図書は、前号に引き続き、現在鋭意活動中の若手作家勉強会において筆者が推薦した魚の折り紙本から1冊紹介します^[1]。私自身まだまだ勉強中ですので、この場で紙面をいただくこと自体大変恐縮ですが、もっと創作できるようになりたい方や、折り紙アクアリストを目指している方々にご参考いただければ

と思います。もちろん、読者の皆様がこの本を手にとったときに、より楽しく読むための一助になれば嬉しいです。

魚の折り紙本という表現は少し語弊があり、本図書『Origami Sea Life』(1990、Dover Publications)はタイトルが示すように海洋生物全体に焦点を当てた本です^[2]。John Montroll氏、Robert J. Lang氏の共著で彼らの作品折り図が収録されるとともに、導入部分には海洋系折り紙の歴史がまとめられています(図1～3)。前号の記事において、堀口直

人氏から紹介のあった図書『Origami Insects and Their Kin』(Robert J. Lang)と同時期に出版された本で、前回の流れを踏まえ、若手作家勉強会から折り紙界に向けて発信するものとしては、本図書が最も相応しいと思い選定いたしました。

筆者が本図書の存在を知ったのはいつごろのことか覚えていませんが、所有している本はOrigamiUSAコンベンション参加時に現地で買った思い出のある本です。要するに、個人的に紹介したい本としても、本図書が最初に頭に浮かんだというわけです。

魚の収録作品について見ていくと、魚類は全部で14種類が収録されており、本図書を読めば金魚やマンボウ、カジキ、サメなど特徴的な姿の魚たちを一通り折ることができます。すなわち、題材としてはとてもメジャーなものが網羅されており、体型やひれの形など、様々な種類に対する折り方が示されていますので、魚を創作するときの見立て方(いわゆる折り紙化)については、大いに参考になるでしょう。

魚ごとの創作者

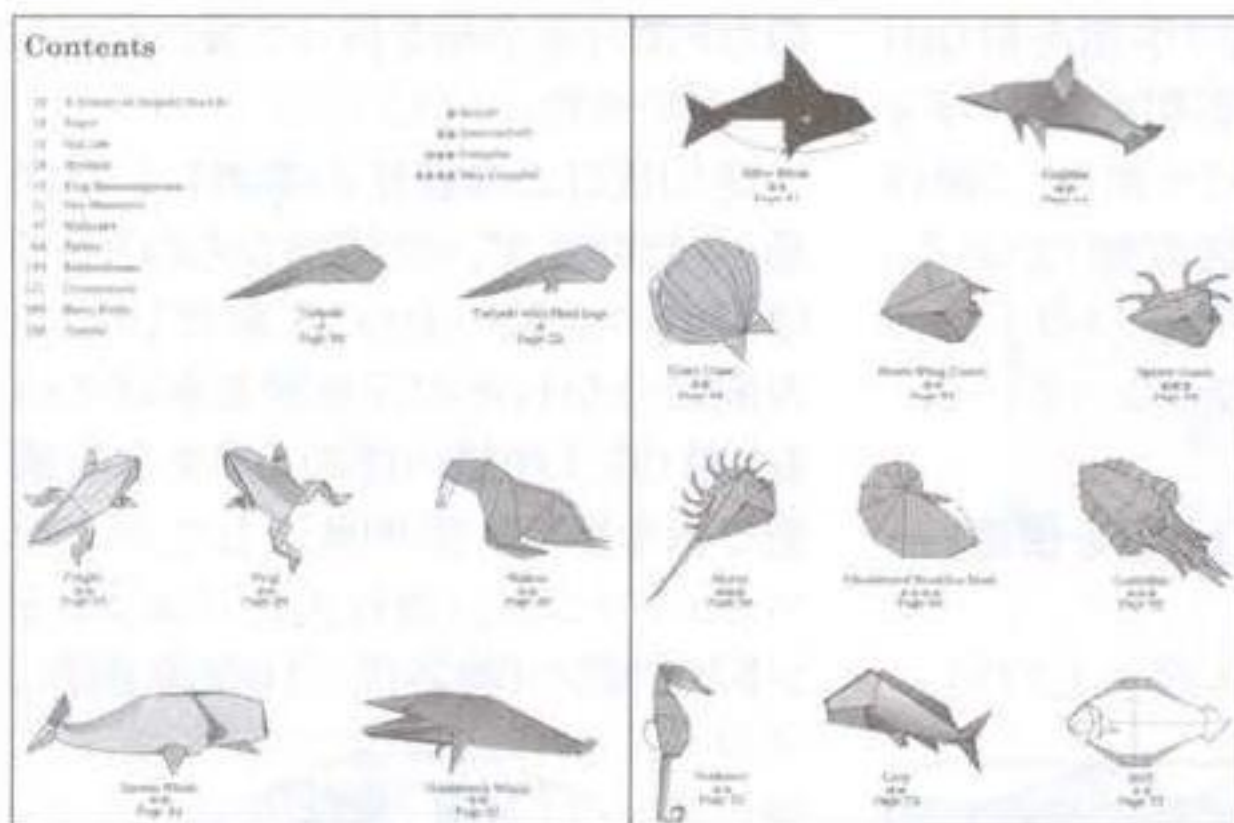


図2 目次1



図1 表紙



図3 目次2

○各務 均(かかみ・ひとし)=1985年生まれ。愛知出身。本業では水中ロボットの設計・開発・営業をしています。折り紙では主に魚を創作。要するにいつも海の中です。



に注目して、Montroll氏とLang氏の両者の作風に注目してみたり、魚類の要素を折り出すにあたって、どのように紙を使っているのかを読み解いていくのも面白いでしょう。作品におけるかどの出し方は創作にとって重要な課題ですので、作者がどんなことを考えているのかをうかがい知るのにとっても有用な情報です。動物や昆虫の作品は一般に細長いかどを左右に用意して脚や触角をつくるのに対し、魚の作品は、ある程度面積のあるかど(つまり「かど」ではなく「ひれ」)を確保する必要があること、また、横方向にかどを並べる他に、縦方向にもかどを並べる(複数の背びれや、尻びれ、尾びれのような)パターンを多用することが特徴的といえます。一般に折り図を見ながら折るときは、かどをどうやって出しているのか気にしなくても作品をつくることができますが、この

ひれはどこから持ってきたのだろうとちょっと意識してみると、新たな発見があると思います。

魚の作品がせっかくこれだけ集まっているので、もっと主観的な見方もしてみると、本図書の魚たちはその豊かな表情がとても魅力的であることに気づきます。というのも実際の魚が顔の変化に乏しいのに対し、この本から折り出される作品群は、それぞれに個性があり、また、それは折り手の仕上げ方に強く依存しますので、きっと魚たちと出会うたびに一喜一憂があることでしょう。かなり偏った感想としては、悲しげなマンボウや嬉しそうなオニカマス、眠いエンゼルフィッシュなどは皆様にもぜひ体験いただきたいところです(図4)。

なお、実際の魚は表情がないといつつも、こちらのことを気にする様子がない、そのつんけんした態度というか、本当に何も考えてないだけなのかもという奥ゆかしさも、もちろん魅力的であることはご承知のとおりです。ちなみに筆者が本図書の魚で一番好きなのは「Brill」です。まずは折り図の通りにヒラメを折ったら、次は左右を反対にしてカレイを折りましょう(図5)。

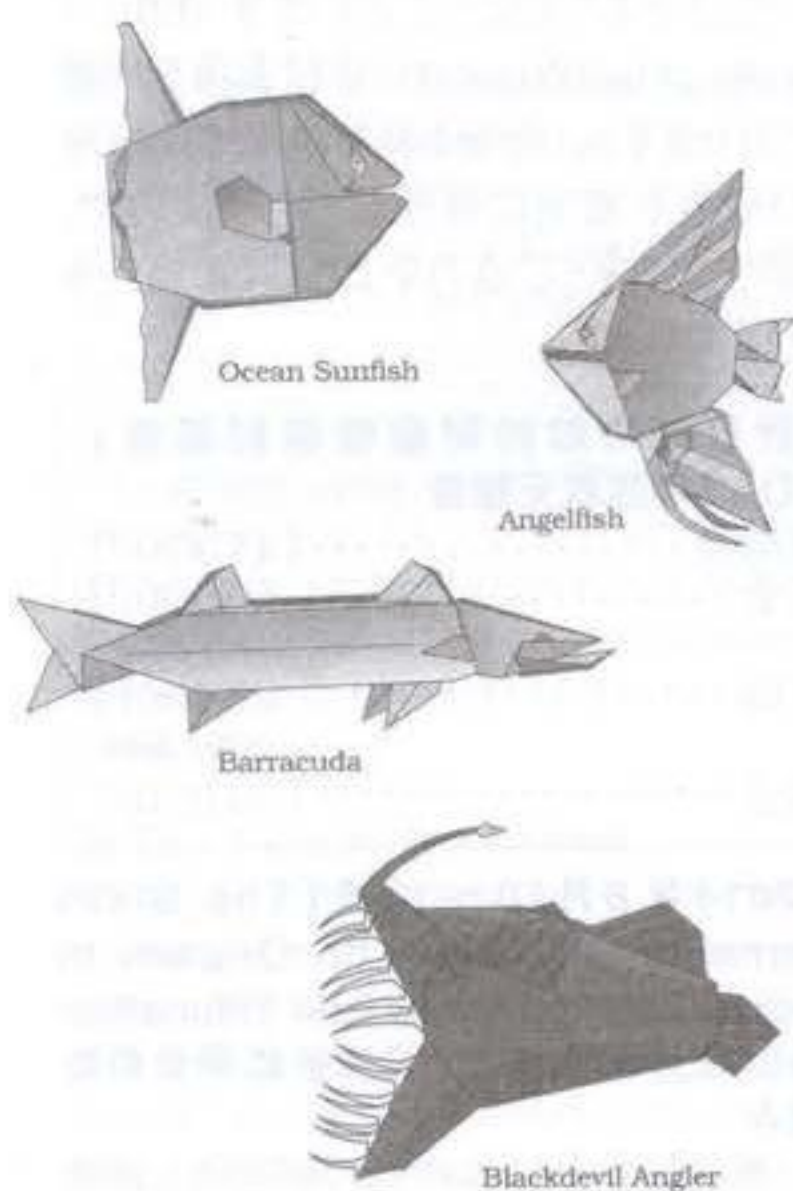


図4 表情豊かな魚たち

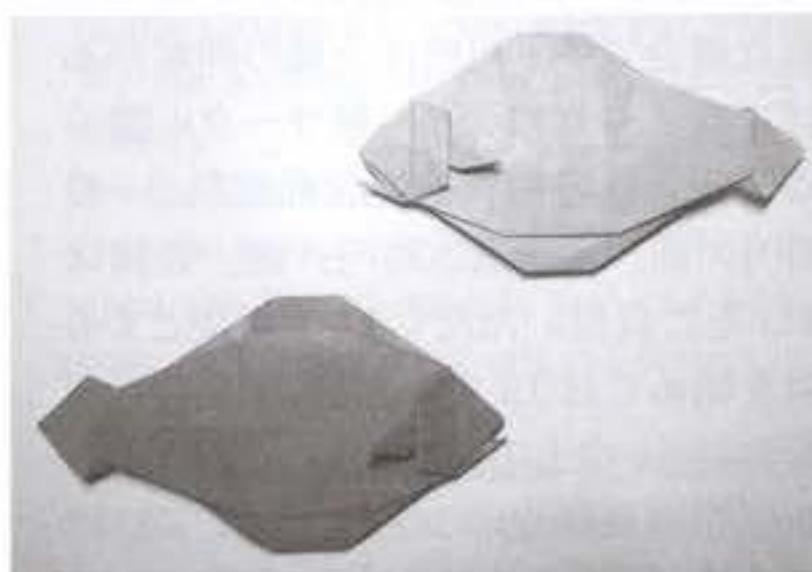


図5 Brill ヒラメとカレイはぜひ両方折りましょう

魚以外では、海洋生物全般にわたって、海生哺乳類5種類、エビ・カニ系5種類、貝系5種類、その他オタマジャクシ・イカ・ウニ・ヒトデなど9種類を合わせて、全部で38種類の生き物が紹介されています。折り紙の題材として人気のあるカエルやイルカから、マニアのためとしか思えないサンドダラーなど、本図書のラインナップを見ただけでも、非常に複雑な海洋生態系と折り紙の持つ多様性が見事にマッチしているのが一目瞭然です。この本を眺めていると、折り紙の本を見ているのか、海洋図鑑を見ているのか分からなくなるような感覚を受けます。

冒頭でも少し述べましたが、本図書の導入部分には海洋系折り紙の歴史がまとめられていたり、各作品の折り図には、モチーフとなった生き物についての簡単な紹介があったりと、英文ではありますが、読み物としても大変興味深いものです。難易度としても幅広く収録されていますので、これから折り紙を始める人に向けて本図書を薦めるのも良いでしょう。本稿では特に魚の折り紙本という観点から見てきましたが、『Origami Sea Life』ではもっともっと広くて深い多彩な世界が表現されています。

[1] 若手作家勉強会では、創作力向上を目指す愛好家に向けて有益な情報を提供する試みとして、参加者による図書紹介を実施しています。

[2] なお、本稿の内容・画像等は『Origami Sea Life Second Edition』に基づいています。

[編注] 本書『Origami Sea Life』は絶版となっていますが、掲載作品を追加して分冊化した『Origami Under the Sea』・『Sea Creatures in Origami』として現在入手可能です

日本折紙学会(JOAS) 24期事業報告と25期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 24th Year and Prospects in the 25th Year

1) 会員・定期購読者

第24期は前期に比べ会員数は微増、購読者は横ばいとなっています。24期会員の皆様へは、今期の配付資料として北條高史氏の折り図「外骨格機巧巨人(基本形態)」および森末圭氏の折り図「山翡翠」を送付させていただいております。25期につきましても日本折紙学会の活動理念にご理解をいただき引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

2) 誌面刷新と購読料値上げのお願い

24期より(139号～)、機関誌『折紙探偵団マガジン』はカラーページを4ページ増大し、作品や各種イベント記事に関する写真の充実等、誌面刷新をはかりました。また、4月からの消費税増税に伴う経費の増加のため購読料を4,200円に値上げさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。会費は据え置きます。

3) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2013年度も皆様のご寄付をいただいております。改めてお礼申し上げます。「吉野一生基金」では8月にロバート・J・ラング氏(アメリカ)、ニコラス・ガハルド・エンリケス氏(チリ)を第19回折紙探偵団コンベンションに迎えることができました。5月には九州コンベンションにアン・ラビン氏(アメリカ)、11月には名古屋コンベンションにケイド・チャン(香港)の招待に対して助成を行いました。

「吉野一生基金」ではこれまで17年間にわたりのべ55名の海外折紙作家や活動的な愛好家を招待するとともに10名の日本人若手作家を海外コンベンションに送り出し、折紙の国際交流の支援を

続けてまいりましたが、2014年度は第6回折紙の科学・数学・教育国際会議の東京開催があり、多くの海外折紙研究者の来日が予定されていることから、第20回折紙探偵団コンベンションへの招待は実施しない方針といたしました。また、ここ数年は年間のご寄付を上回るペースで支出してきており、現在の年間5名体制を見直すべく検討いたします。

4) 折紙探偵団コンベンション

2013年8月16～18日に第19回折紙探偵団コンベンションを東洋大学で開催し、盛会に行うことができました。第20回折紙探偵団コンベンションは2014年8月15～17日に東洋大学にて開催予定で、8月10～13日に東京大学で開催する6OSMEと連携して進めています。2013年度の地方コンベンションでは第3回九州コンベンション(佐賀大学)、第9回名古屋コンベンション(名古屋芸術大学)、第14回関西コンベンション(神戸女学院大学)を開催することができました。2014年度も5月に第4回九州コンベンションを行います。11月には久しぶりに静岡にてコンベンションを開催すべく準備を進めています。世話役となつていただいております友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

5) その他の事業報告・計画

◇折紙資料の収集整理を目的とした折紙図書館事業では収集整理した資料の蔵書目録を増やしており、約2000点をウェブで検索できます。収蔵資料の内容につきましては本誌連載でも適宜ご紹介しております。折紙図書館は、土曜日の13時からJOASホールで数時間、絶版などで手に入り難い折り図に取り組むことのできる貴重な機会です。利用は会員の同席があればご友人や学校の折紙サークル関係者など非会員の閲覧も施設利用料(一般300円/回、購読者200円/回、会員は無料)をご負担いただくことで可能とする運営を始めております。さらに活発なご利用をお待ちいたしております。

◇折紙指導員制度につきましては、2013年度も数名の方に新たに資格認定をさせていただきました。本年度より、折紙指

導員に対して「折紙講習等で使用可能な作品許諾リスト」の公表を開始しました。

◇2013年度もJOASホールでの例会、折紙教室の運営を行っており、東京友の会例会、神谷哲史氏、小松英夫氏、布施知子氏、山口真氏など有名作家ならではの特徵ある講習会、若手作家による研究会、ATC研究会が開催されています。更に2013年6月、12月には第14回、第15回折紙の科学・数学・教育研究集会を開催しました。講師を務める作家の皆様、話題提供いただいている研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。今後とも折紙の様々な活動拠点として有効に運営してまいります。JOASホールの折紙教室等への貸出基準は、探偵団ウェブサイトに記載いたしておりますのでご参照ください。

◇2013年度は学術誌『折紙の科学』第3号を発刊することができました。本誌への論文投稿をいただいた研究者の皆様に感謝申し上げます。

◇折紙の知的財産権検討に関しましては、本誌142号にもご報告のとおり、2013年8月には第6回折紙の著作権に関する国際会議(テーマ：折紙データベースなど)へ積極的に協力し、第15回折紙の科学・数学・教育研究集会での研究報告など研究を進めております。さらに、日本折紙学会折紙指導員に対する作品許諾リストの公表も本研究に裏打ちされた活動となっています。これらの研究は専門の弁護士による調査やレビューを受けるようにしております。「折紙の知的財産権検討基金」へも皆様のご寄付を多数いただきありがとうございます(<http://origami.gr.jp/IPrights/>に寄付要項を掲載しております)。今後も折紙の知的財産権の研究を着実に推進いたしますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「折紙の知的財産権検討基金」

2013年度収支報告(2014年3月8日現在)

繰越金	141,950円
入金	60,406円
(個人寄付金 3名分)	
支出	65,406円
(弁護士報酬)	
残金	136,950円

6) 2014年8月10～13日「The Sixth International Meeting on Origami in Science, Mathematics and Education (6OSME)」開催決定と日本折紙学会の取り組み

日本折紙学会は国内外の研究者と連携を取りながら、6OSMEの会場選定や組織

吉野一生基金2013年度収支報告

(2014年3月24日)

繰越金	1,230,307円
(2013年3月31日付)	
入金	369,000円
(振込みによる寄付金 83名分)	
	10,700円
(名古屋コンベンションオークション)	
支出	660,000円
(海外招待4名、招待に関わる雑費、振込用紙)	
残金	950,007円

委員会・プログラム委員会の立ち上げなど、本会議の成功に向け運営に中心的に参画しています。

7) 総会・その他

◇日本折紙学会2013年度の会計報告につきましては、第20回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会においてご報告いたします。2014年6月30日までに第25期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内をご送付申し上げます。

◇日本折紙学会の役員体制は、三浦公亮(東京大学名誉教授)会長以下、評議員として川崎敏和(6)、川畑文昭(9)、小松英夫(4)、館知宏(4)、立石浩一(2)、津田良夫(9)、西川誠司(7)、羽鳥公士郎(5)、北條高史(6)、前川淳(5)、三谷純(7)の11名で運営を進めてまいります(カッコ内は評議員の勤続年数:最長任期9年(ただし代表任期中は延長))。川村みゆきは評議員任期が満了したため退任となります。また、評議員代表は西川誠司の代表任期が満了したため、替わって津田良夫が務める予定です。

今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます。

1) Membership and Subscribers

In the 24th year, we had experienced a small amount of increase in the number of subscribers, though we kept the number of members unchanged. To the members in the 24th year, we will distribute the special issue with Diagrams of Hojyo Takashi's "A Skeltal Giant (Base Form)" and Morisue Kei's "Crested Kingfisher". We expect all members and subscribers will renew for the 25th year as well.

2) Renewal of Tanteidan Magazine and Raise of Subscription Fees

We are having additional four-color pages in *Origami Tanteidan* Magazine starting the issue 139. The new pages carry origami model pictures, articles on various events, and so on. This renewal, Due to the raise in the National Sales Tax starting April 2014, the subscription fee will become 4,200 yen (previously 4,000 yen) this year and after. We thank you for your kind understanding and we regret the raise of the fee for two consecutive years.

3) The Yoshino Issei Fund

We would like to thank you for your support to the Yoshino Issei Fund this year, as always. We have invited Robert Lang (USA) and Nicolas Gajardo Henriquez (Chile) to the 19th Origami Tanteidan Convention in Tokyo. As for regional conventions, the fund helped invitation of Anne LaVin (USA)

to the Kyushu Convention in May and Kade Chan (Hong Kong) to the Nagoya Convention in November.

So far, the Fund had invited fifty-five creators and folders for 17 years, and aided travel fees of Japanese folders to participate in Conventions abroad. As for 2014, as we have 6OSME and expect to see so many foreign folders around the 20th Origami Tanteidan Convention, we decided that we will not invite anyone for it. Also, due to the budgetary reasons, we are reconsidering on inviting 4-5 people in a year.

As of March 24th, 2014, the Fund has 950,007 yen (contributions from members 369,000 yen, the income at the auctions at the Nagoya Convention 10,700 yen, and expenses 660,000 yen (mainly invitation of the four origami creators)).

4) Origami Tanteidan Convention

We held the 19th Origami Tanteidan Convention at Toyo University on August 16-18, 2013. We had so many participants and the Convention was a success. The 20th Origami Tanteidan Convention will be held on August 15-17 at Toyo University, following 6OSME on August 10-13 at Tokyo University. As for the regional conventions, we had the 3rd Kyushu Convention (Saga University), the 9th Nagoya Convention (Nagoya University of Arts), and the 14th Kansai Convention (Kobe College). In the fiscal year 2014, we also are planning to have the 4th Kyushu Convention in May, the Shizuoka Convention in November after a long break. We thank you for cooperations of folders of the world, and JOAS thank staff members of these conventions.

5) Other Activities and Plans

The Origami Library have approximately 2,000 books and articles. The contents of archives are occasionally introduced in Tanteidan Magazine. The books can be viewed in the JOAS Hall in Saturday afternoon, and this is a valuable chance for folders to see rare and precious diagrams. We keep working on better accessibility and convenience. Please contact JOAS for its use. Note that non-members can use the archive with fees (subscribers 200 yen, non-subscribers 300 yen) given that they come to the Origami Library with our member. We are waiting for your active use of the Library.

We had licenced a few people as new JOAS Origami Instructors in 2013. We JOAS made open the list of models that can be used without notification in origami classes to the Instructors.

The studio space we have gained in 2005, JOAS Hall, are being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, occasional origami classes by Kamiya

Satoshi, Komatsu Hideo, Fuse Tomoko, Yamaguchi Makoto, and so on. We also had held the 14th and 15th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education there in June and December, 2013. We are grateful to the participants of the meetings for various kinds of stimulus to us. The Hall will welcome any origami-related activities. The regulations are on the JOAS web site.

We published the 3rd issue of *Science of Origami* in 2014. We thank contributors for their serious interest in the magazine.

JOAS continues their work on copyrights and intellectual property rights pertaining to origami, and, in August, 2013, JOAS actively participated in the 6th Origami Copyright International Conference on Origami Database and related issues. The report on the Conference was made open in the 15th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education. The "List" of models above to the Instructors is based on our concerns on copyrights. Of course, we are regularly consulting professional lawyers to make searches for the analysis. We are still calling for the Fund for the Intellectual Rights and Copyrights on Origami, the regulations of which are described on the web site (<http://origami.gr.jp/IPrights/>). We recognize that the issue must always be on our agenda. We thank you for your understanding and cooperation.

6) 6OSME (August 10-13, 2014) and JOAS

JOAS is playing the central role in the conference on everything about 6OSME, with cooperation by researchers worldwide: the choice of the conference site, organization of the headquarter committee and reviewing.

7) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2013 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 20th Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2014.

The Board members for the 25th year will be: Kawasaki Toshikazu (6), Kawahata Fumiaki (9), Komatsu Hideo (4), Tachi Tomohiro (4), Tateishi Koichi (2), Tsuda Yoshio (9), Nishikawa Seiji (7), Hatori Koshiro (5), Hojyo Takashi (6), Maekawa Jun (5), and Mitani Jun (7) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). Kawamura Miyuki's terms had ended, so she will not be the Board Member this year. The chair of the Board will be Tsuda Yoshio, as Nishikawa Seiji's term for the Chair of the Board had ended. The Chair of JOAS continues to be Miura Koryo (Prof. Emeritus, Tokyo University). We thank you again for your continuing support.

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

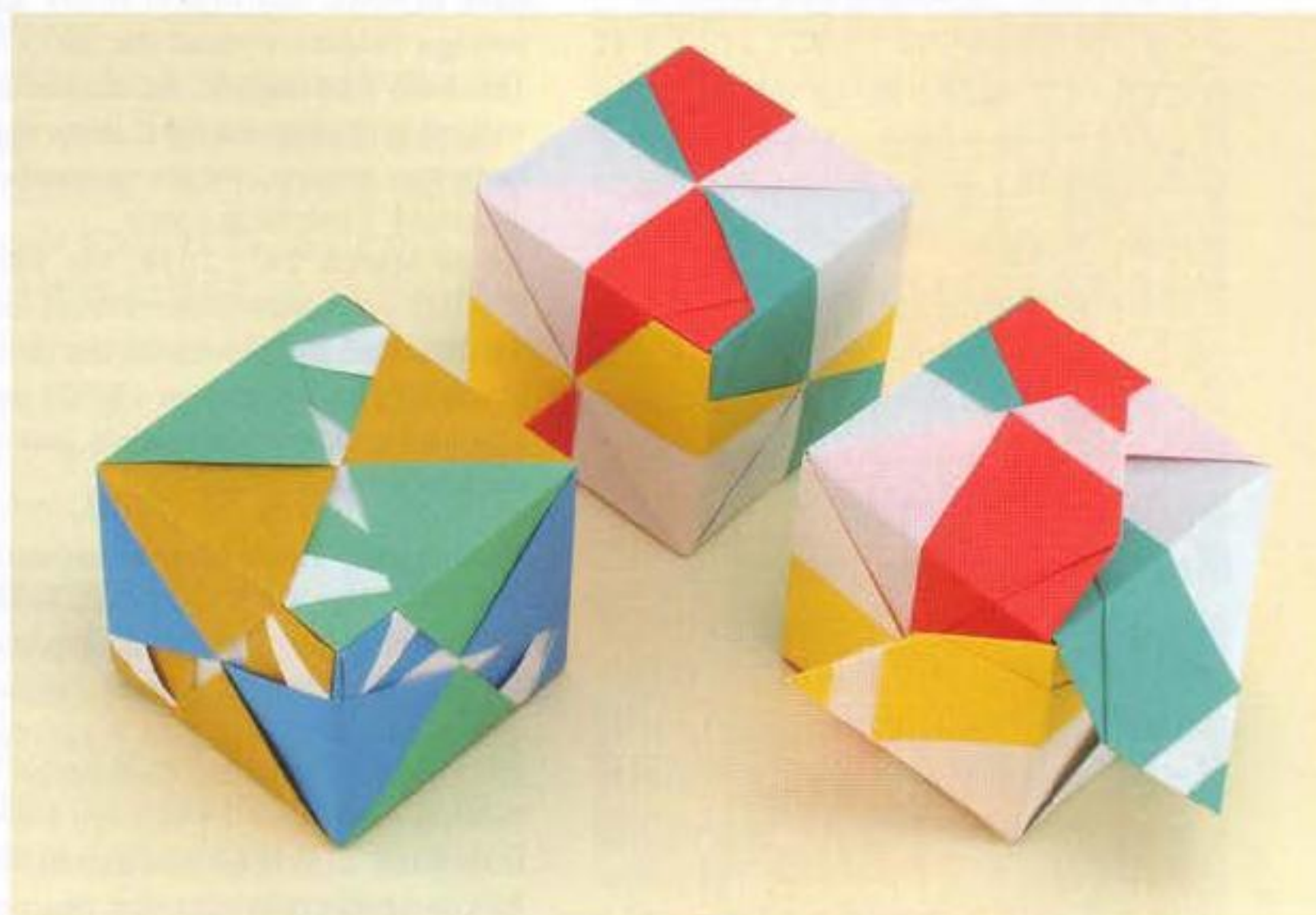
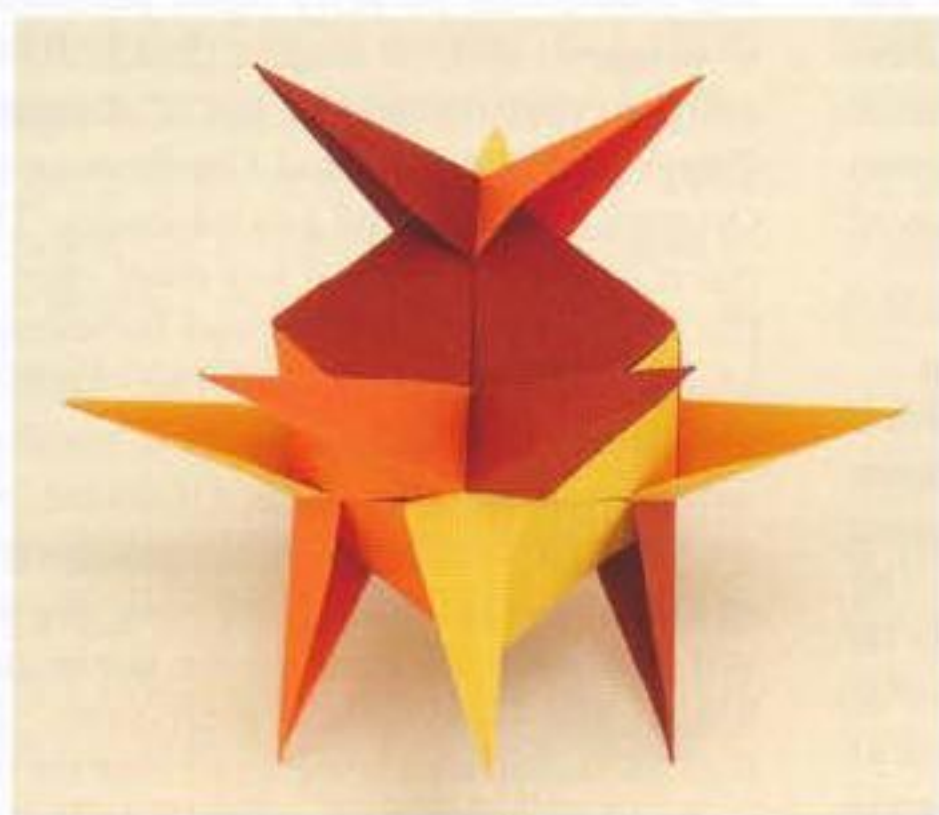
Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

お湯が沸くまでの時間が短くなったような気がする。洗濯物を取りこんだら虫が付いてきた。あいかわらずのスピードで増える折りゴミの山、こんな勢いで英語を勉強していれば…と思うけれどもなかなかそうもいかず。

「色鉛筆市松立方体」「猫の眼立方体」

「トゲトゲ立方体」作：前川 淳(P. 4)

Colored Pencil Check Cube, Cat's Eye Cube, Spiky Cube: Maekawa Jun (P.4)



■「最終デザインをイメージしてから構造を考える」という手順がほとんど通用しないのではなかろうか、と思えるユニット作品群。せっかくの模様が完成直前に隠れてしまったり、かと思うと、組み上げて初めて模様が見えてきたり。どう見ても接

合が弱くて不安定きわまりないのに、6枚ままとると不思議とガッチリ組み上がった。実際に手を動かしながら考えて、時間をかけて試行錯誤をくりかえす中でしか出会えない形。その過程を濃縮して見せてもらえる貴重な機会です。

「底のある長靴」「兜」作：やまぐち真、「富士山」作：山梨明子(P.8)

Rubber Boots, Boy's Festival Samurai Helmet: Yamaguchi Makoto
Mt. Fuji: Yamanashi Akiko (P.8)

■比較的易しくて工程の短い作品でも、「ぐらい折り」の工程があると途端に苦手意識が出る、というかたもいらっしゃることでしょう。そのようなときの基本としては、「折り図に描かれた比率を、定規で計ったりしてきちんと写し取って作業を進める」のが正攻法。しかし、「うまくできなくても、とにかく折り図の通りの工程で、最後まで折り進めてみる」ことを繰り返すのも非常に有用です。それぞれの工程の作業がどのような意味を持ち、最終形の中でどのような現れ方をしてくるのか。早めに全工程のイメージを得てから、「どの段階で修正を加えればかっこよくなるか」を模索・理解してゆくのも有効な戦略です。



やませみ
「山翡翠」 作：森末 圭(P.38) Crested Kingfisher: Morisue Kei (P.38)

■特徴的な「細かい斑模様」は折り出されていないのですが、全体的な構成とインサイドアウトによる配色で、非常に説得力の高いバランスを達成していると思います。

そうは言っても、全体の斑模様を「直接的なインサイドアウト表現ではないけれど、なぜか斑模様に見えてしまう」ようにして盛り込む技法ができないだろうか?などと、さらに今後の発展にも期待しています。



編集部より:今期の会員特別配布資料に本作品の折り図を掲載しています。



「イヌ」 作：神谷哲史(P.26) Dog: Kamiya Satoshi (P.26)

■顔のインサイドアウト部分は目なのかマユゲなのか。いや、作者が何と言おうとも、これはマユゲ模様には違いない! このような顔面部分も含めて、要所要所でインサイドアウト表現を効果的に配置。また、比較的大きなカドとして足部品を折り出していることにより、屈強さと愛嬌をそなえた骨太なシルエットが描き出されています。しっぽ部分でも、大きな面積が使われているからこそ可能な、密度の高いふわふわとした毛並みを思わせる加工が施されています。



折紙探偵団九州友の会例会より

From the Regular Meeting of
the Origami Tanteidan Kyushu Group



■本誌140号でも紹介した、折り紙のATC(アーティスト・トレーディング・カード)が、日本でも広がりつつある。2月の九州友の会の例会では、ATC制作の講習が行われた。通常より多くの参加者があり、盛況だったようだ

▲大勢の参加者に、小さな作品制作を教えるため、プロジェクターを使いながらの講習

▲講師を担当した九州友の会の三浦順子さん



▲今回講習されたおひなさま2種(左側 やまぐち真・作、中央 伝承作品のアレンジ)のカードと、その材料セット(右側)

小松英夫特別教室より

From the Workshop Held by Komatsu Hideo

■1月19日(日)にJOASホールにて、小松英夫氏による折り紙講習会が行われた。小松氏の教室は、昨年10月につづいて2回めとなる。講習作品は、左右で異なる目の表現が印象的な「魔女の面」。小松氏の作品集に写真のみ掲載された参考作品を基に改修を加えた「完全版」とのこと。今回の教室は、折り図を見ながら普通のおりがみで一度試し折りしたのちに、講師が用意した両面和紙で改めて折り、1つの作

品として仕上げるという進行で行われた。JOASホール教室ならではの余裕ある講習時間を活用した講習と言えるだろう。7名の受講者全員が作品を完成させた後には、仮面を顔に当てて記念写真を撮影するというイベントも行われた。小松氏によると、「『魔女の面』を講習作品に決めたときから計画していた」そうで、怪しげに撮られた写真に満足げだった。このような作家との交流のひとつも、折り紙教室の醍醐味かもしれない。



▲講習作品の「魔女の面」

▲参加者全員で怪しい記念撮影。左から3人めが小松氏

Origami ATC研究会より(P.42)

To the Participants of the Workshop for Origami ATC (P.42)

Origami ATC交換会(2014年4月17日)の
郵送参加方法

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(約64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマは特になし。
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入。

◆応募方法

- ・Origami ATCを同じデザインで2枚(1口分)作り宛名を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封しておりがみはうすへ送付。
- ・返信用封筒は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title: 大輪のバラを君に。
Name: スタッフhanako
HP, ブログ: スタッフhanakoの おりがみはうす日記 http://ameblo.jp/hanako-origami/
作品について 折り紙の芸術・作品名を記入 大輪のバラ(山口真・作)
「すてきな花の折り紙」(1997年より)
2014年1月15日

▲裏面表記の例

▲この黒枠が2.5×3.5インチ(約64×89mm)

広がりをもせるATCネットワーク

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(約64×89mm)のカードで好きなように表現して、交換するというものだ。Origami ATC研究会は、折り紙を使ったATCのワークショップだ。会では、各自制作してきたカードの交換や情報交換をしたり、全員で同じ材料を使ったカードを作って比べたりしている。仕上がりが小さいので制作も保管も手軽。九州友の会では大人数での講習会が開かれるなど、徐々に人気が広がりつつある。研究会では、交換会に参加したいが都合が悪いという人のために、郵送参加も受け付けている。簡単なルールを左の黒枠内に示したが、詳しい内容は、おりがみはうすHP内の「JOAS教室のご案内」を参照していただきたい。
(<http://www.origamihouse.jp/informations/joascourse/index.html>)



▲2月20日の研究会で講習されたバラのカード

◀参加者同士で交換したカードの一部。郵送参加の方は、札幌から熊本までと幅広い

若手作家勉強会より(P.41)

From a Workshop for Young Origami Creators (P.41)

■本誌でもたびたび紹介されている若手作家勉強会。1月と2月に実施された「集団創作」において生まれた作品を紹介する。「集団創作」とは、即興力と協働作業による発想力の強化を狙った企画である。1月は「飾りのある靴」、2月は「水の乗り物」というお題で、多くの若手が腕を磨き合ったようだ。会の発足から半年、今後の活動にも期待したい。*若手作家勉強会の活動については、「つまみおり」も参照ください。



Matsuda Keigo & Hagiwara Gen



Horiguchi Naoto



Ouchi Koji, Kakami Hitoshi and Morisue Kei

▲この「潜水艦」は、4月5日の東京友の会定例会で森末 圭氏によって講習される予定だ

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
the Origami Tanteidan Tokyo Group

■2月、3月の定例会でも力作が揃った。特に中学・高校生の伸びが目覚ましい。有志による「若手作家勉強会」も始まり、今後の成長が非常に楽しみだ。



Kakami Hitoshi



Mineo Shotaro (Age 13)



Ono Tomoaki



Kakami Hitoshi



Inoue Takaya (Age 14)



Morisawa Aoto



Kosuge Akihiro



Imai Kota



Imai Kota



Inoue Shunsuke

第24期会員向け特別資料掲載作品



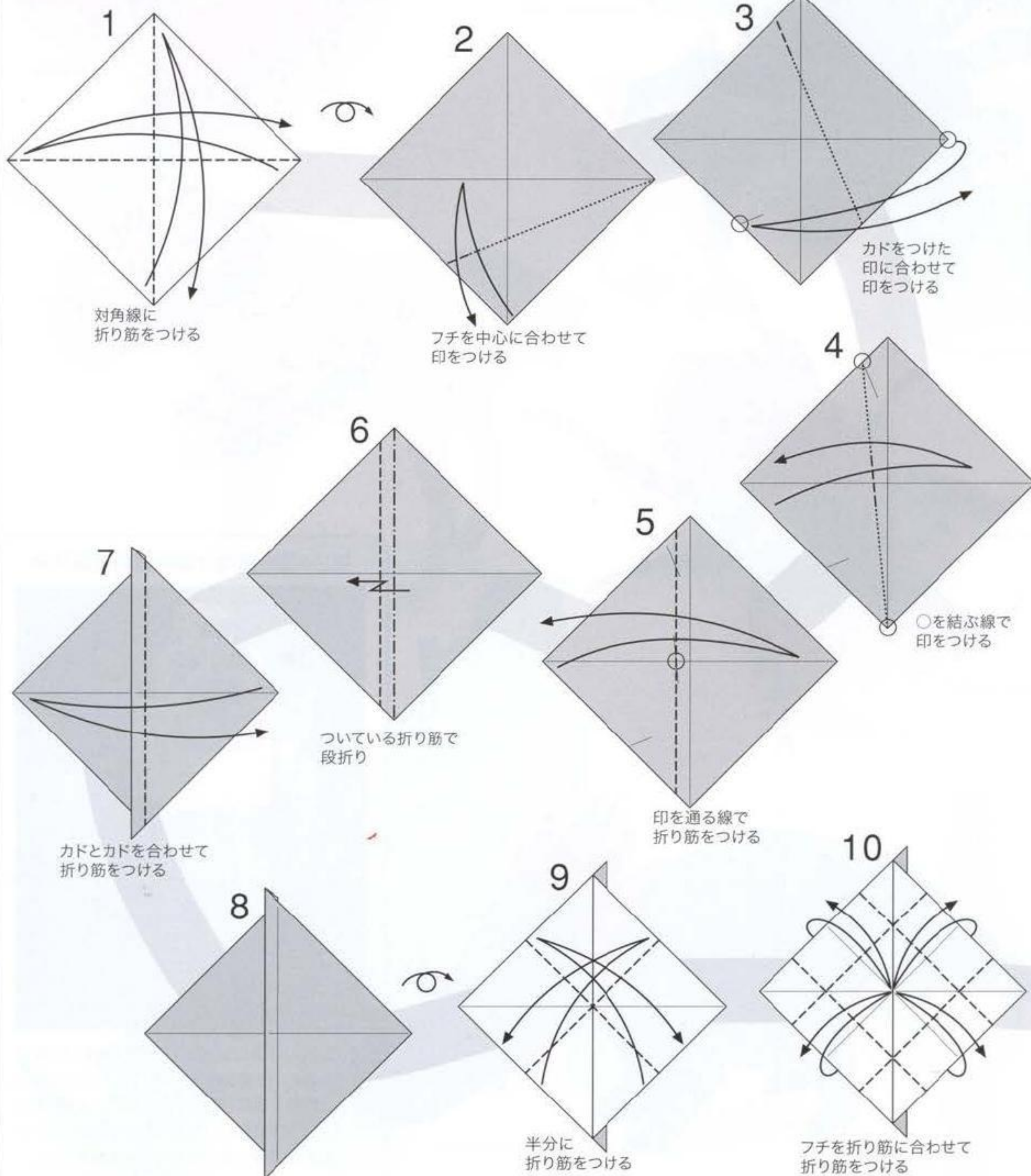
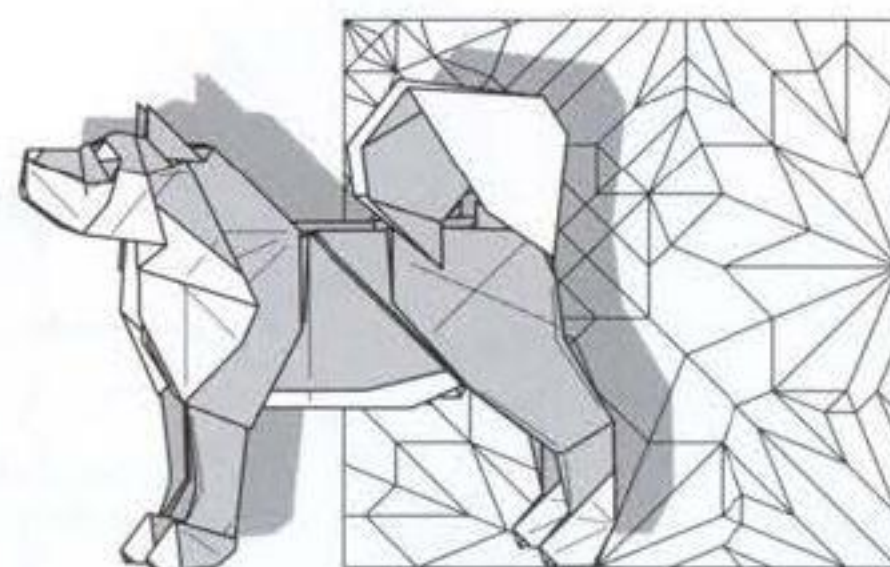
今期の会員に配布される特別資料は、森末圭氏の「山翡翠」(P.21、38)の折り図と、北條高史氏による「外骨格機巧巨人(基本形態)」(写真)の折り図だ。複合作品だが、プラモデル感覚で楽しめる作品となっている。

イヌ Dog

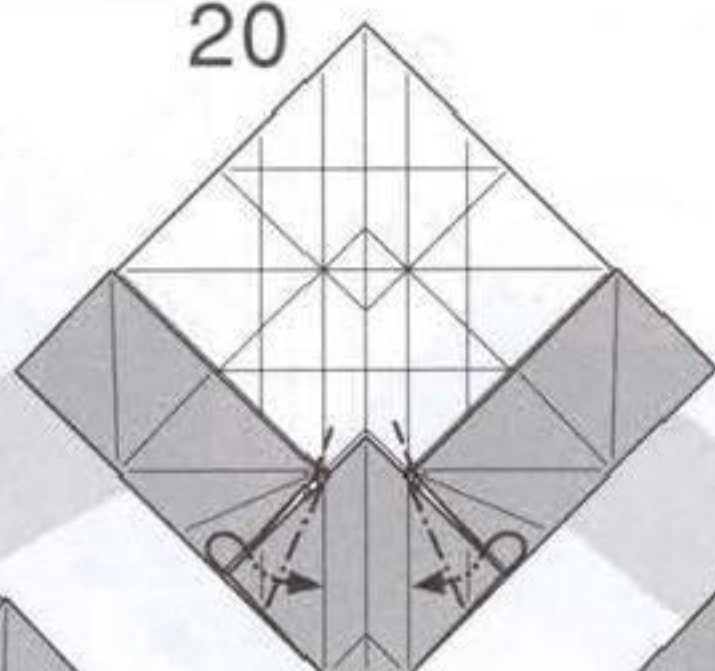
神谷哲史

Model & Diagrams by Kamiya Satoshi

2013/05

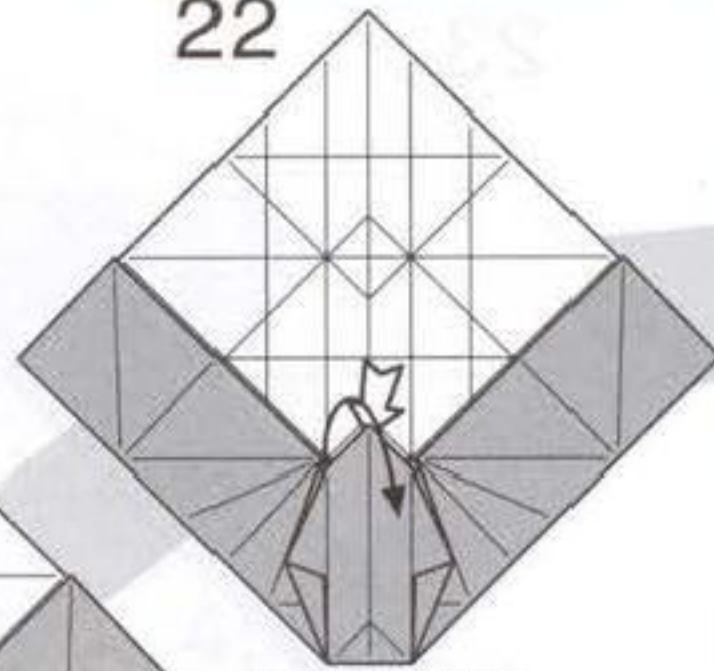


20

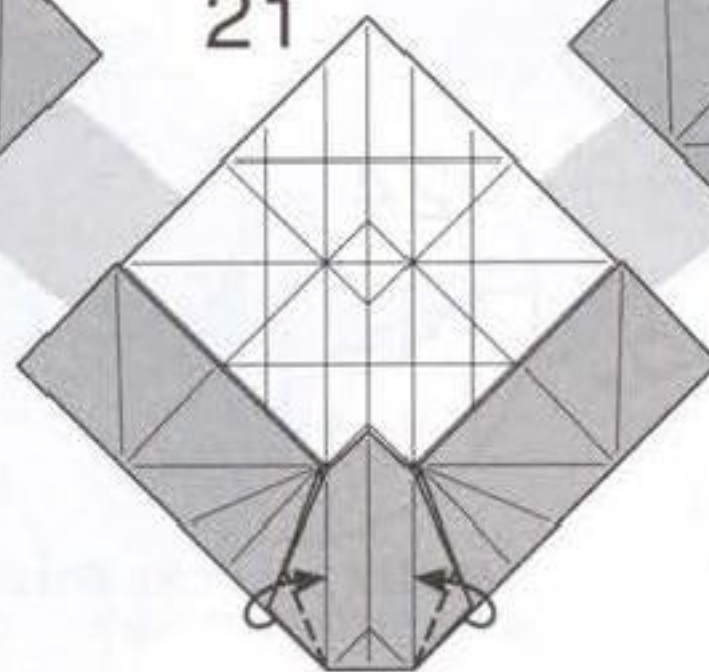


中わり折り

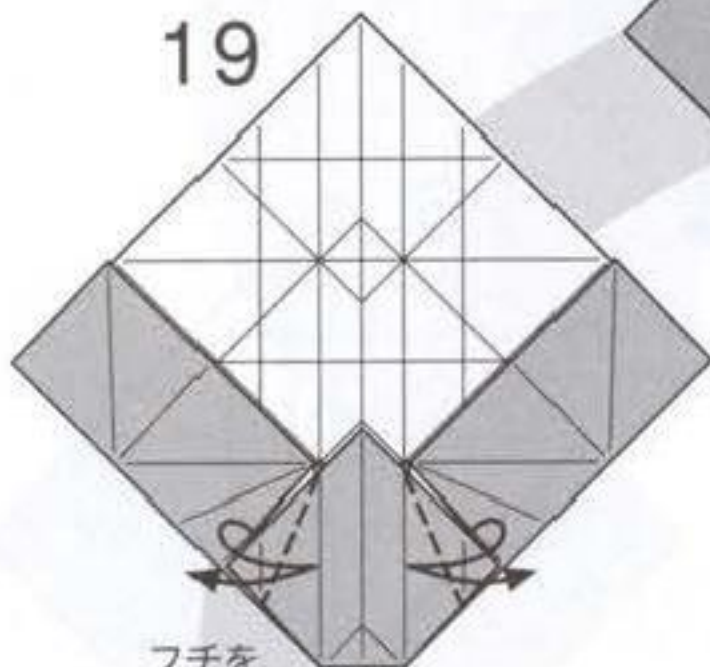
22

内側をひるげて
立体にする

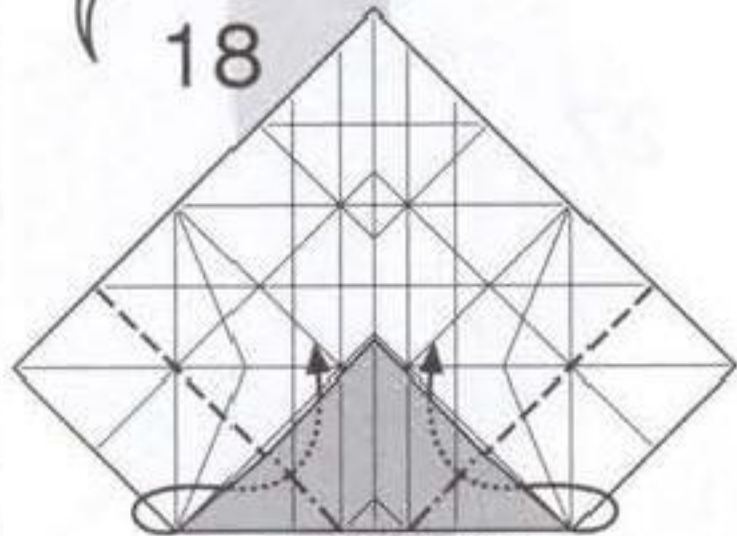
21

フチを折り筋に
合わせて折る

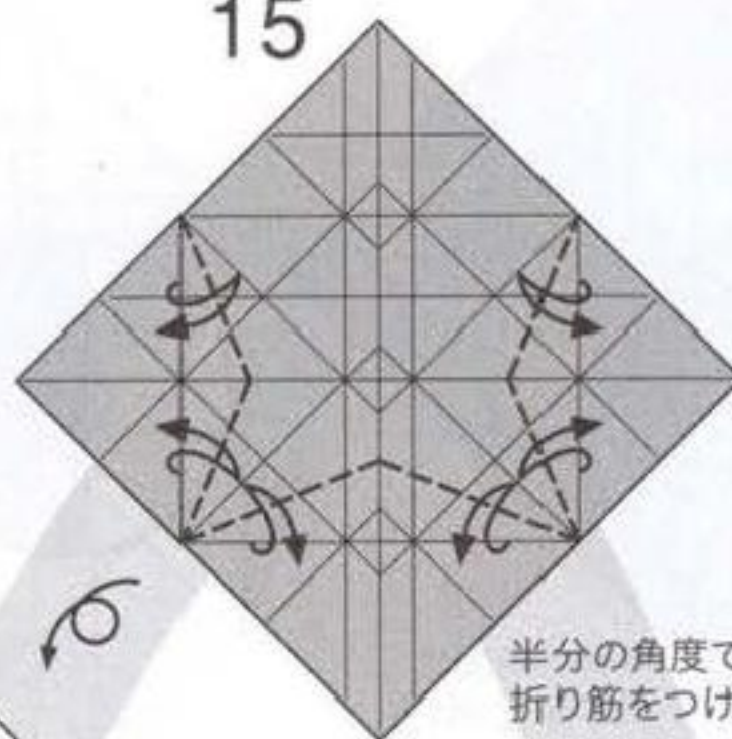
19

フチを
折り筋に合わせて
折り筋をつける

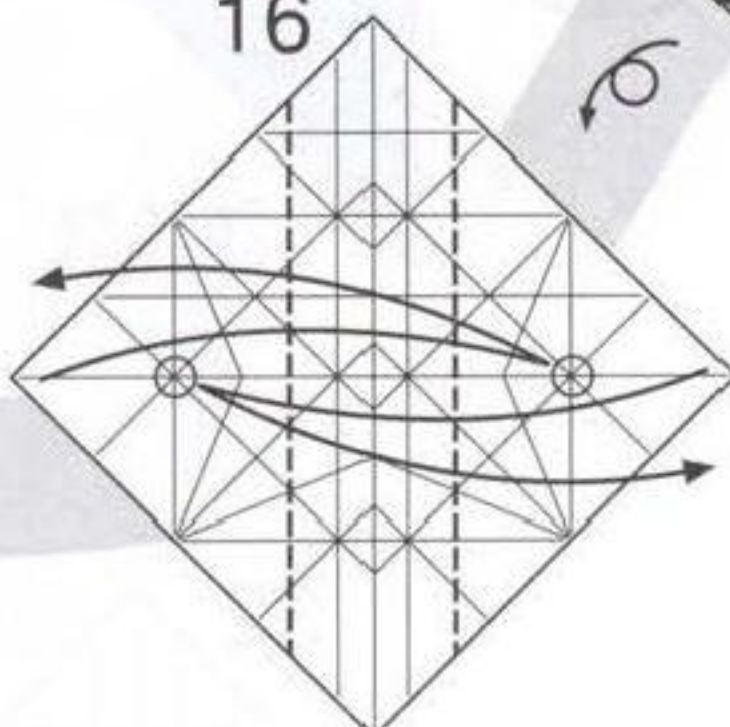
18

ついている折り筋で
中わり折り

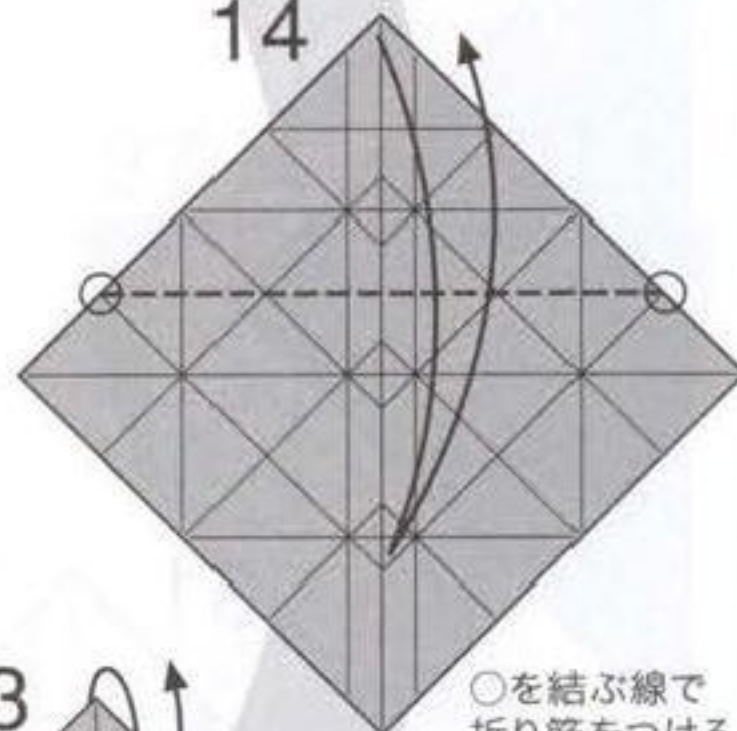
15

半分の角度で
折り筋をつける

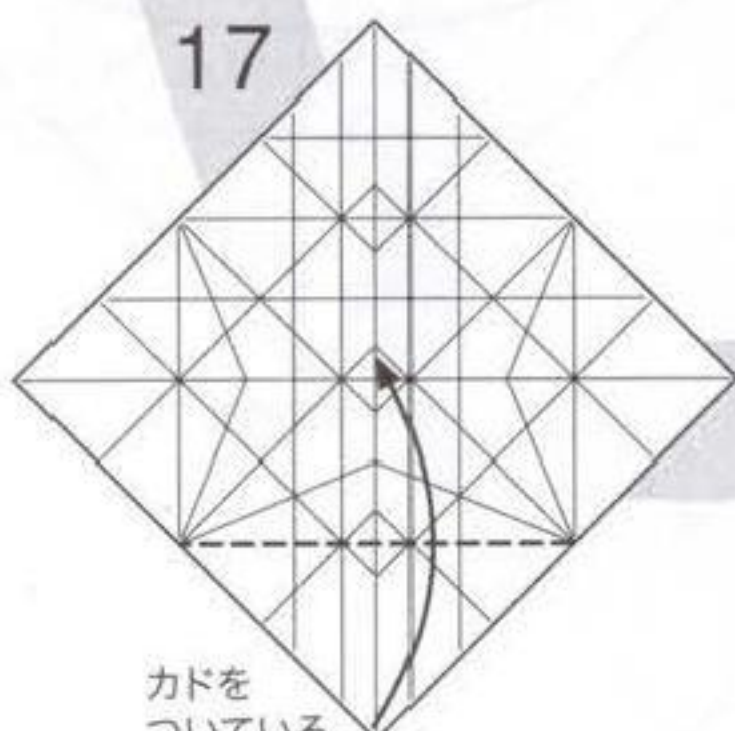
16

カドを○に
合わせて
折り筋をつける

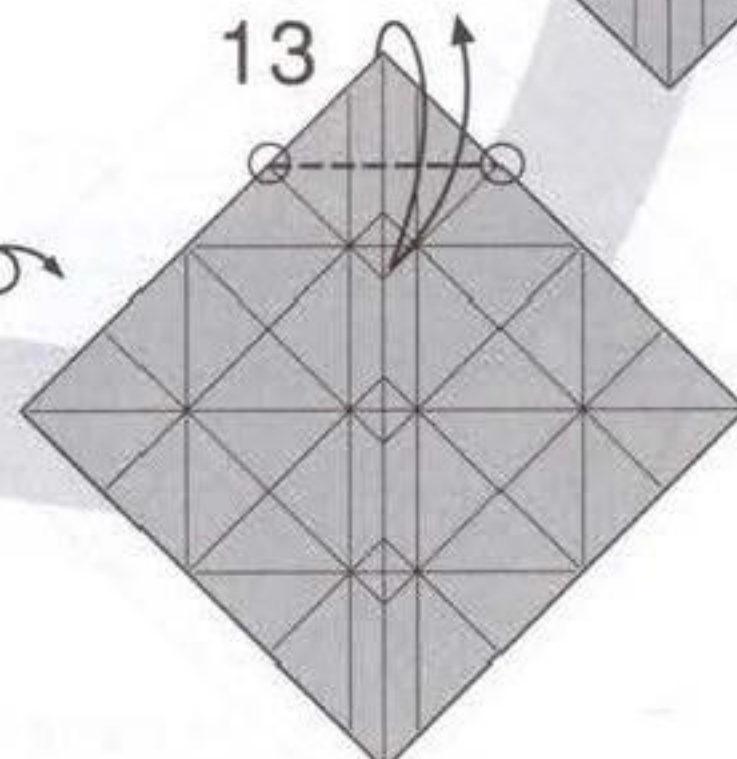
14

○を結ぶ線で
折り筋をつける

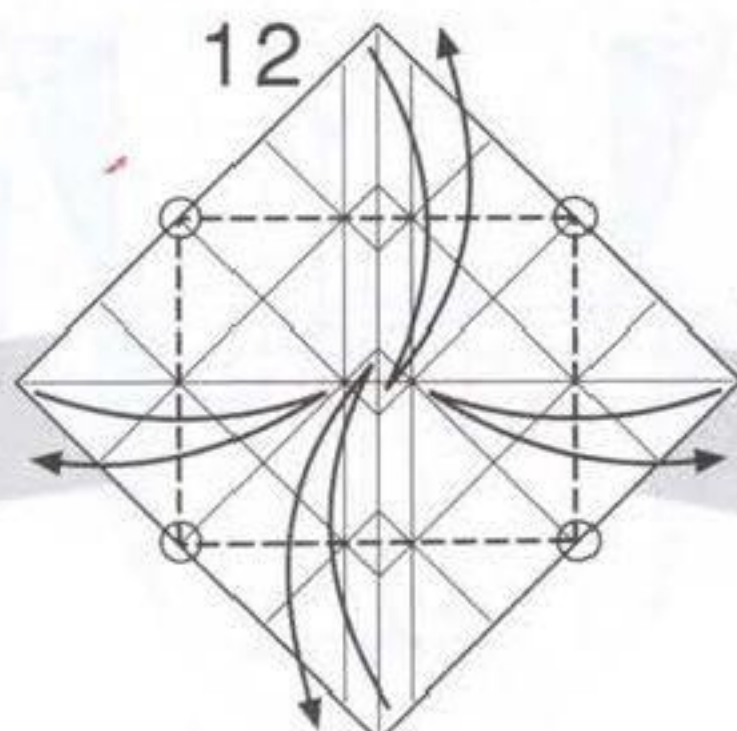
17

カドを
ついている
折り筋で折る

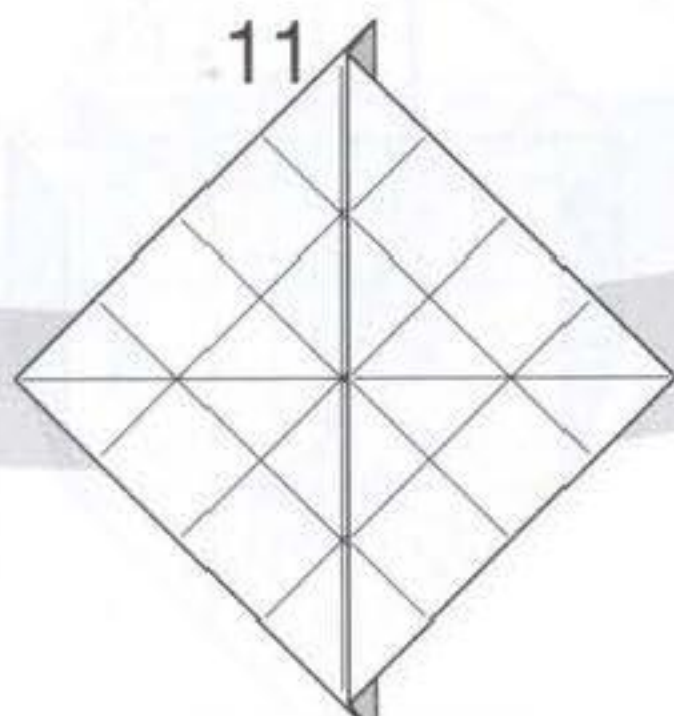
13

○を結ぶ線で
折り筋をつける

12

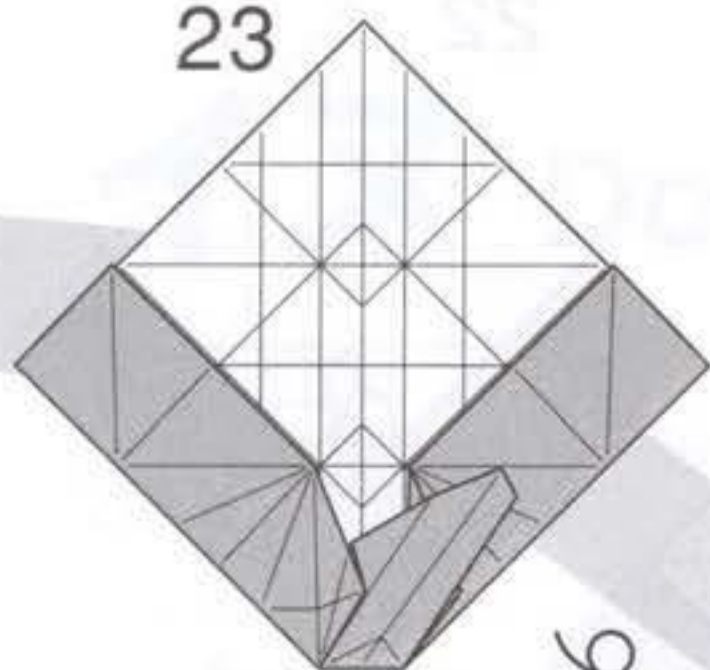
○を結ぶ線で
折り筋をつける

11

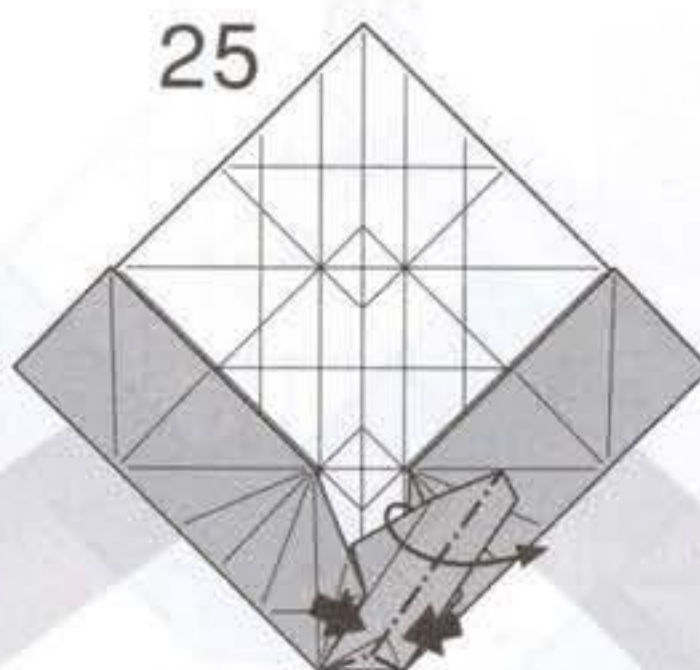


全部ひるげる

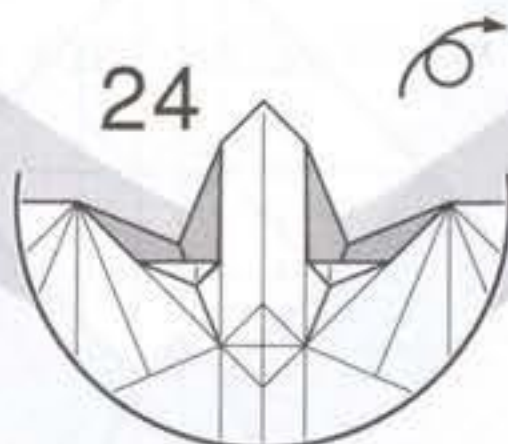
23



25

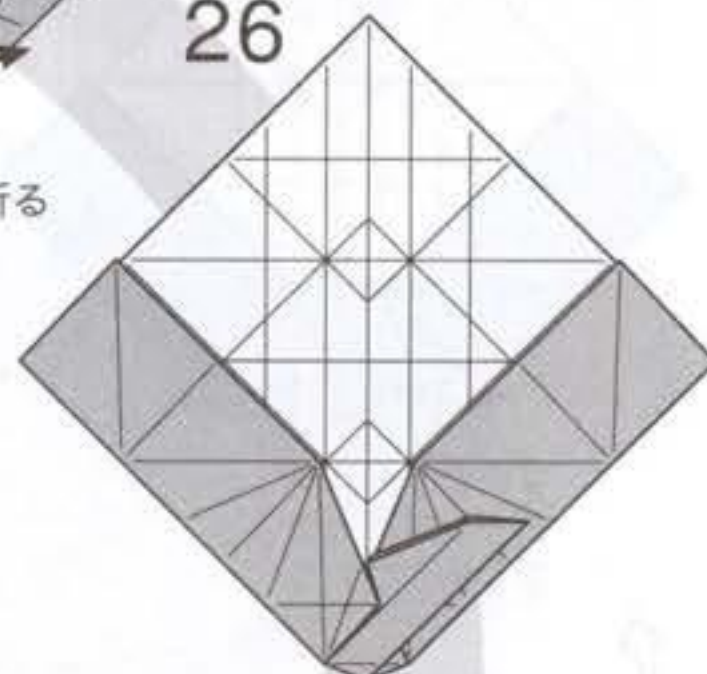


24



内側の起き上がってきた部分は
図のようにひろげてつぶす

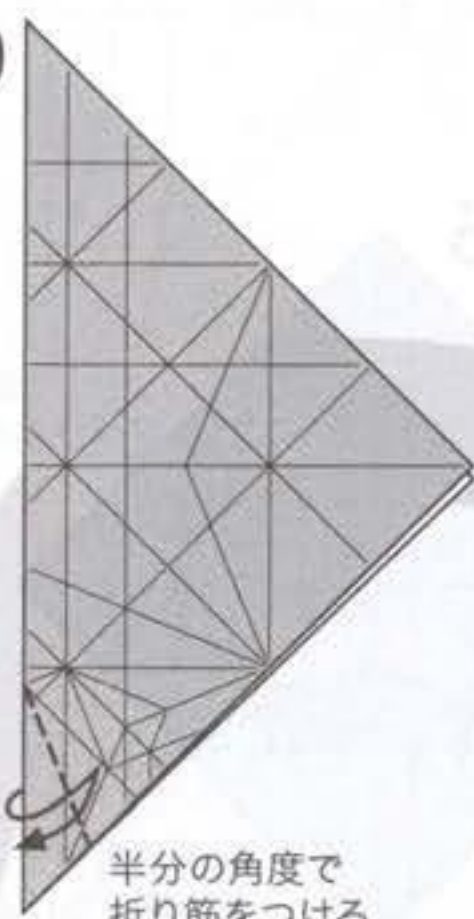
26



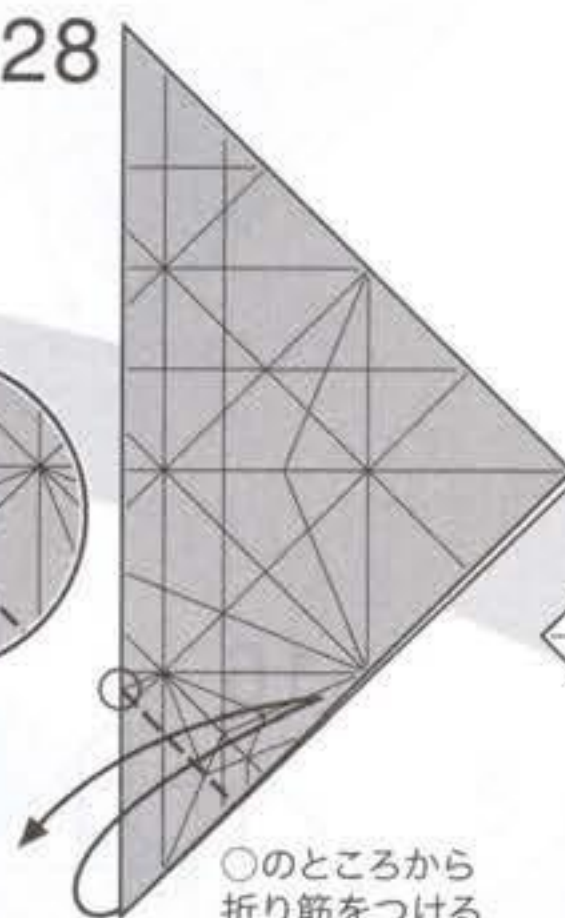
カドをつまむように折る

全部ひろげる

29

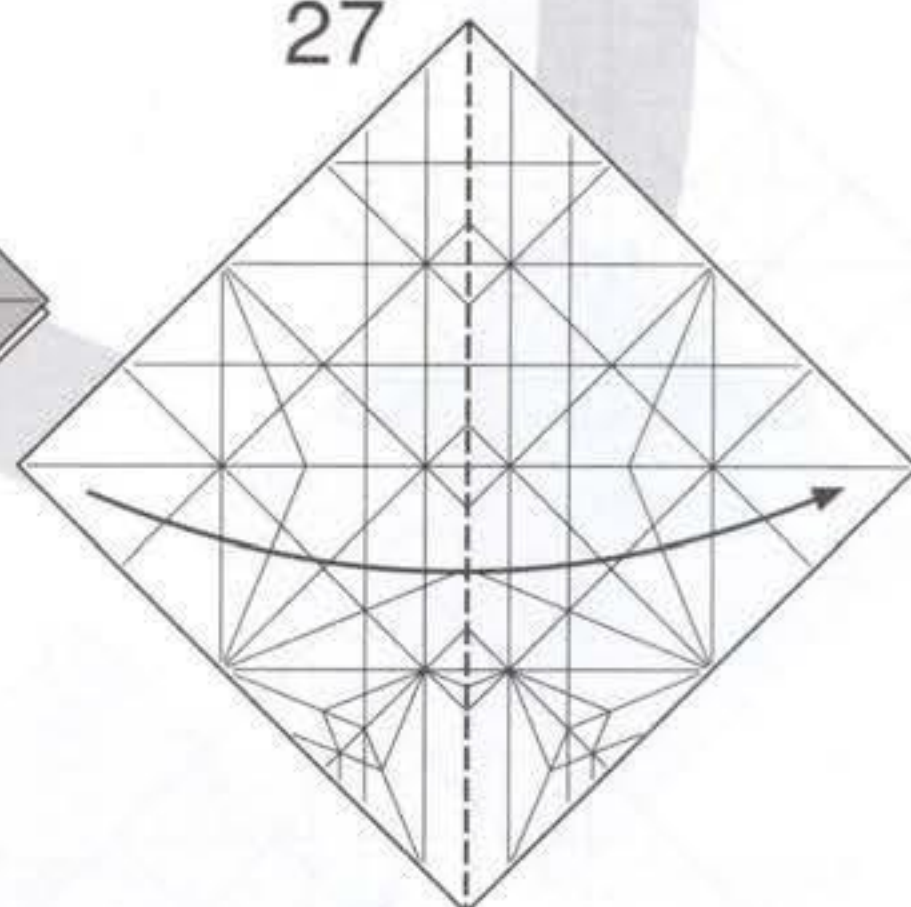


28



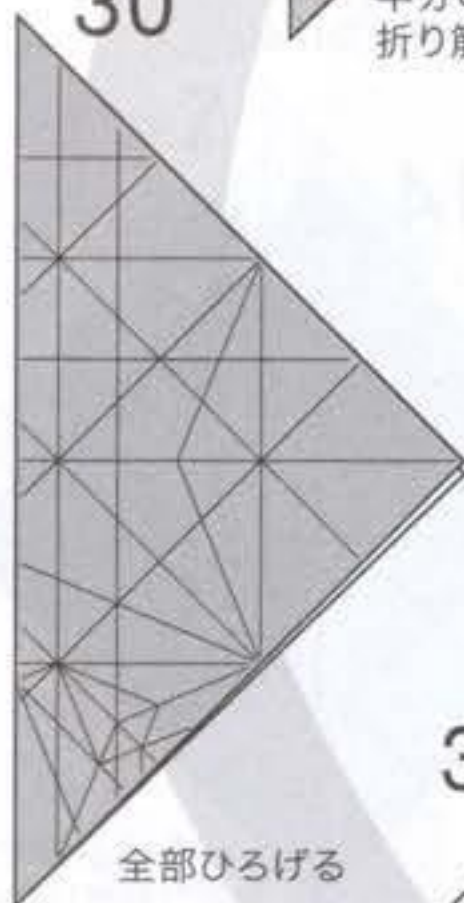
○のところから
折り筋をつける

27



半分に折る

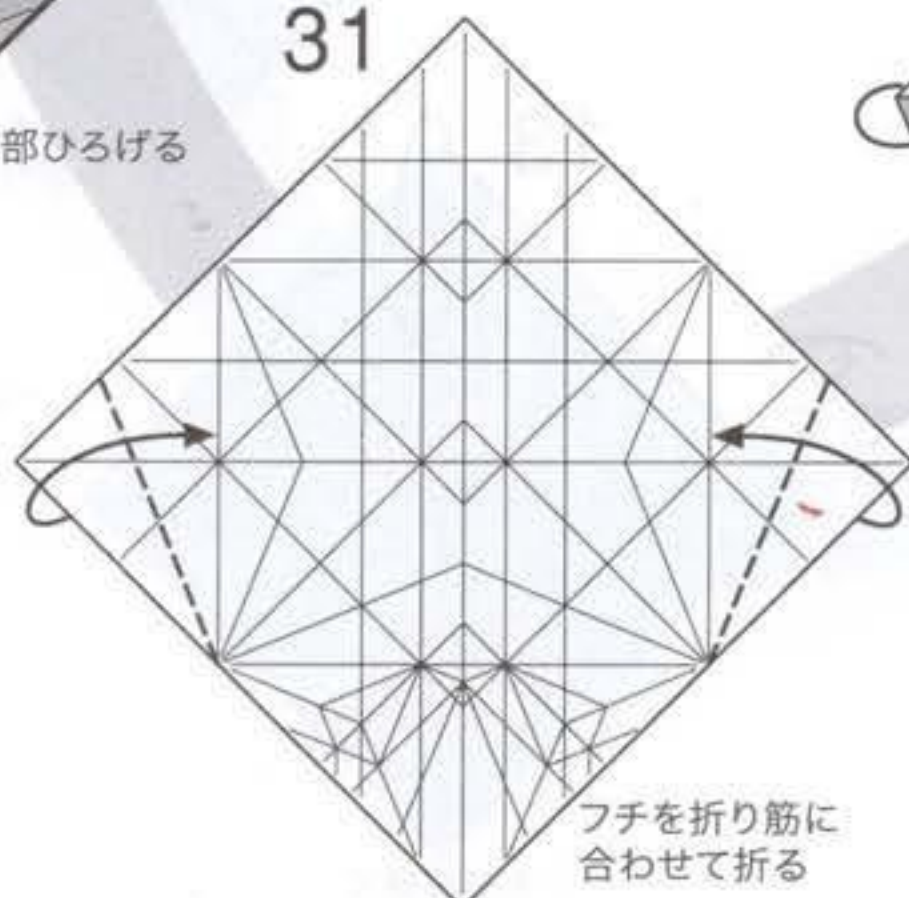
30



半分の角度で
折り筋をつける

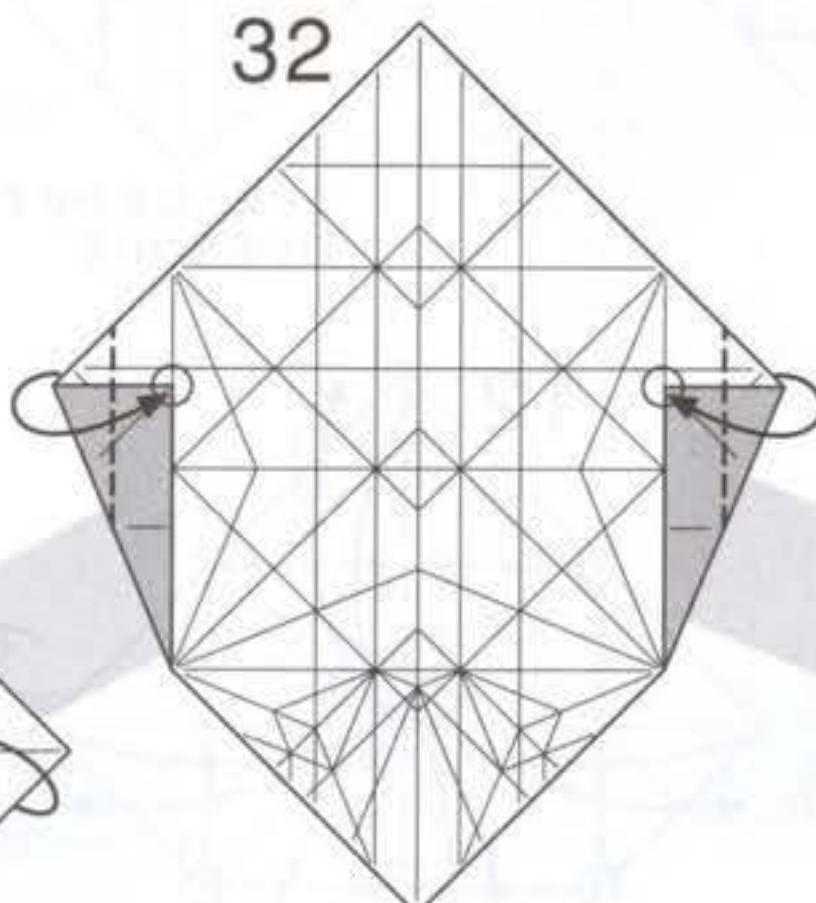
全部ひろげる

31



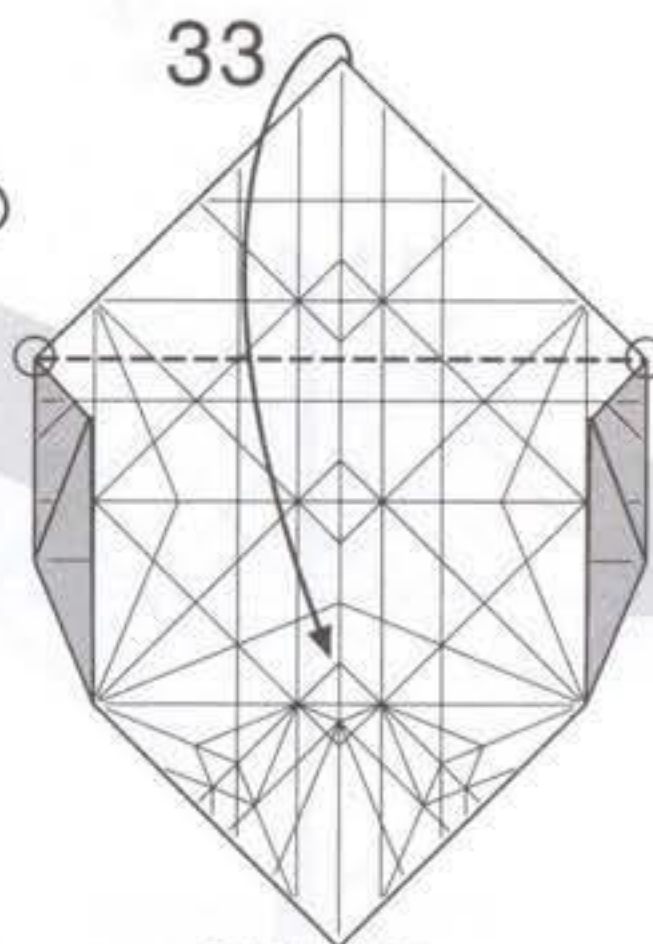
フチを折り筋に
合わせて折る

32

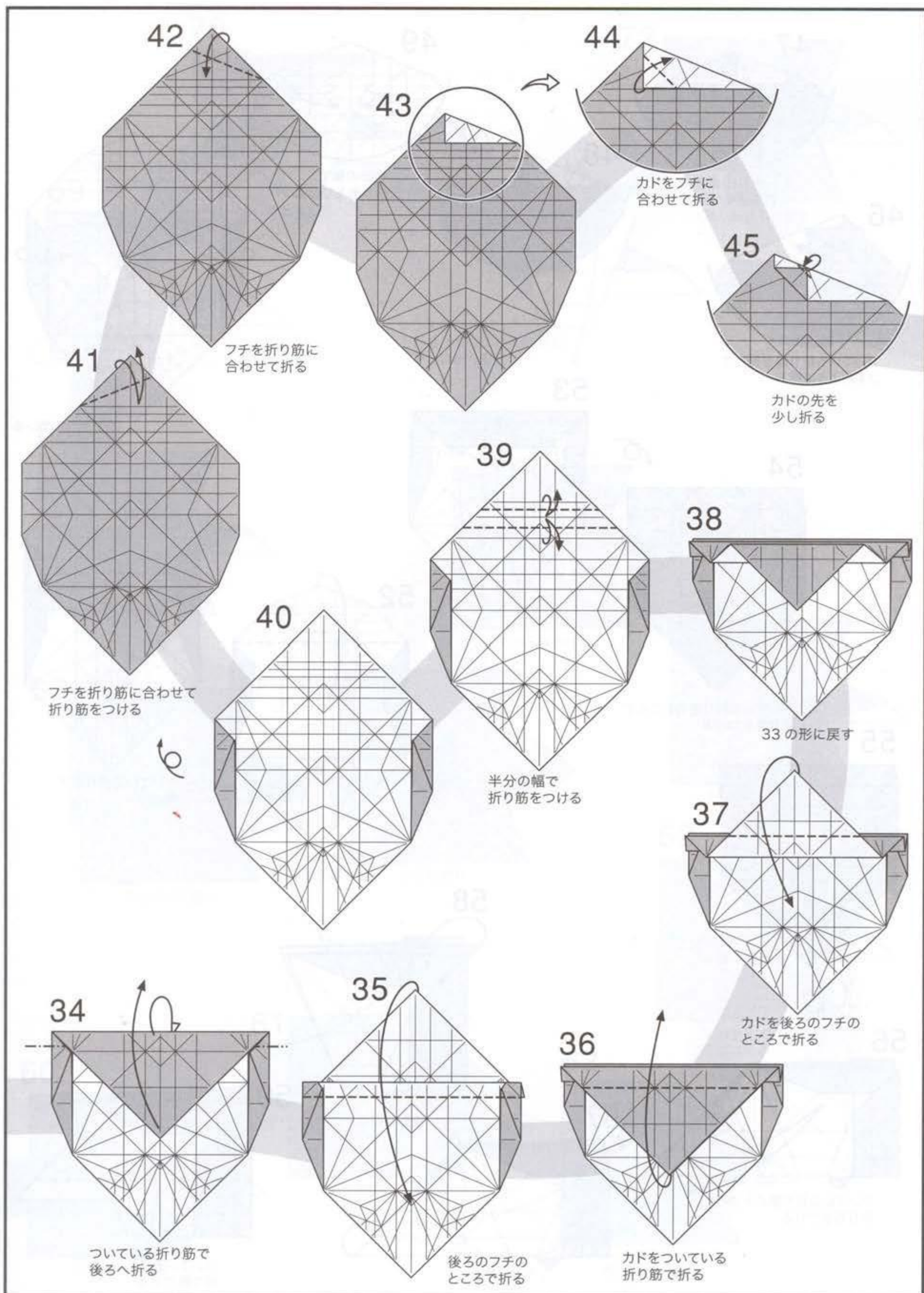


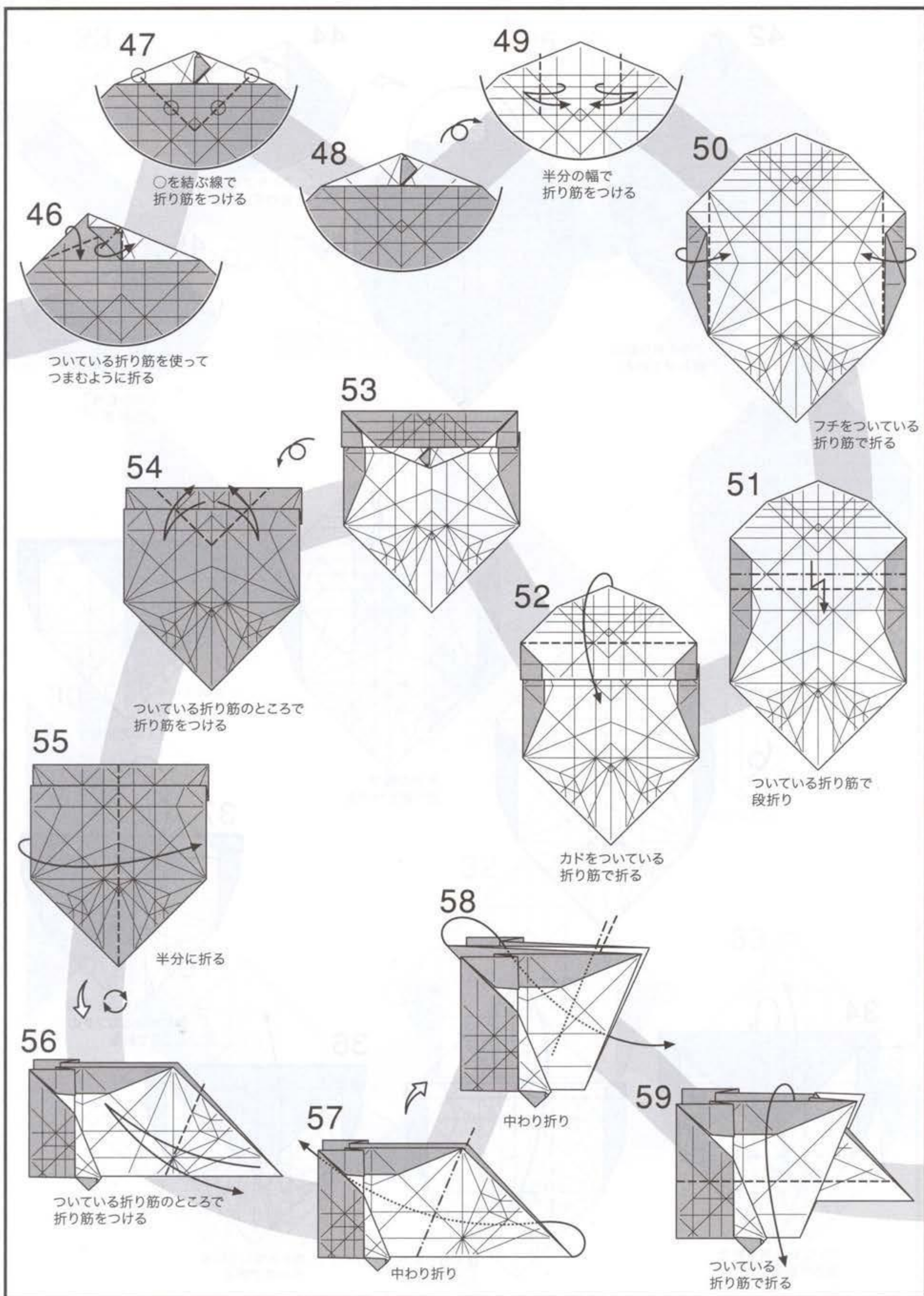
カドとカドを
合わせて折る

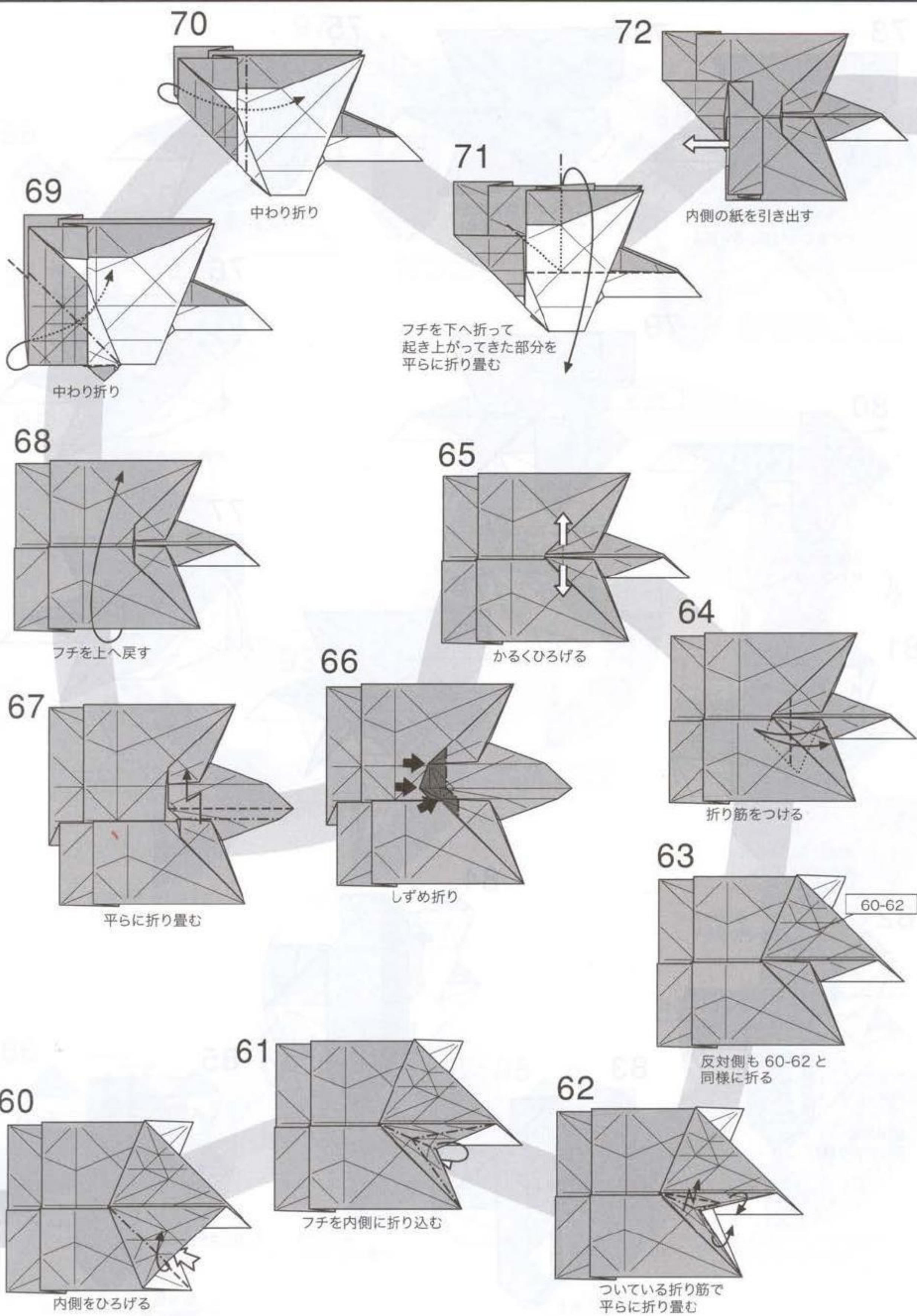
33



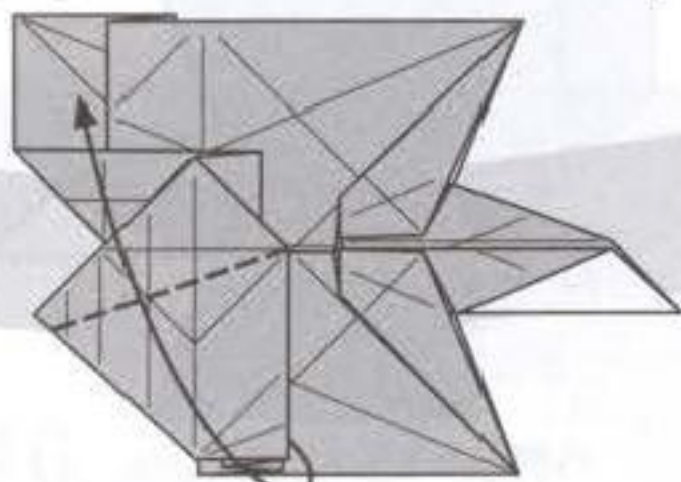
○を結ぶ線で
折る





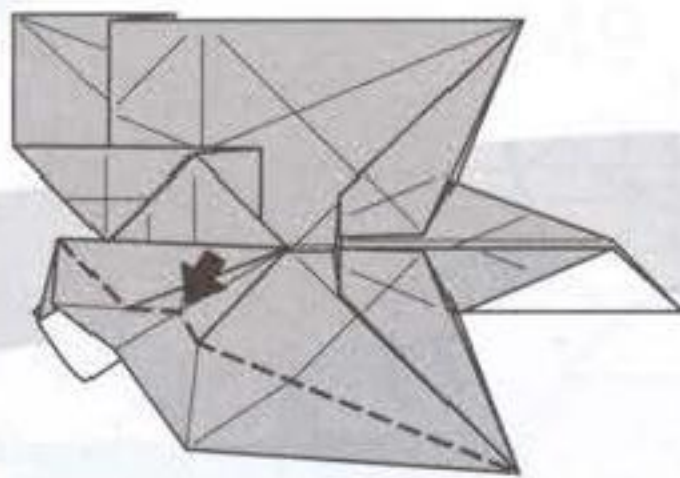


73

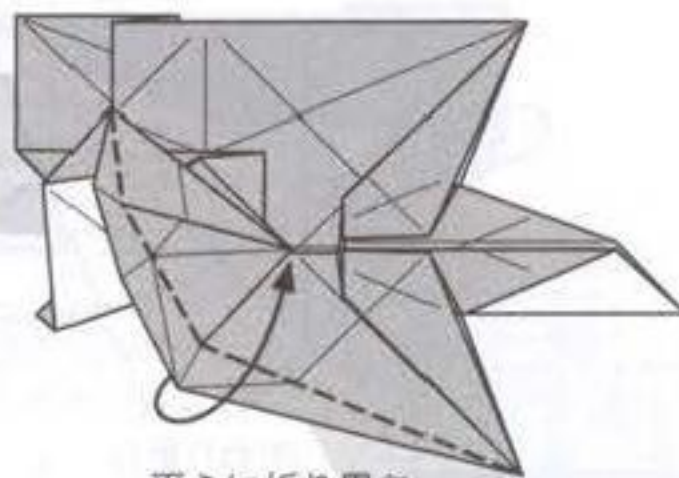


ヒダをひろげるように折る

74

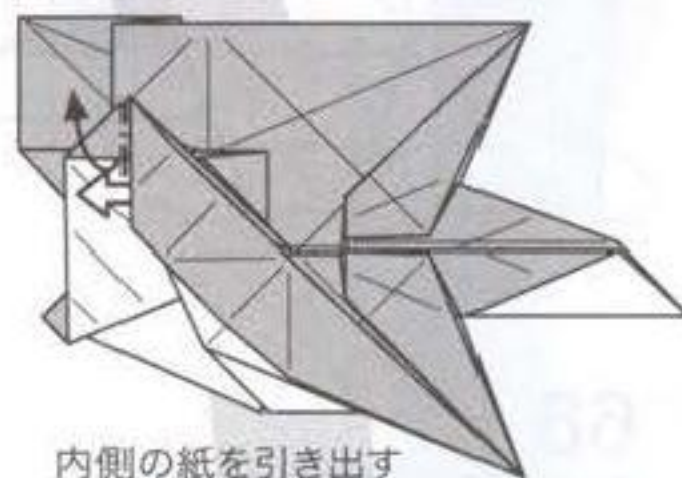
ついている折り筋を使って
ヒダをつぶすように折る

75



平らに折り畳む

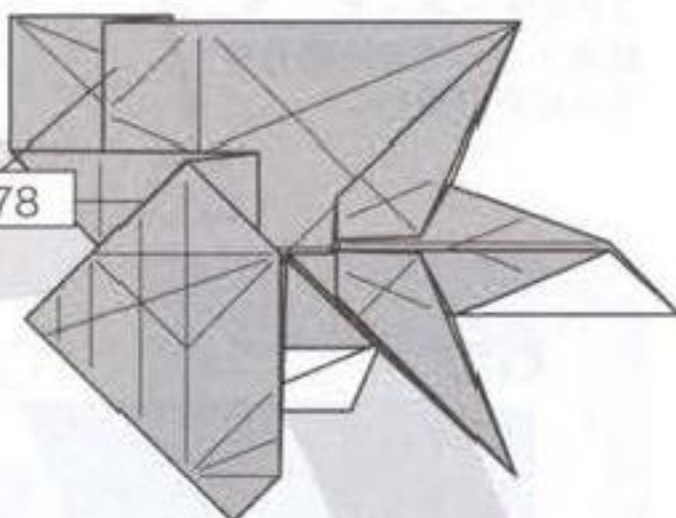
76



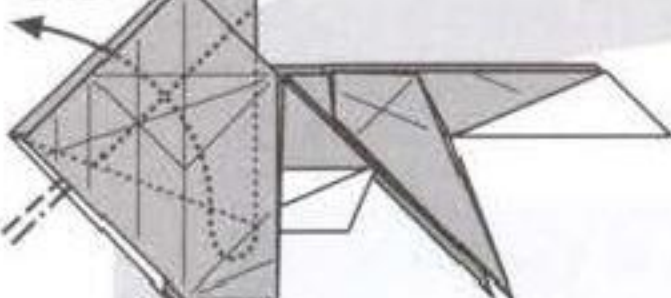
内側の紙を引き出す

79

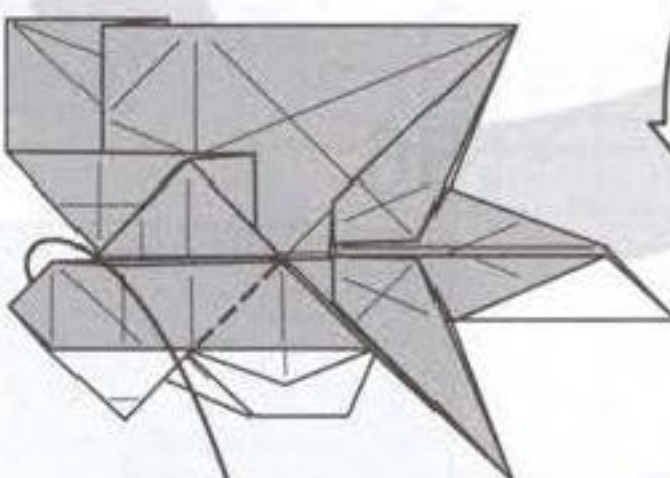
70-78

反対側も 70-78 と
同様に折る

80

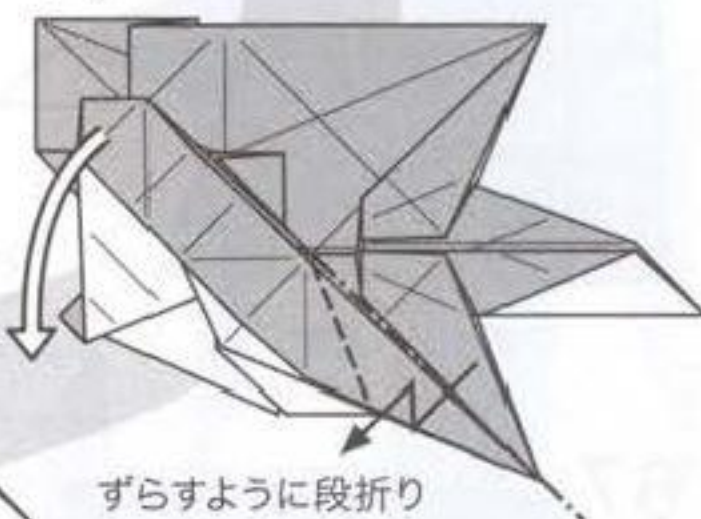
内側のカドを
中わり折り

78



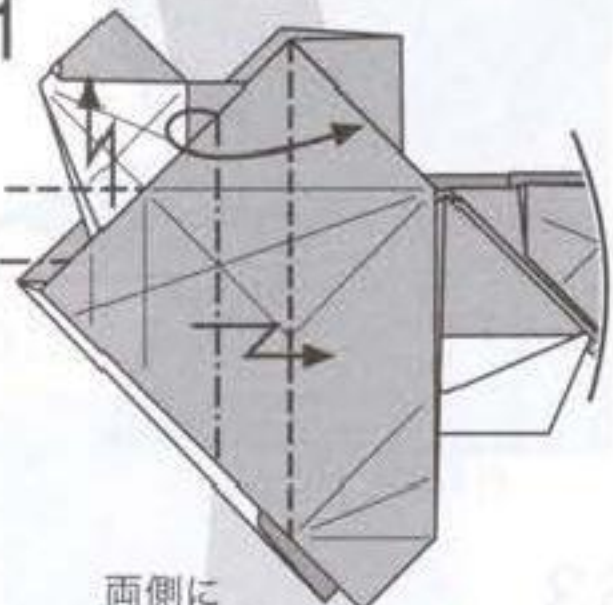
カドを下へ折る

77

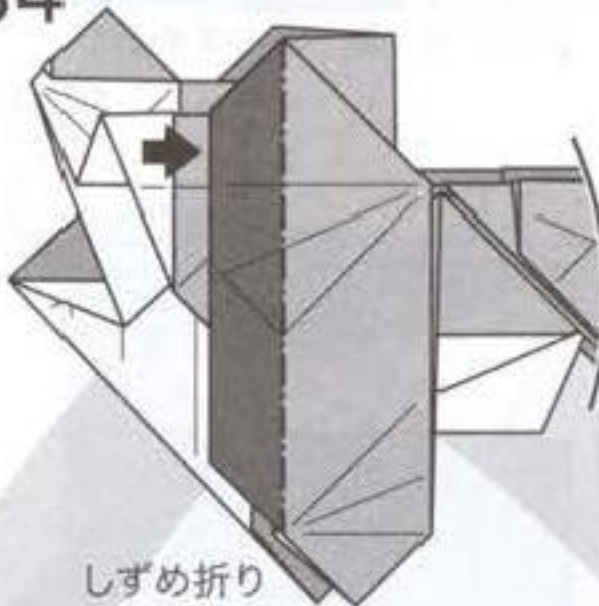


ずらすように段折り

81

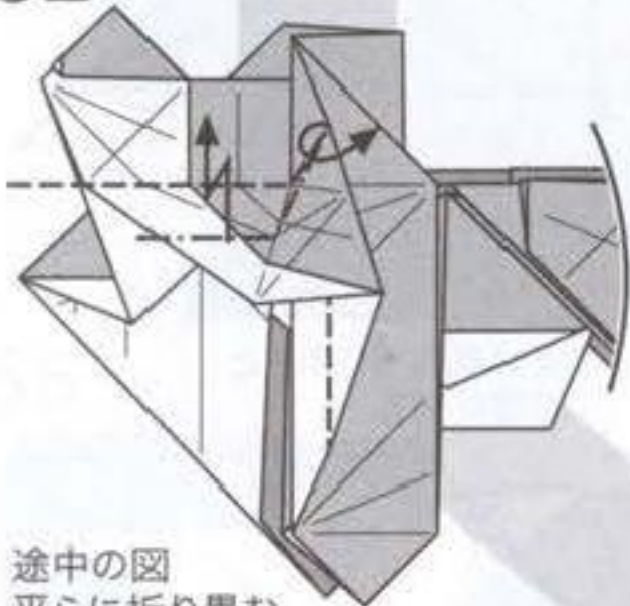
両側に
段折りするように
折り畳む

84

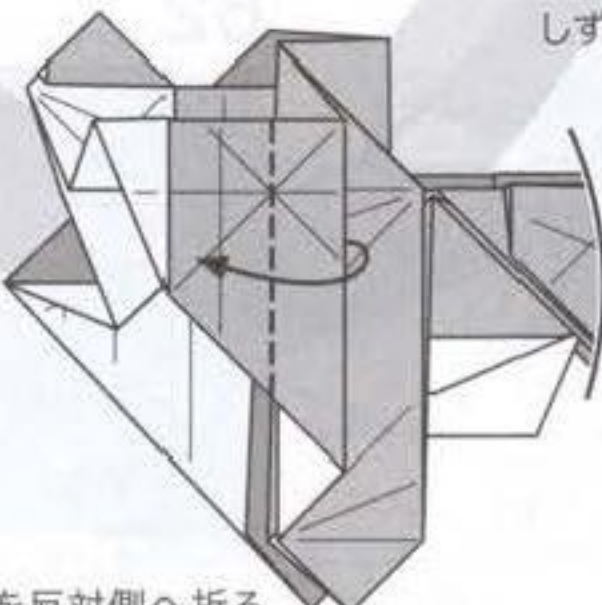


しずめ折り

82

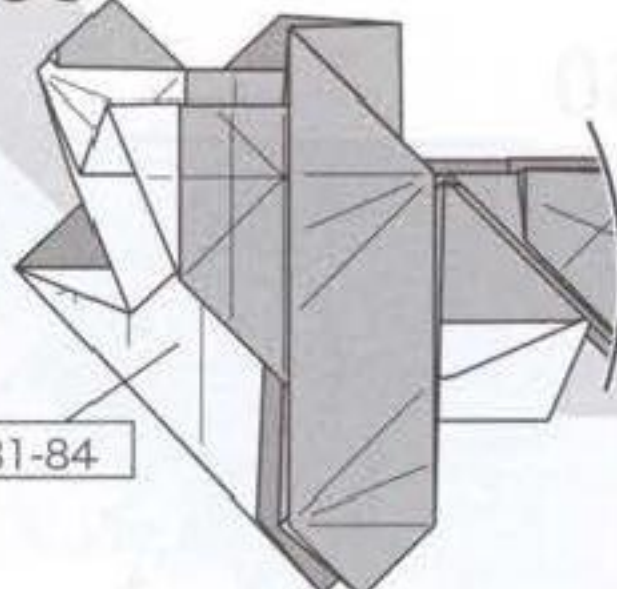
途中の図
平らに折り畳む

83



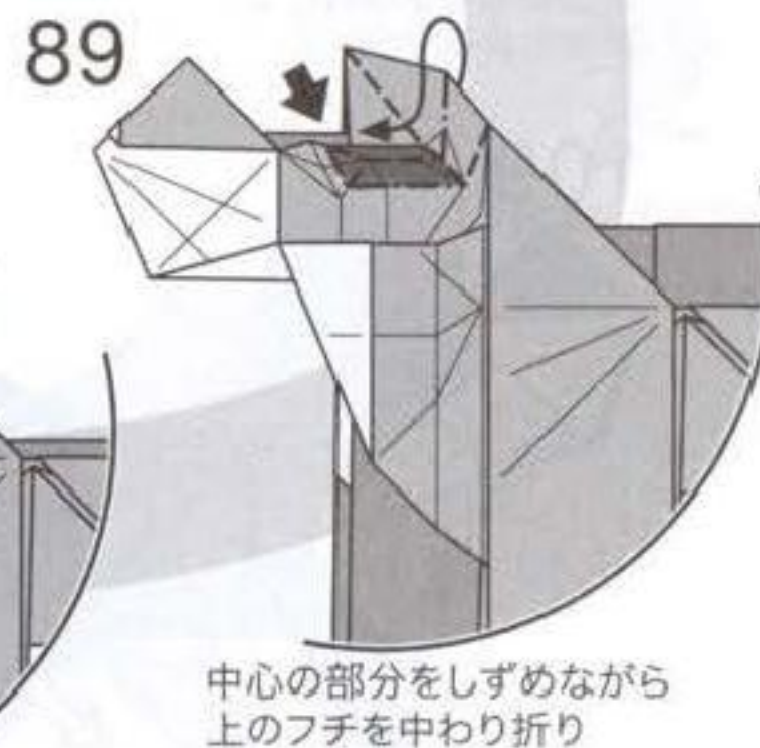
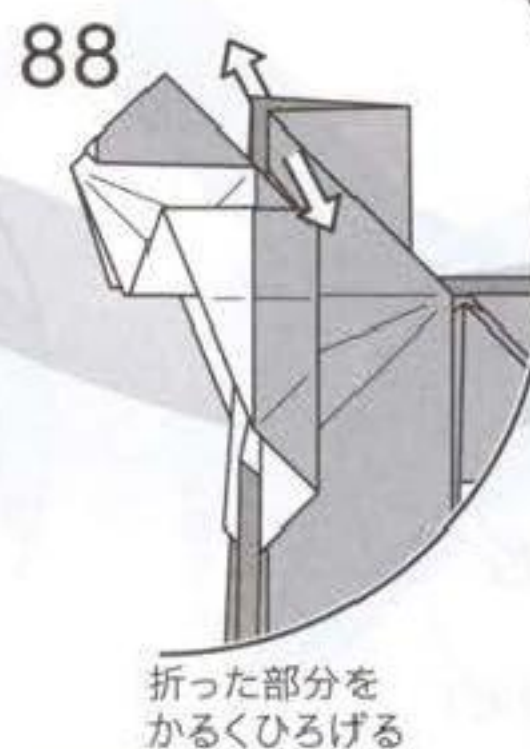
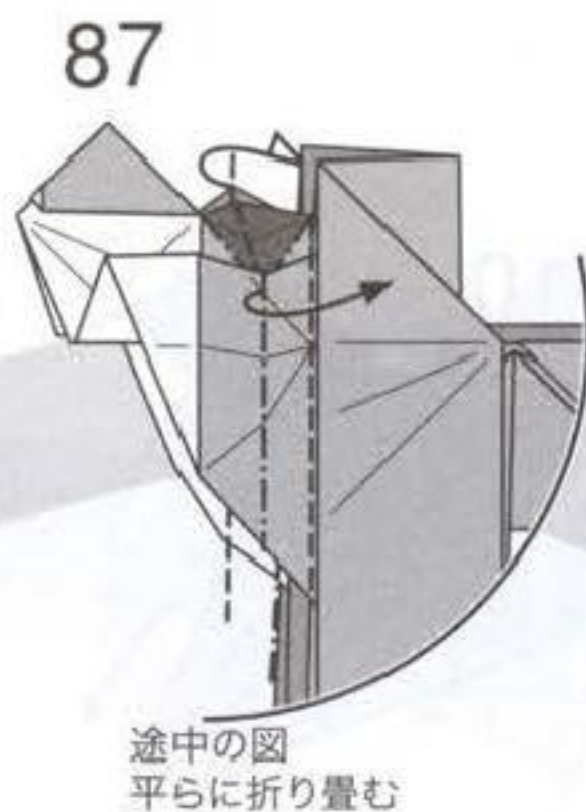
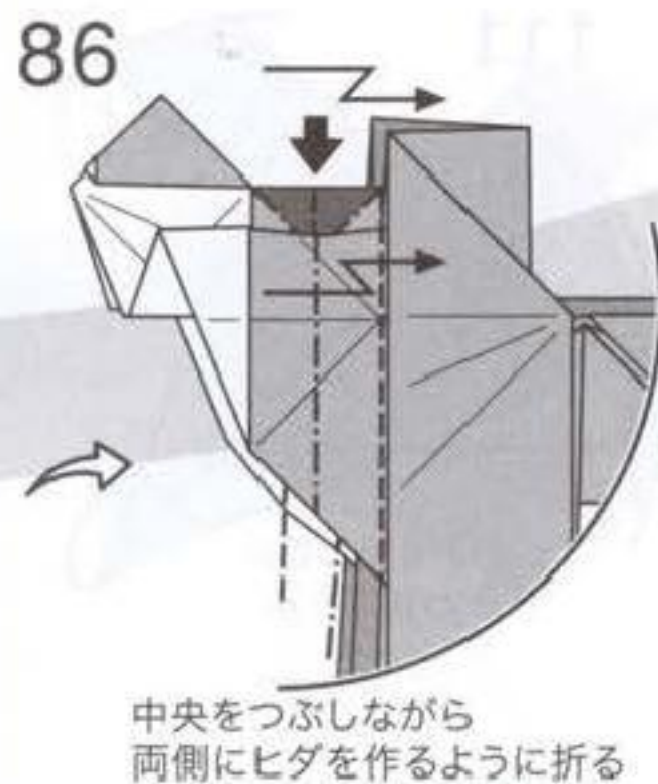
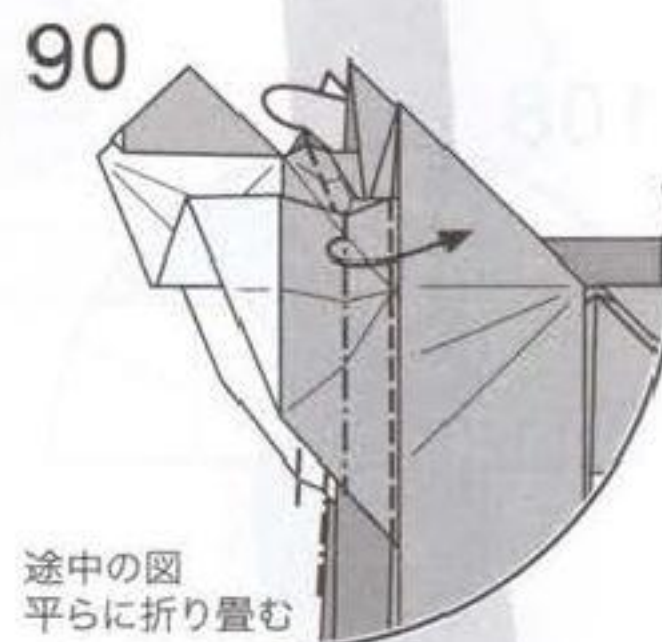
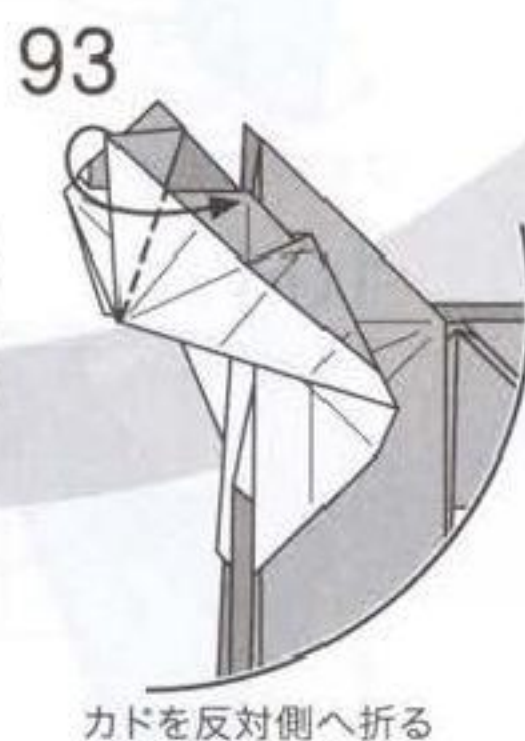
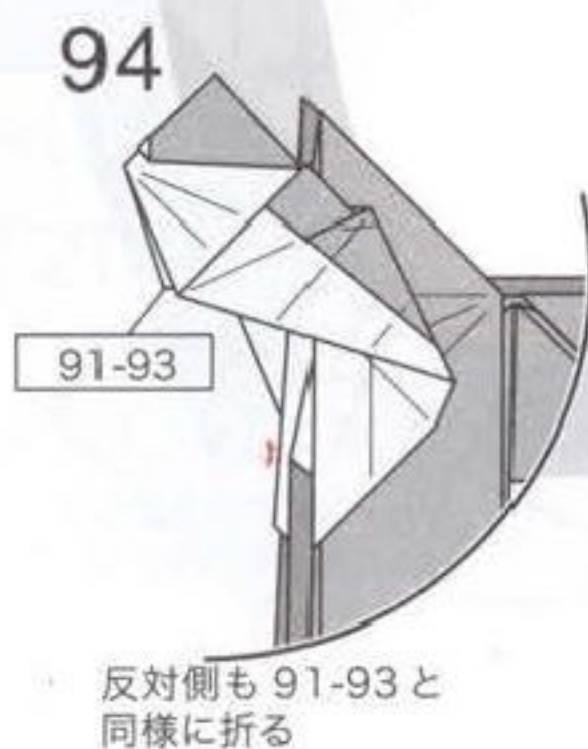
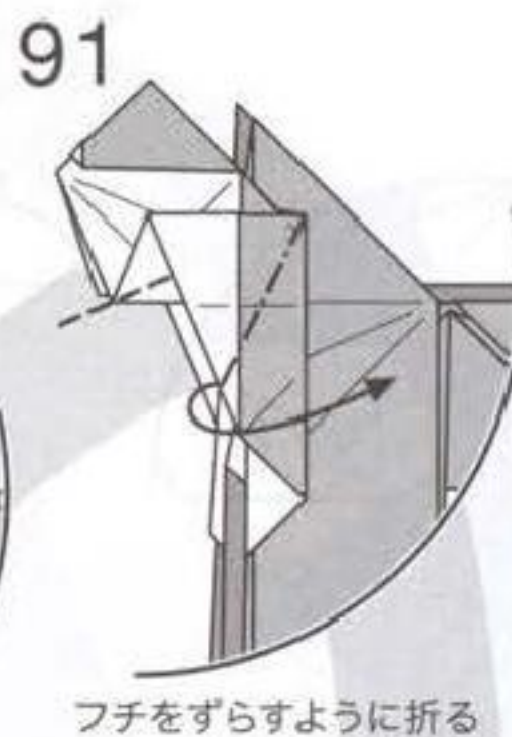
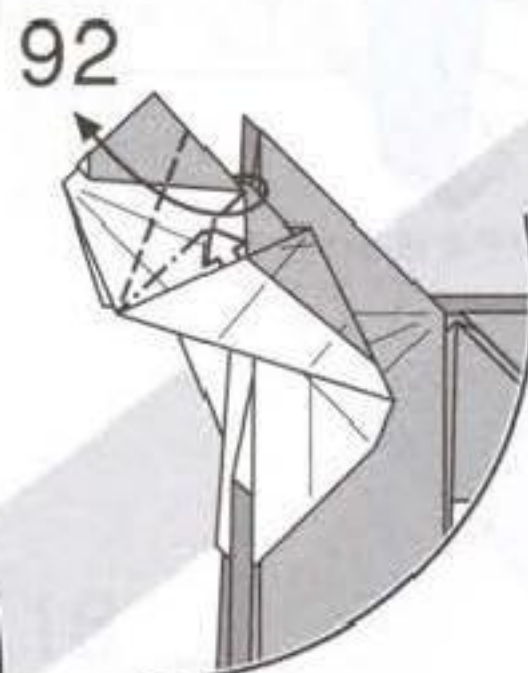
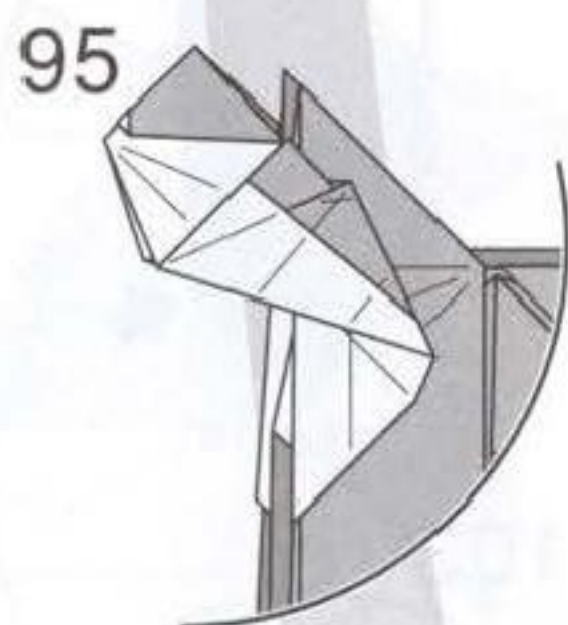
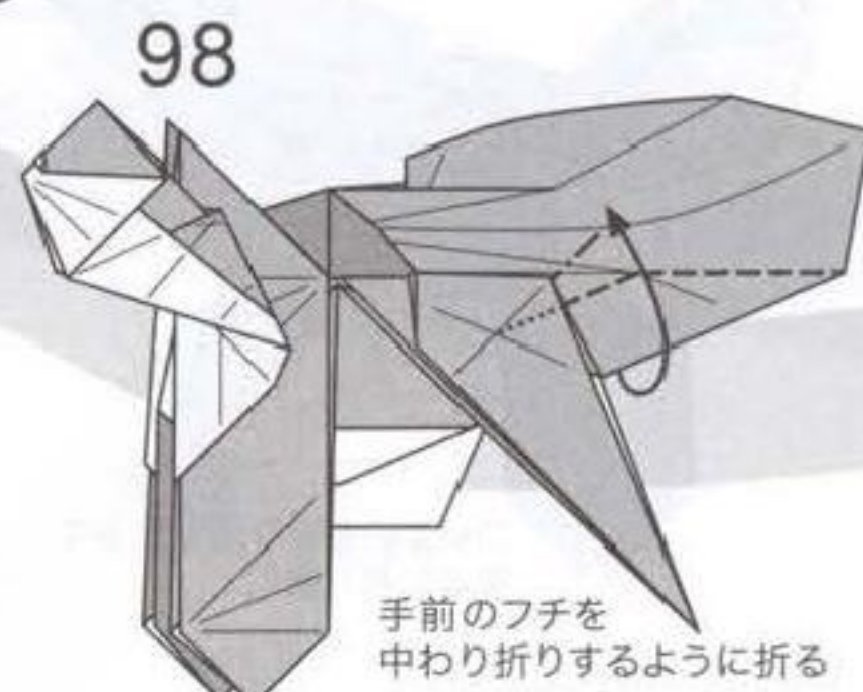
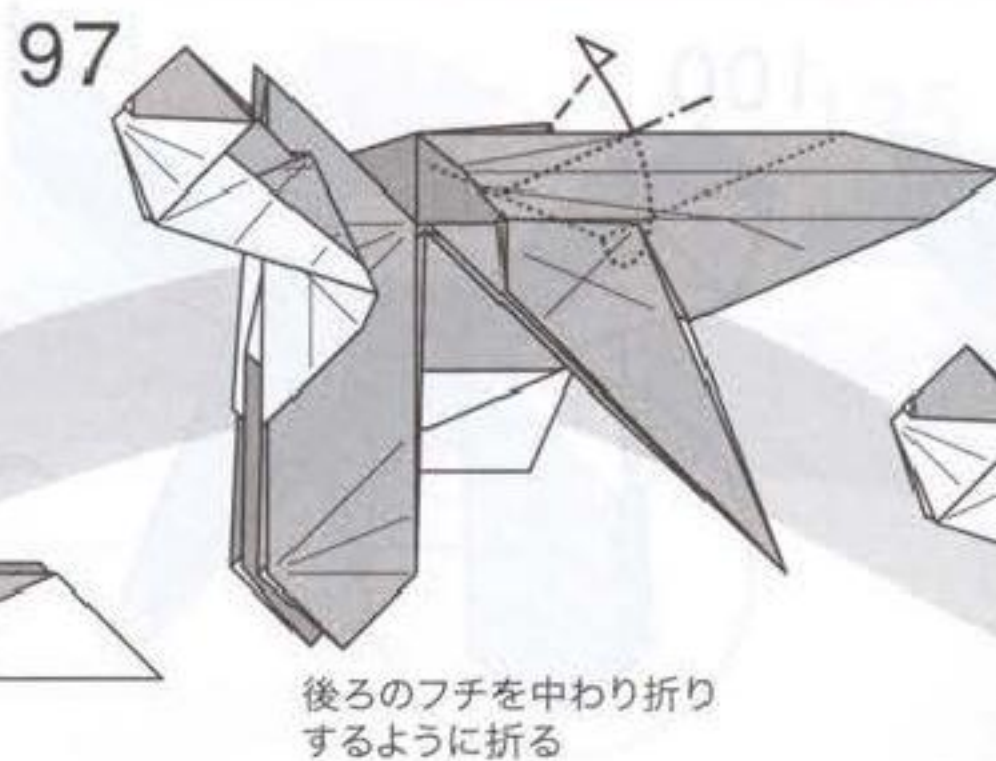
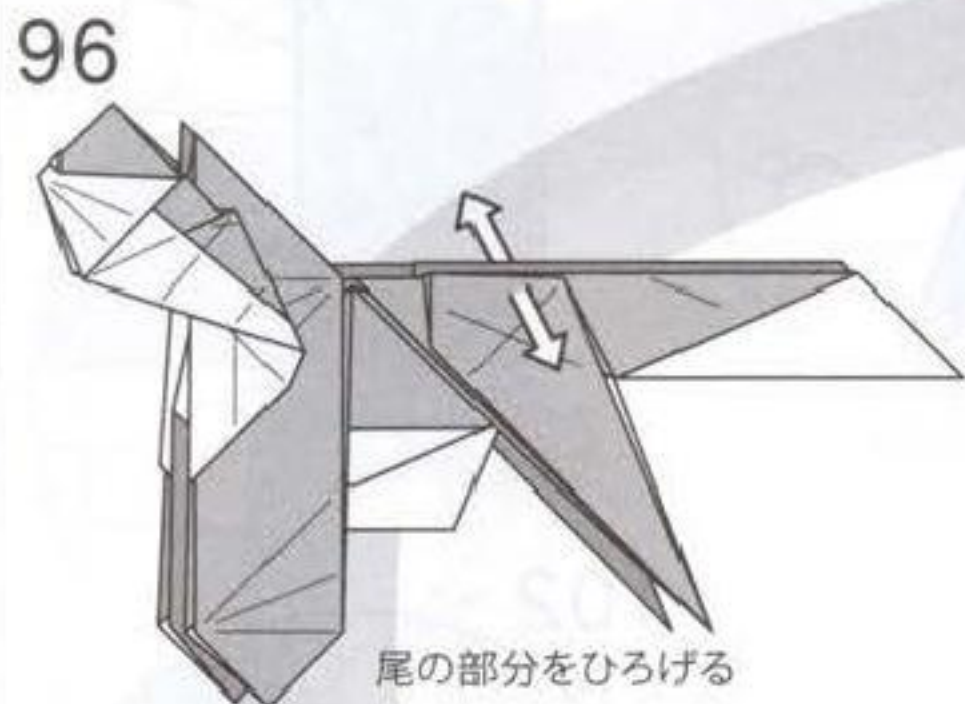
フチを反対側へ折る

85

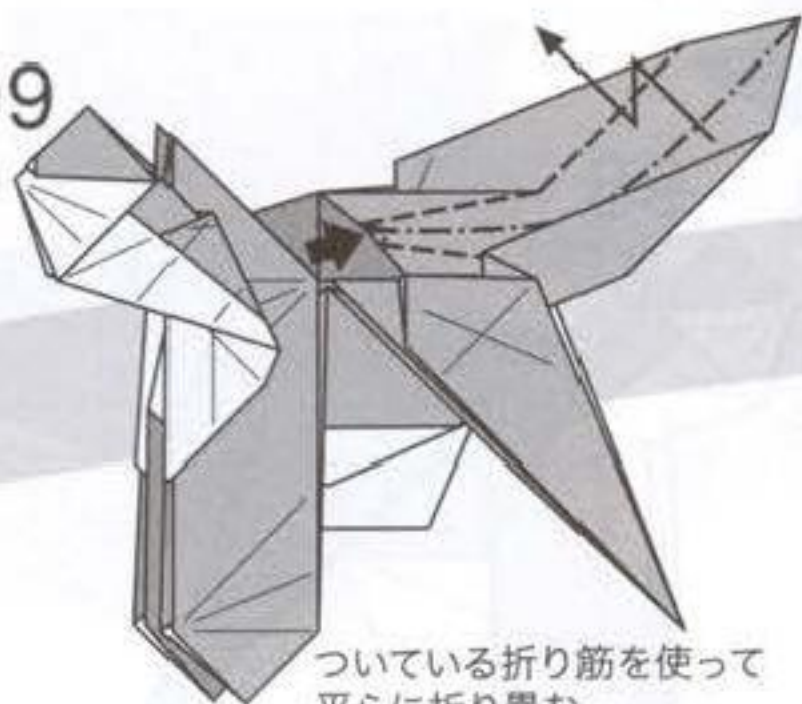


81-84

反対側も 81-84 と
同様に折る

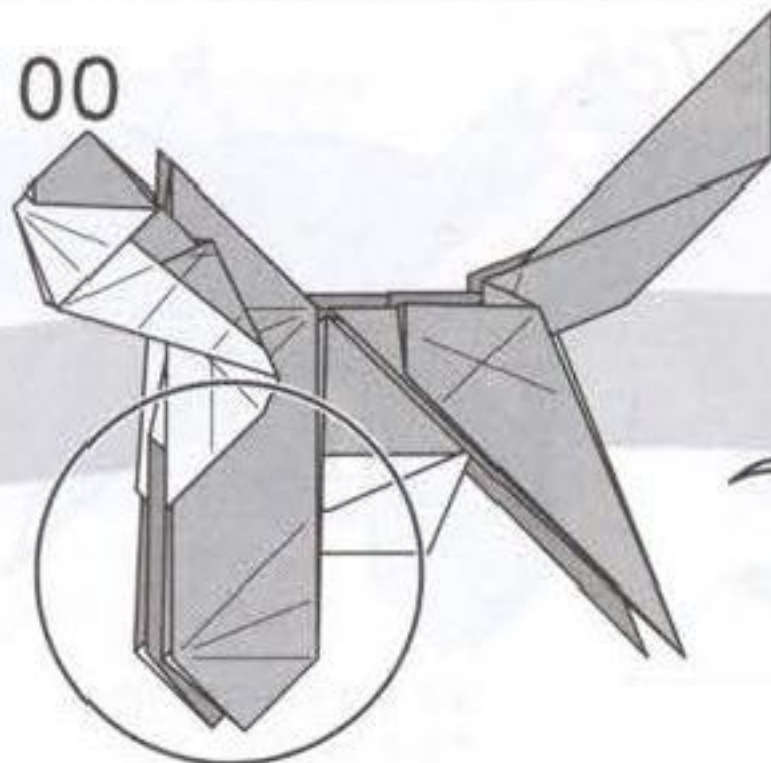


99

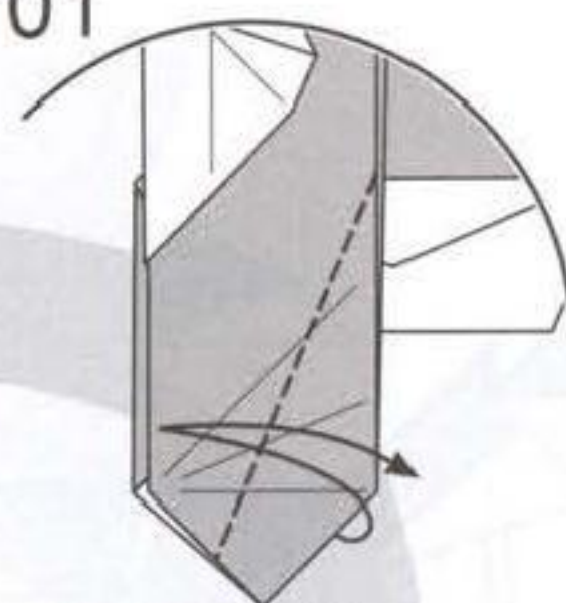


ついている折り筋を使って
平らに折り畳む

100

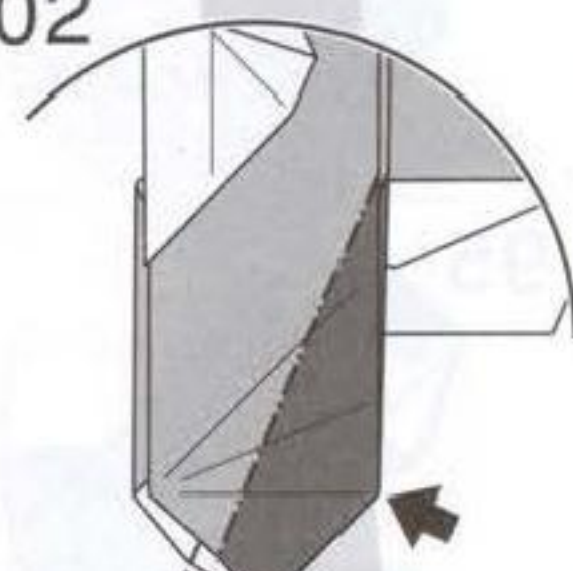


101



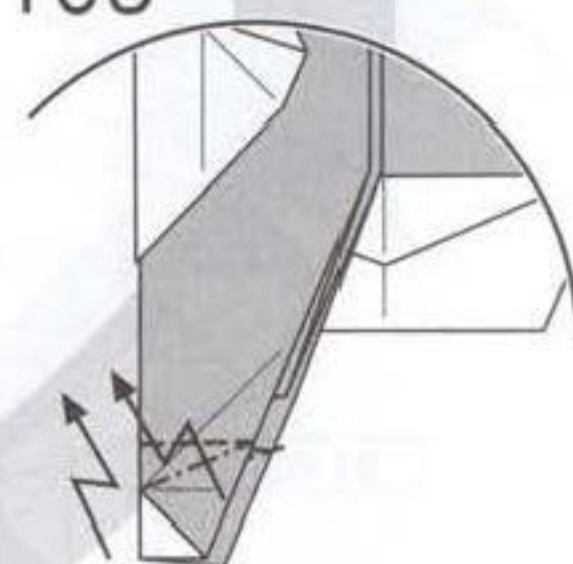
フチとフチを合わせて
折り筋をつける

102



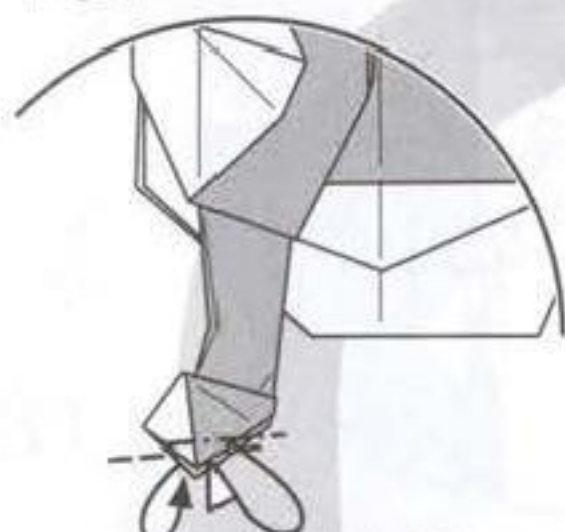
しずめ折り

103



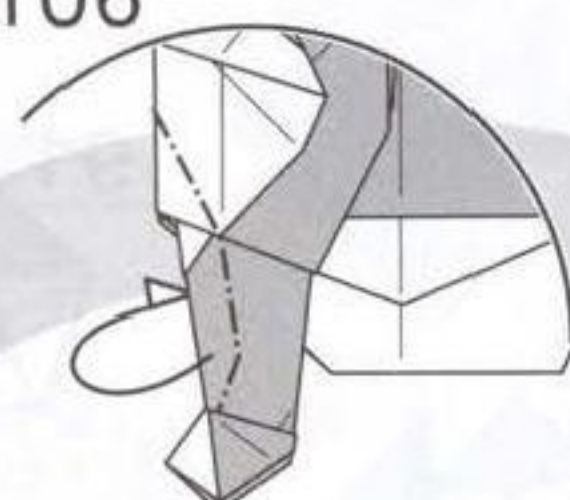
かぶせるように
両側で段折り

107



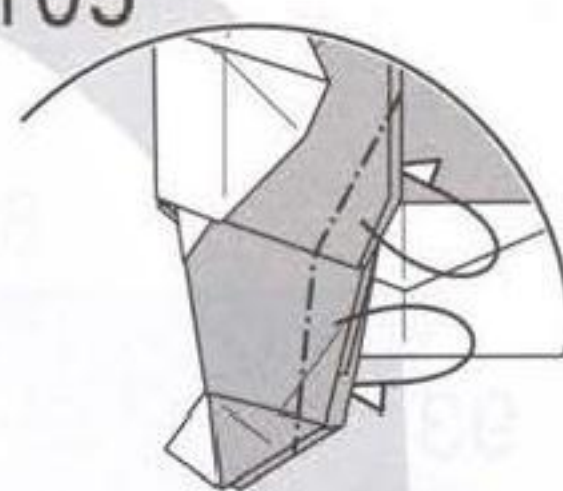
カドを内側に折り込む

106



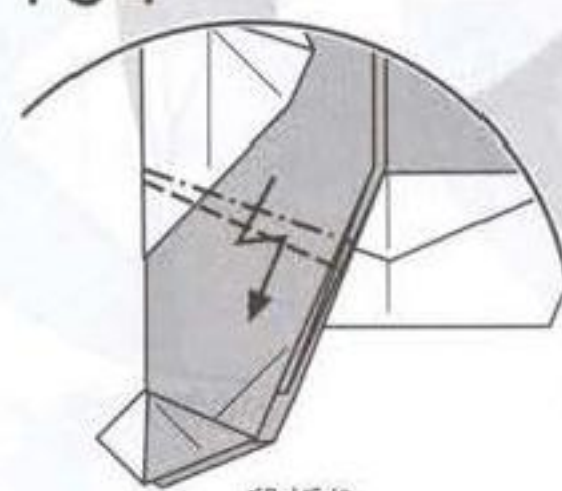
フチを後ろへ折る

105



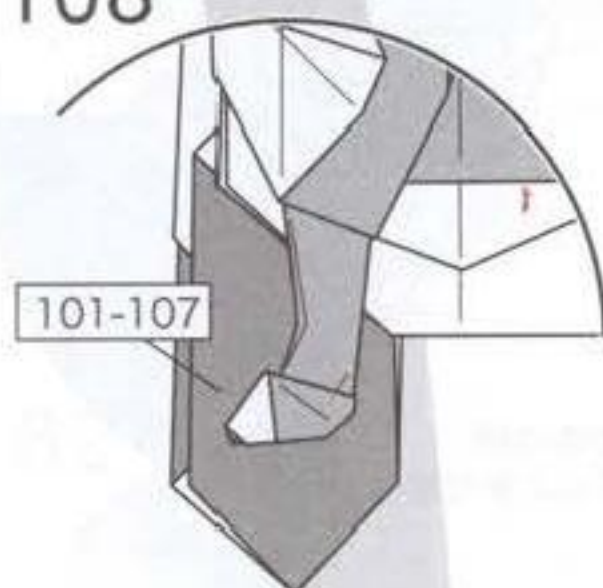
フチを後ろへ折る

104



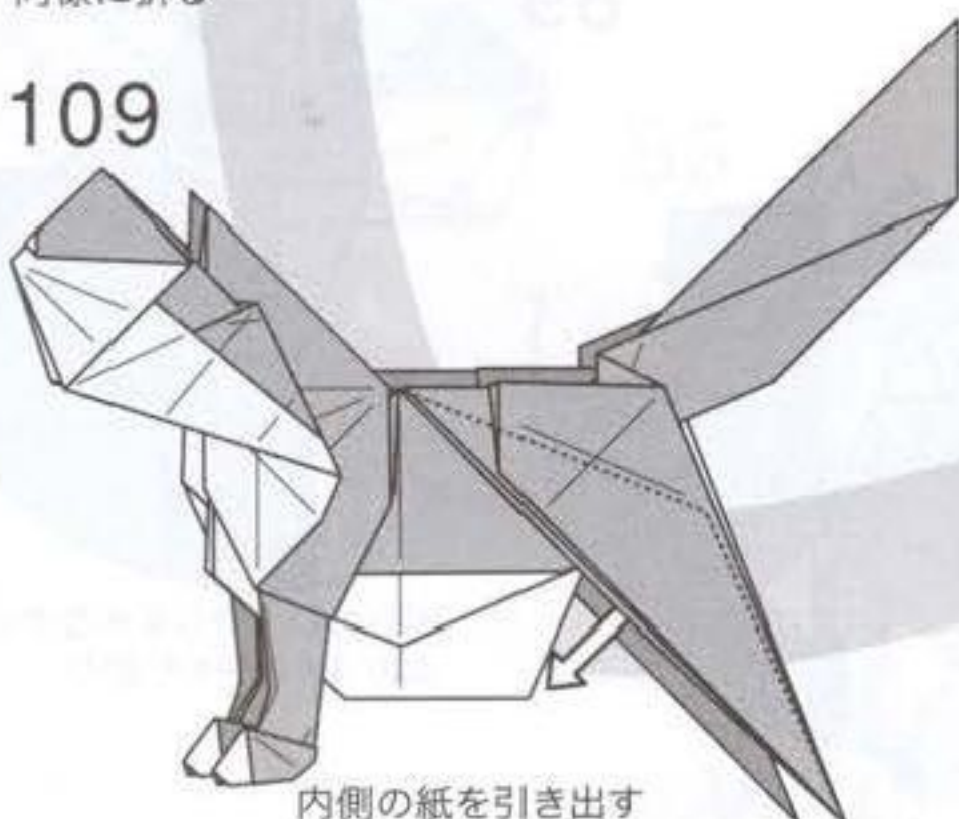
段折り

108



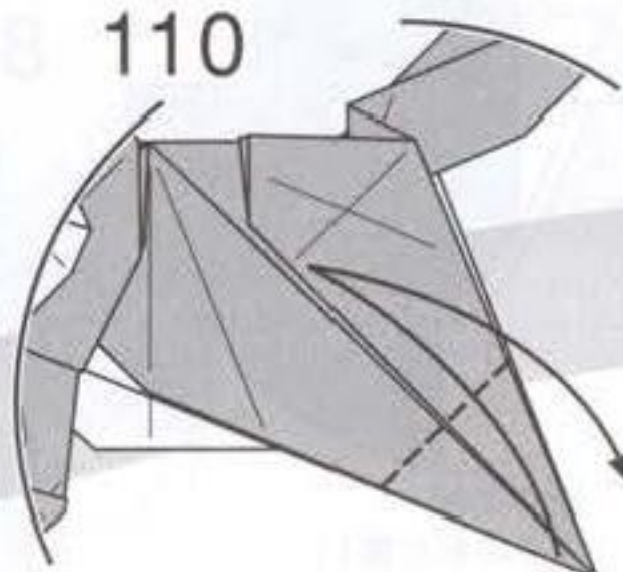
反対側も 101-107 と
同様に折る

109



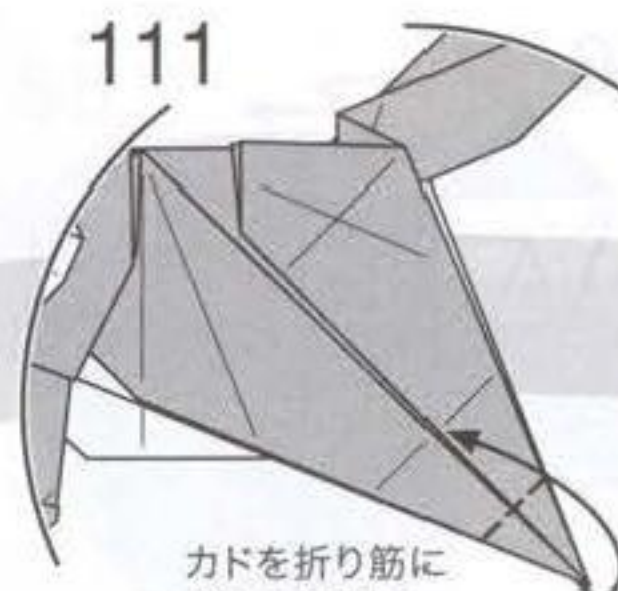
内側の紙を引き出す

110

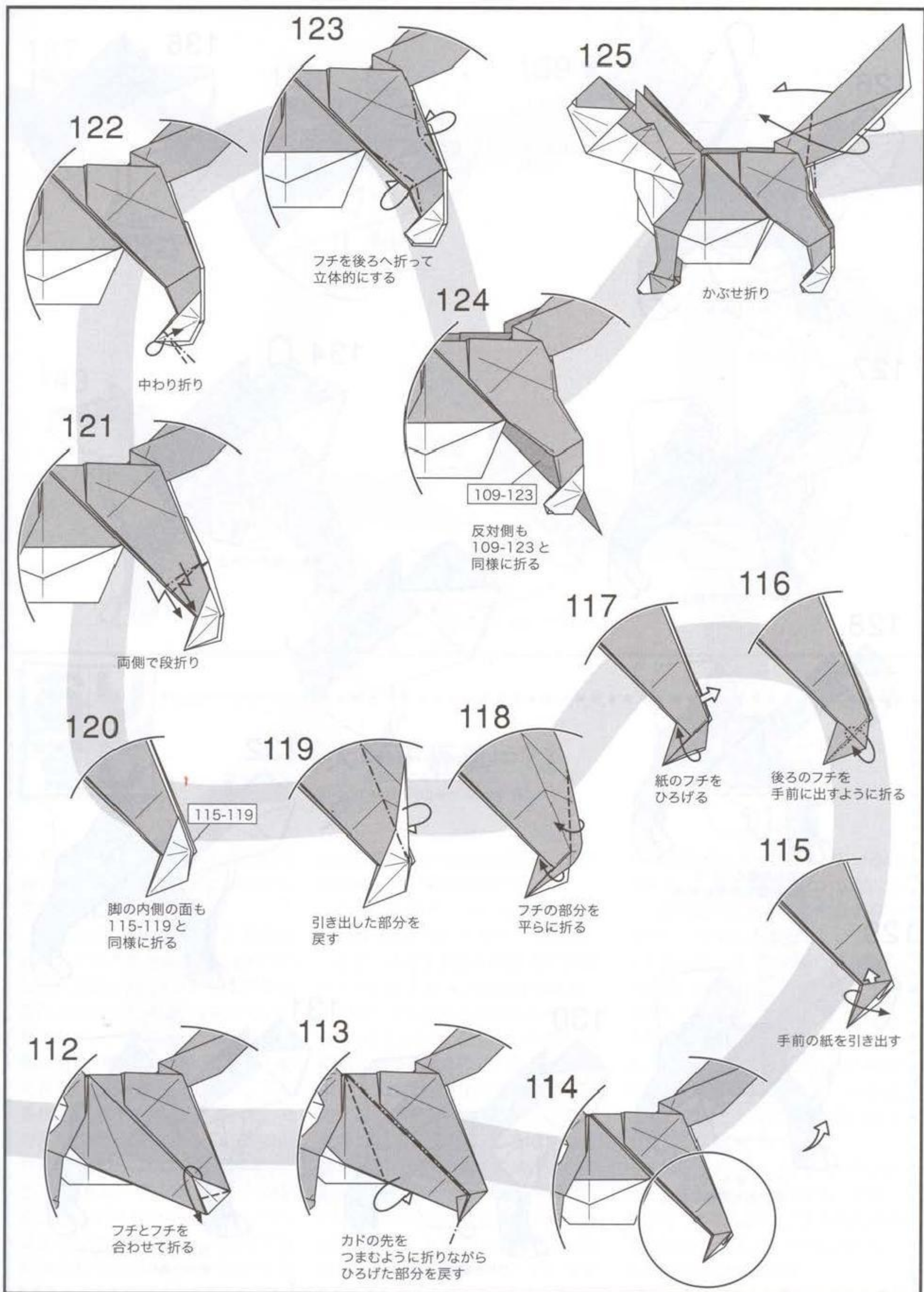


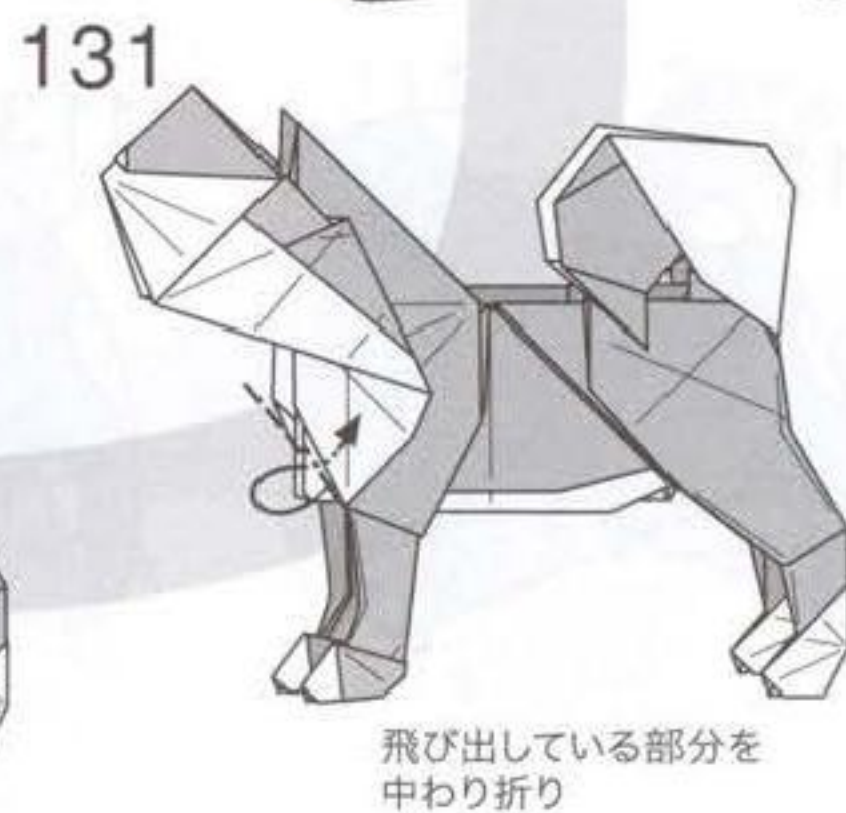
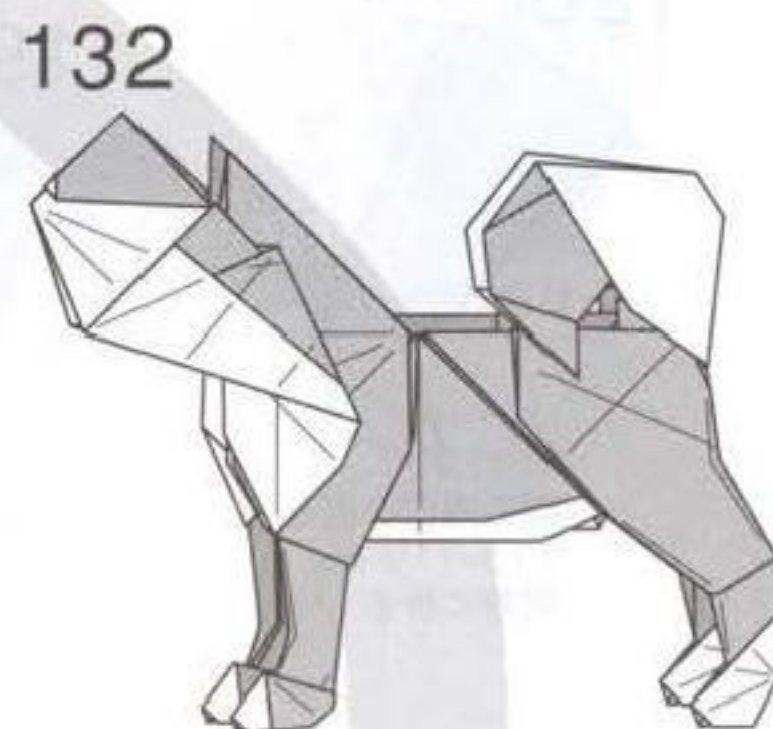
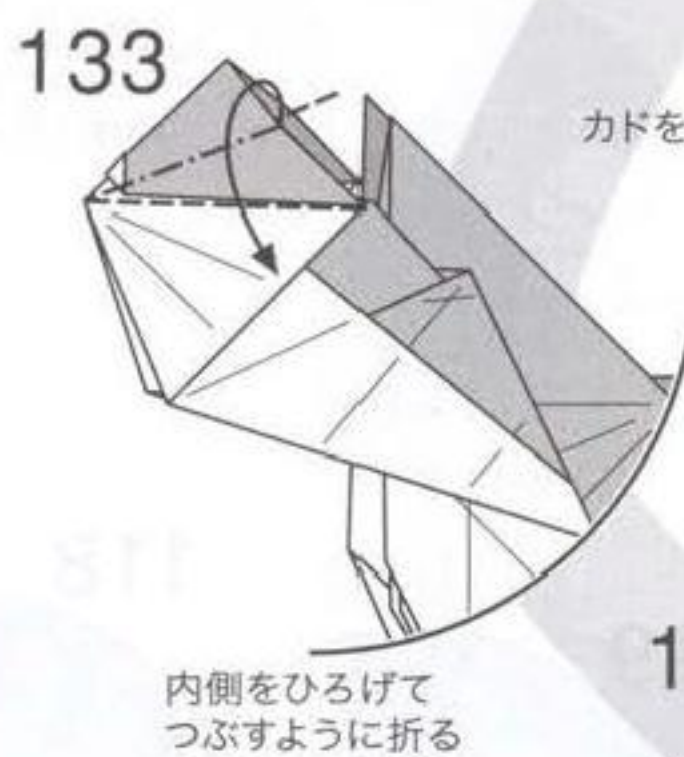
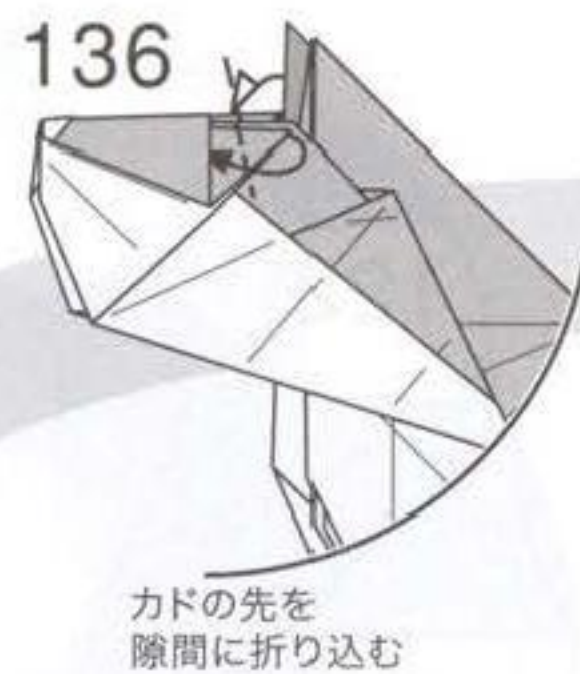
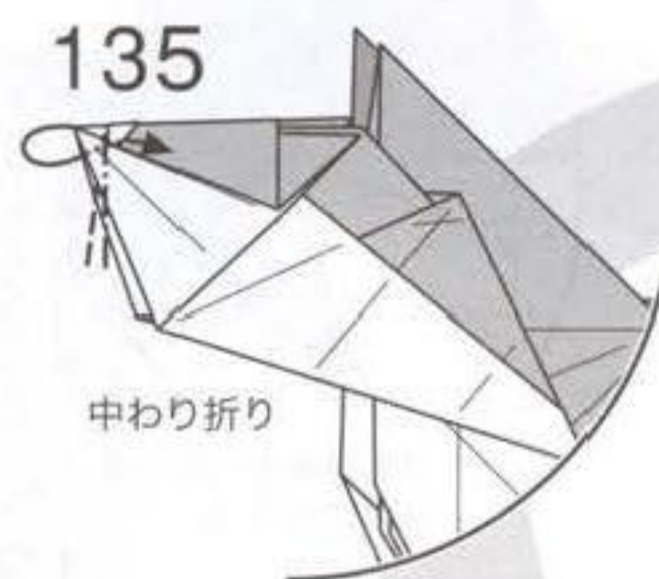
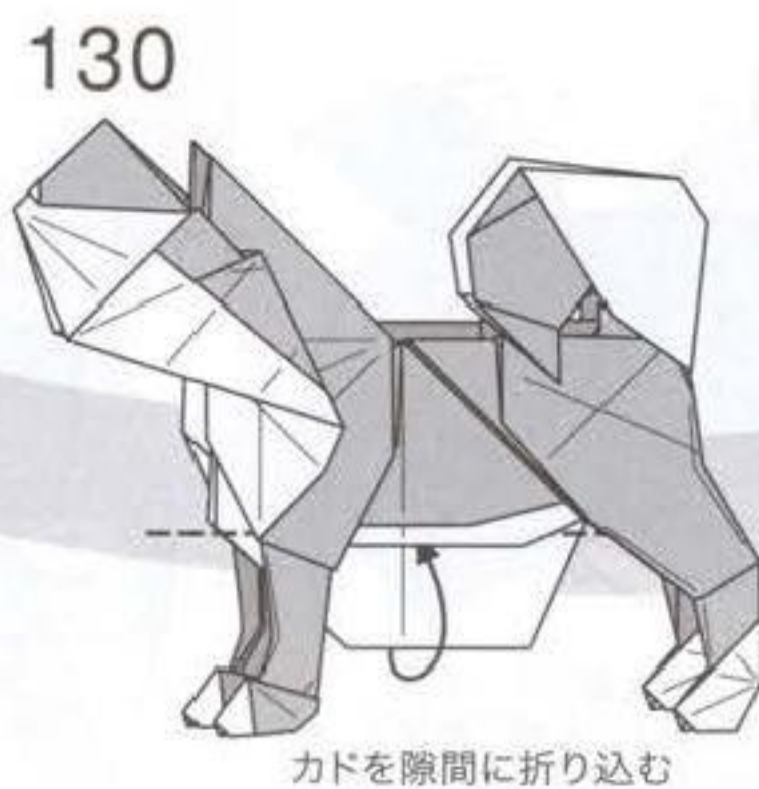
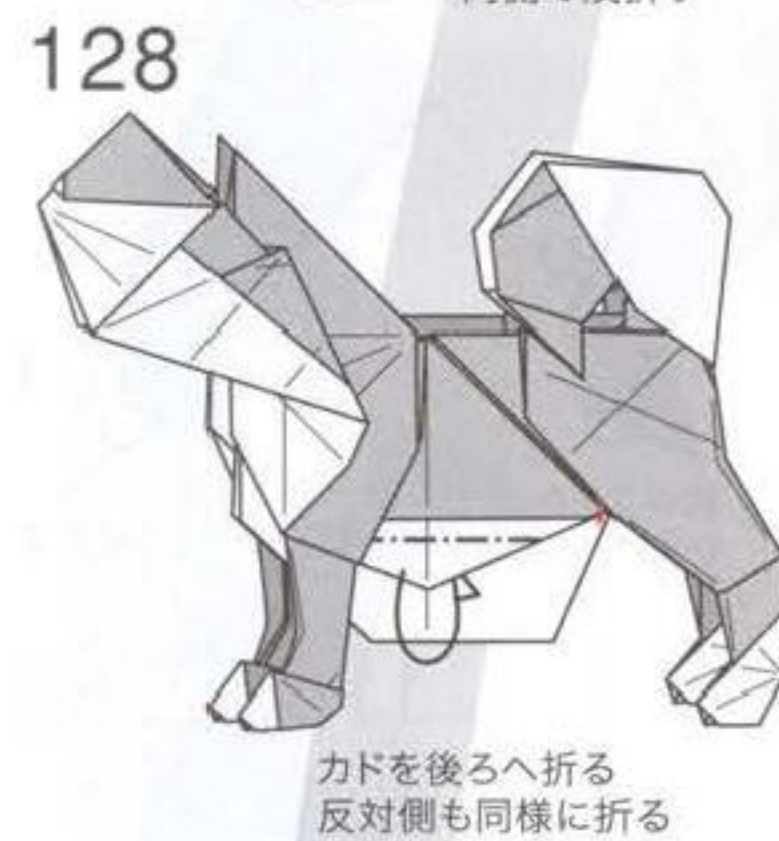
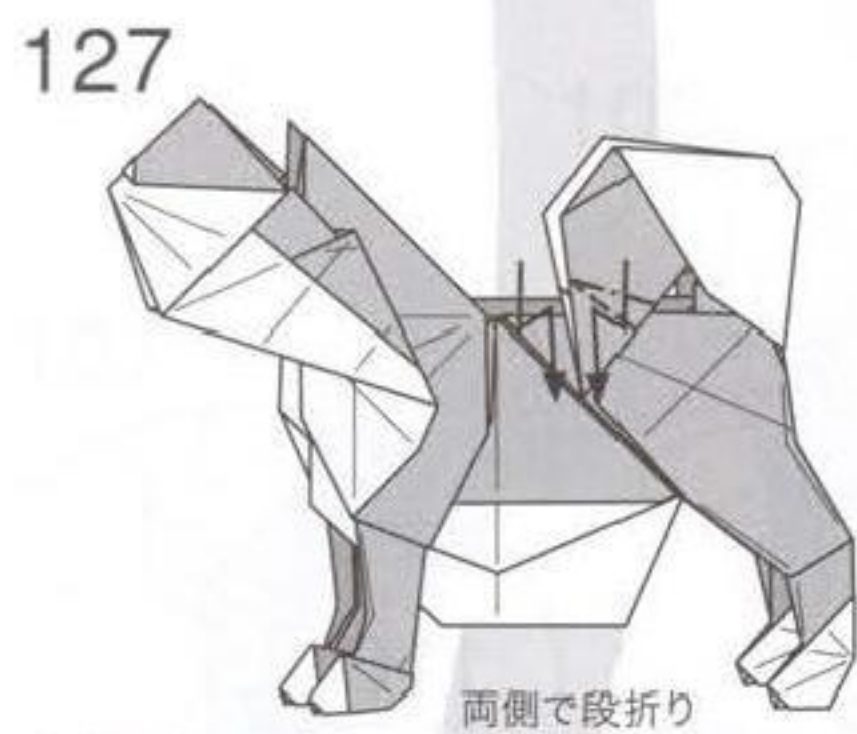
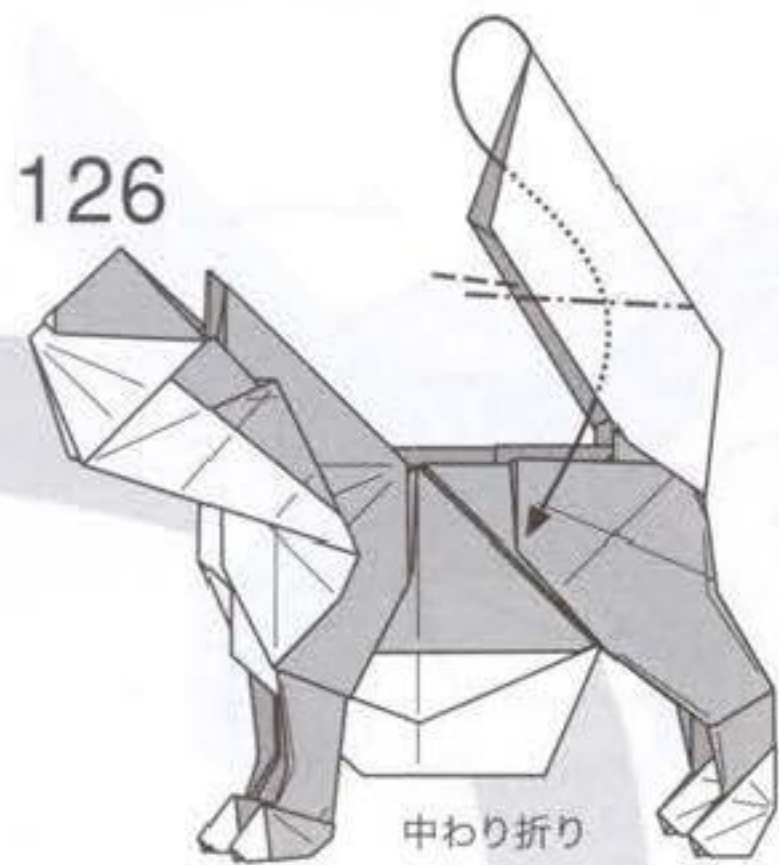
カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける

111

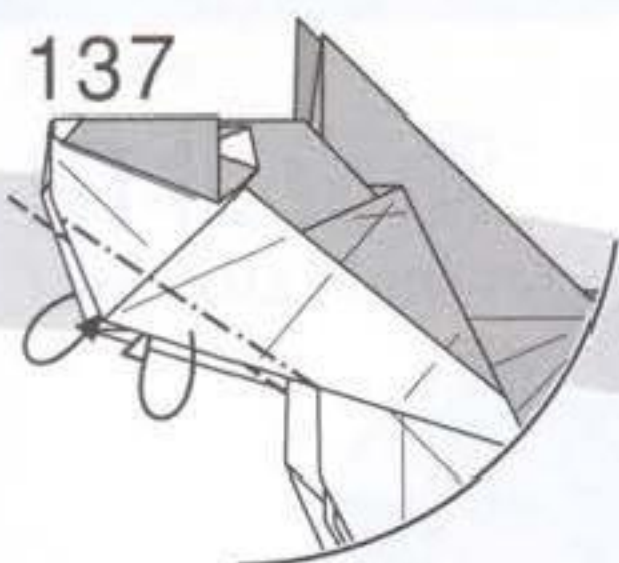


カドを折り筋に
合わせて折る



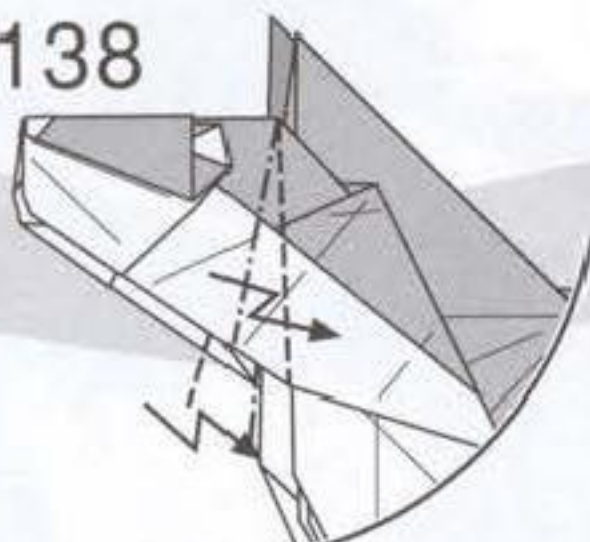


137



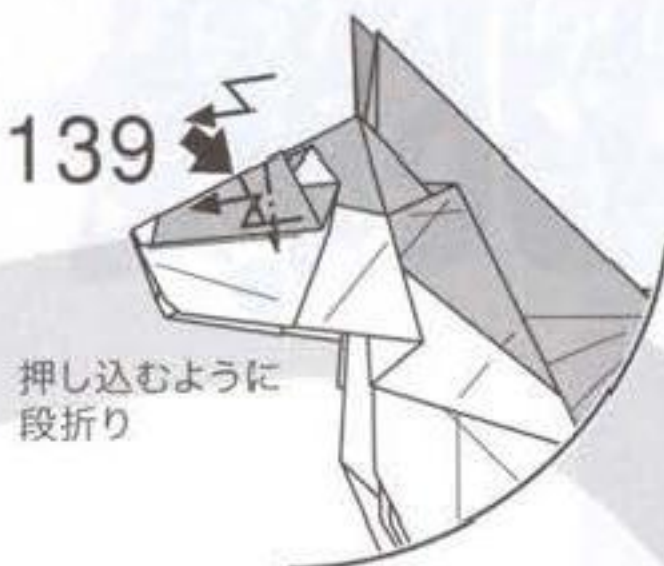
カドを内側に折る

138

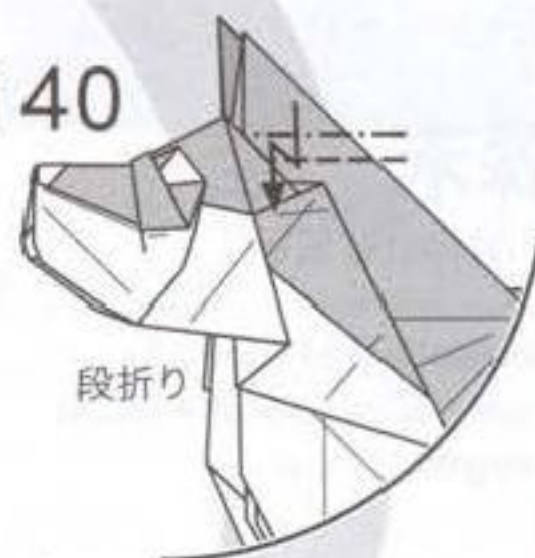


両側で段折り

139

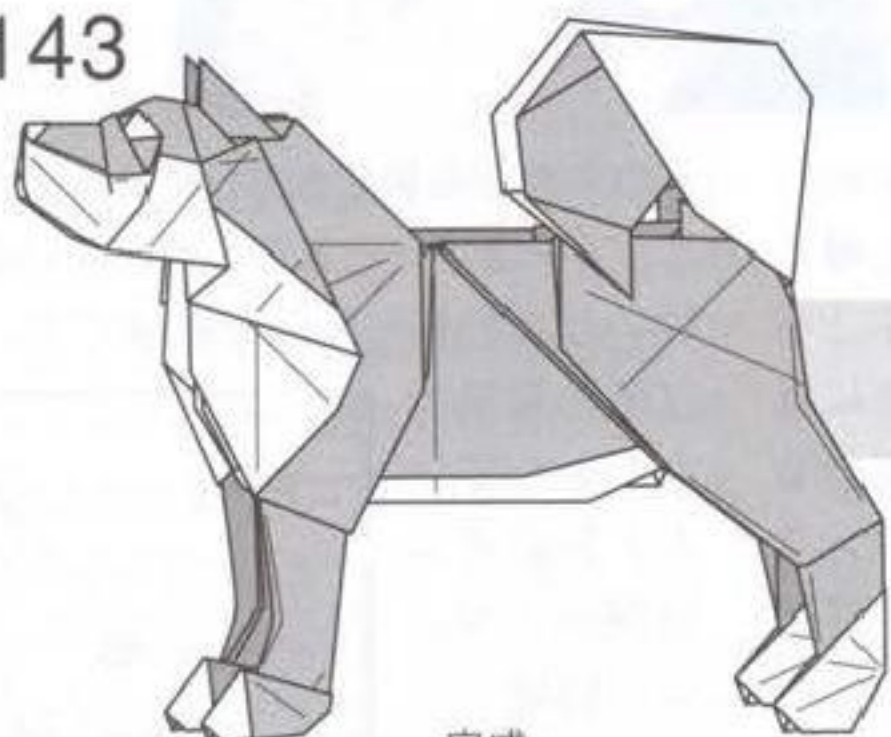
押し込むように
段折り

140



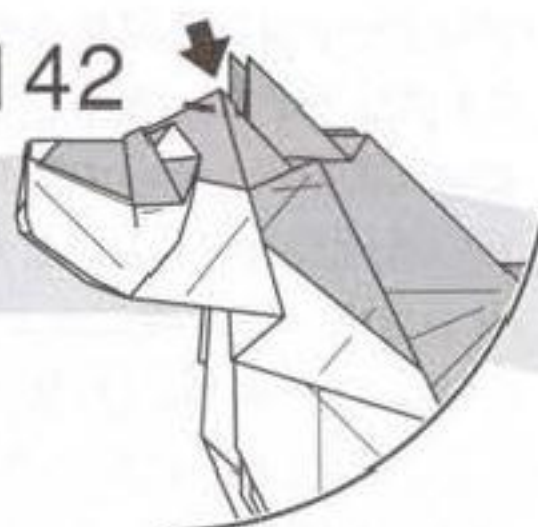
段折り

143



完成

142



カドを押し込むように折る

141



段折り



Orisuzi ("Fold-Creases")

『大学+折紙=?』

College and Origami Make What?

高村侑樹

Komura Yuki

あと2月ほどで私が東工大折紙同好会を立ち上げてからちょうど2年になります。

この2年間で私のシンプル系作品についての考え方が大きく変わりました。以前は割と「シンプル系作品を作ったら負け」のような気分でした私ですが、大学に入って初めて折り紙にあまり慣れていない人に折り紙を教えるという経験をし、シンプル系作品の必要性を痛感しました。そのような次第でシンプル系作品の創作にも手を出してはいるのですが、どうやら世間一般における「シンプル」と私の考える「シンプル」というのは全く違うものを指しているようではなかさじ加減が難しく、今のところ

成功と言えそうなのは1点のみ。まだまだ精進が必要なようです。

また、折紙サークルを運営することの難しさについても日々痛感しています。そもそも私が東工大で折紙サークルを立ち上げたのは「東大に折紙サークルがあるのだから東工大にあってもいいだろう」という実に短絡的な理由によるのですが、その結果やる事がなかなか見つからず苦勞する結果になりました。文化祭に向けての活動が今のところの主な活動なのですが、文化祭に向けての活動は個人作業が多く、サークルとしての活動は別で用意する必要があります。当サークルではこの問題を設計法についての勉強やサークル内で

の折紙教室によって解決しているのですが、これが最善かという点についてはわかりません。このままの方針でいいかもしれませんし、ひょっとすると大会のようなものがいいのかもしれません。折紙サークルが急増していることを受け、折紙サークルの交流も企画されるようになりました。今後折紙サークルの活動がどのようになってゆくのか、当事者として、期待と不安に満ち満ちた日々を過ごしております。

右も左ももう少し経ってみたいと何とも言えないことばかり。未来の私がきっとなんとかしてくれるだろうと信じることにして、今日はゆっくり紙をいじることにします。

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第88回

やませみ

山翡翠

Crested Kingfisher

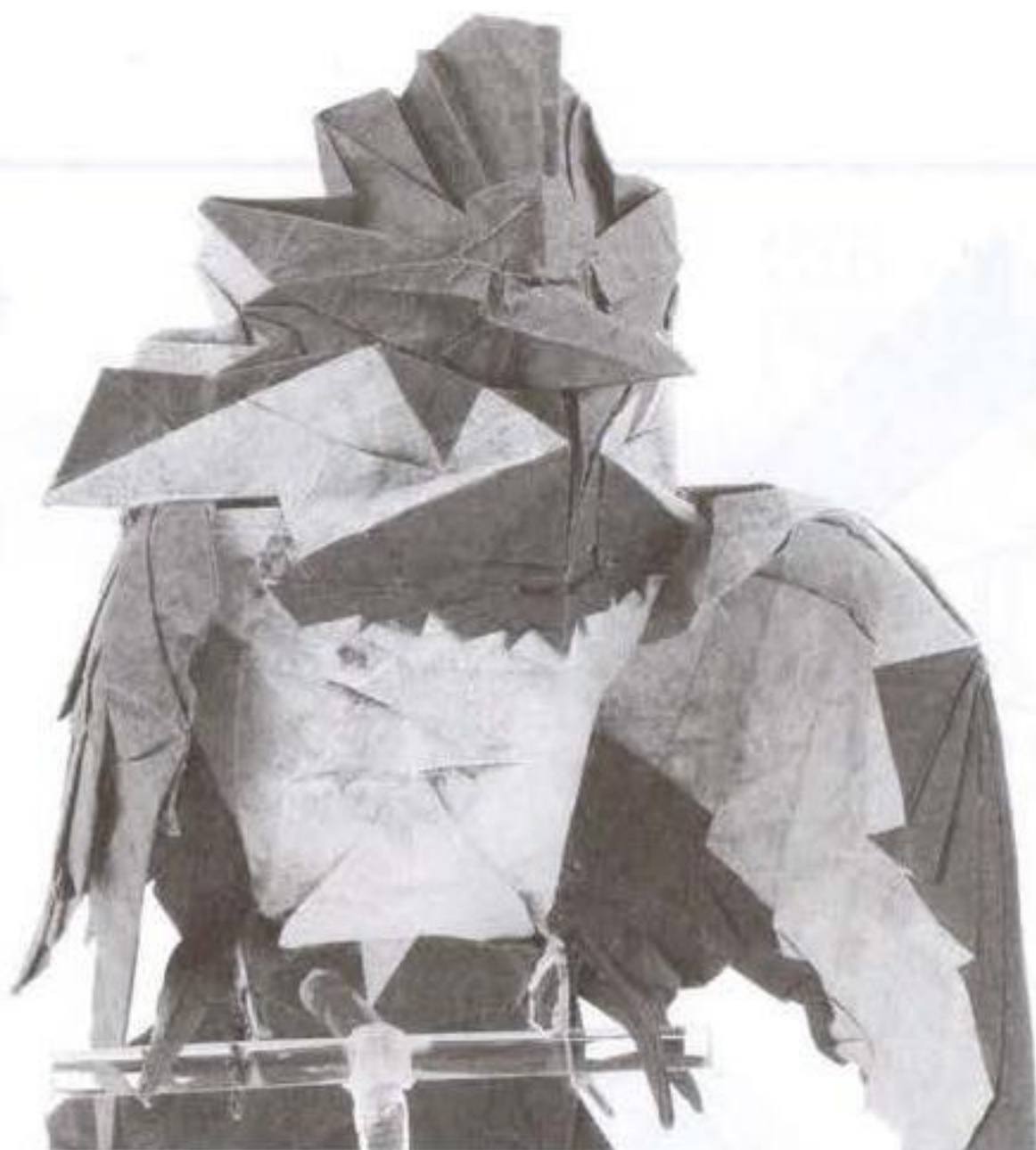
森末 圭

Morisue Kei

Created: 2013/04/23

Paper Size: 55cm×55cm

Length: 17cm



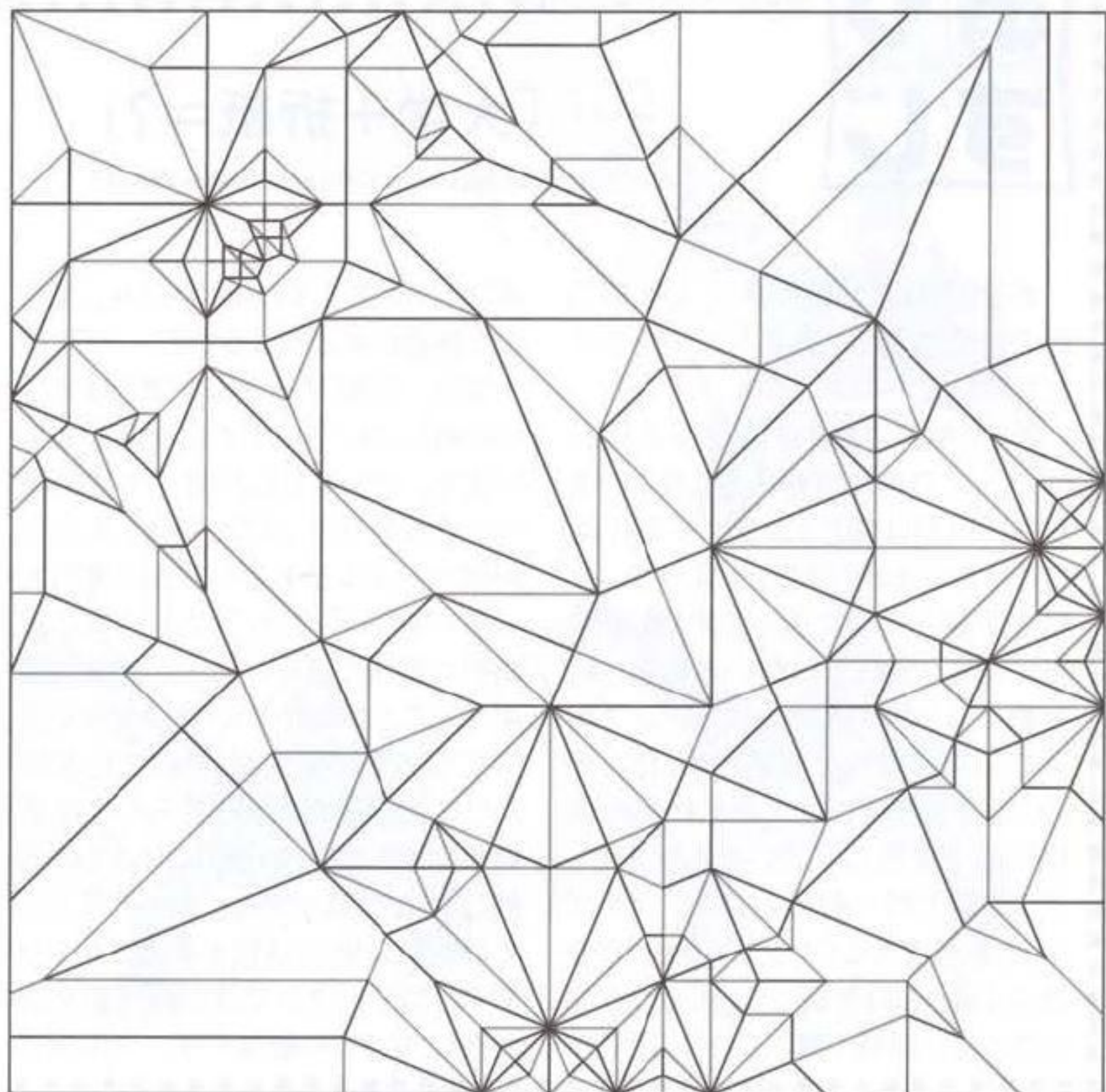
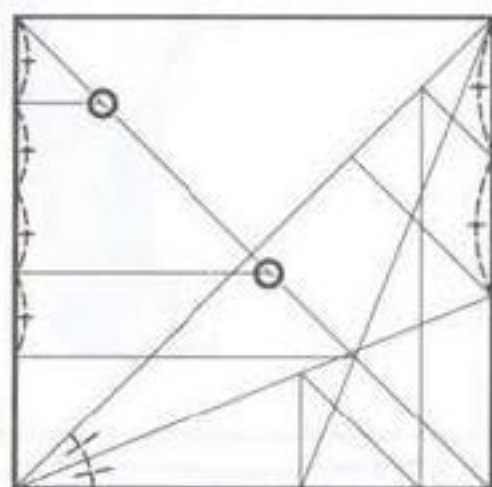
頭部と脚部には見た目以上に紙が集中するので40kg以下の薄い紙をご用意ください。展開図は22.5°を基調としたものですが、私自身もどうしても思いついたのか、見慣れない構造が頭部に散見されます。初見の方はできる限りのガイドを折り出し、中央の尾羽のカドから畳み始めるのがよいでしょう。ここから紙の辺に向かって折り進めるのですが、無闇に折っていると周辺の紙が邪魔をして畳めなくなるという罠が幾つかありますのでお楽しみください。展開図以降の仕上げの多くは段折りによる羽の表現です。翼は開いた状態にも閉じた状態にも仕上げることができます。首の角度もある程度は自由が利くので是非とも生き生きとした表情をさせてあげてください。

字面では山翡翠(ヤマセミ)と翡翠(カワセミ)はそっくりですが実際は大きさも色も全く異なる鳥です。山翡翠は折り紙の題材としては珍しいのですが、私にとっては小学生の時分からずっと挑戦し続けている「長年の課題」であります。2012年初頭から、私はこの課題に対する当時の解答を創ることに注力していました。しかしながらこれは個人的な因縁に過ぎませんので、これとは別に鑑賞者に向けてのメッセージが必要でした。それが「丸み」と「かわいらしさ」です。

本誌138号のカラーページにて紹介していただいたものは中間発表作品です。どうやら同じ題材に長いこと取り組みすぎて、私はメッセージどころか物の

プロポーションを見失うまでに気が触れていたようです。敢えて失敗作品を曝すという意味で、その中間発表は私にとっての降伏宣言でした。しかし、ときには両手を挙げて素直に人の指摘を受けるということも創作の大事な要素です。ここで小松英夫氏と堀口直人氏に批評を頂き、本作は完成しました。この作品のポイントは伸び伸びと表現される羽と隙間なくふっくらしたおなかです。作品の

どの方向から見ても楽しめる仕上がりになっています。一方で不足しているのは長いはずの嘴と翼の斑模様です。後者は紙の着色でカバーしていますが前者は展開図とやる気の問題であるので解決できていません。



File-54

山北克彦

Yamakita Katsuhiko

○山北克彦(やまきた・かつひこ)
=1971年、長崎生まれ。保育士。



■折り紙を始めたのはいつ頃ですか？

小学生の頃から折り紙が好きで、中学生くらいまでよく折っていたのを記憶しています。一番初めに見た本は恐らく母親が買ってくれたものだと思います。笠原邦彦氏の『どうぶつおりがみ』？という名称だったのでしょうか……。この頃の記憶に残る作品は「くす玉」です。折り図を見ながら折った記憶はありませんので母親に教えてもらったものなのでしょうか。母親と姉と3人で「くす玉」を折り、楽しんだことを思い出します。しかし青年期から大人へ成長するにあたり、いつしか「折り紙＝子どもの遊び」みたいに自分の中で思い込んでいました。保育士として就職してからは、大好きだった折り紙を園児たちへ教え遊んでいたのですが、あるとき地元で折り紙コンベンション(主催は日本折紙協会九州支部関係)があるから行ってみないか？と主任の勧めで参加したのが今に繋がる活動のきっかけです。その後、園児たちとの折り紙遊びを通して幼児教育での折り紙の大切さや魅力を強く感じながら今に至っています。

■どんな作品が好きですか？

コンプレックス系や、簡単に折れてリアルな作品が好きです。一番影響

を受けたのは神谷哲史氏の「エンシェントドラゴン」でしょう。もう1つ、以前「おりすじ」(本誌135号)にも書きましたがいギリスのデビッド・ブリル氏の作品からも大きな影響を受けました。

創作もします。といっても諸先輩方の様々な作品を折っているうちに、いろいろな手法や折り工程を学習して無意識のうちにそれを多用し自分のモノにして完成させているみたいな……。これ、創作じゃなくアレンジと言わないといけないんでしょうか？

そういうスタイルなので、最近は折り紙の本を買っても折り図を見ながら最後まで折るということがまずありません。マガジンに載っている折り図もここ2年くらい折ってませんでした(ゴメンナサイ〜)。

■今はどんな活動をされていますか？

現在は、九州友の会の定例会に毎回顔を出し、探偵団の九州コンベンションにはスタッフとして第1回目から参加しています。加えて、九州・沖縄地区で20年前から続いているコンベンションへも毎回顔を出し楽しませてもらっています。また最近では、地元で子どもを対象として折り紙教室を開いたりすることが何度か続いています。

■子ども向けの講習で気をつけていることはありますか？

教えるにあたって言葉遣いを変えています。比喻表現で「真ん中」を「お腹」と言ったり、途中で紙を90度や180度回転させるときに効果音を付けたりしています。また、折っていく工程の形がどんな形に似ているのか、子どもたちと楽しみながら脱線することもしばしばです。常に遊びながら進めている感じです。

■今までで印象に残った経験は？

20年ほど前にカンボジアへ行ったことがあるのですが、その際に、現地の子どもたちに折り紙を教えたいとの思いで準備をしていました。しかし、あの痛ましい内戦直後ということもあり、折り紙講習の場どころか教育機関自体が存在し得なかったのです。折り紙を折って楽しんでもらおうという企画は儚く散ってしまいました。

■今後の目標を教えてください。

いつでも何処でも簡単に折れて周りの人が喜び遊べるような作品や、未就学児でも折れて、なおかつリアルティのある作品を目指して創作活動を続けたいです。今後も折り紙の魅力を身近な人たちへ伝え続けていきたいと思っています。



▲折紙探偵団九州コンベンションで講習



▲山北氏の作品「ぱんぼう」(パンダの帽子)



▲山北氏の作品「ゾウ」

Rabbit Ear

つまみおり

Information

第20回折紙探偵団コンベンション 折り図集原稿大募集

夏のコンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集しています。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第20回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの創作者の了解を取った上で、名前も明記すること。) 原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法

ダウンロード: 折紙探偵団 HP の「コンベンション特設ページ」より可能です。 <http://origami.gr.jp/Convention/20th/>

◆応募締め切り: 2014年6月末日

◆第4回折紙探偵団九州コンベンション参加者募集

今年の九州コンベンションは5月の第3週に佐賀大学本庄キャンパスで開催されます。今年は折り紙を使ったアーティスト・トレーディング・カード(ATC)の交換会を開催する予定です。カードの大きさ(64×89mm)や、作品の作者名を裏面に明記といったルールを守っていただければ、どなたでもご参加いただけます。コンベンションに来られない方には郵送による参加も検討中。詳細は友の会ブログに順次掲載する予定です。皆様の力作でのご参加をお待ちしております! また、今回のスペシャルゲストのジーンさんは折り紙トレーディングカード(Origami ATC)のスペシャリストで、講演ではそのお話をしてくれます。

そしてもちろん17日(土)には大人気の懇親会が開催されます。懇親会のみのご参加もOKです。ご家族お友達お誘い合わせの上ぜひお越しください。九州スタッフ一同、皆様のご参加をお待ちしております。

●日程

2014年5月17日(土)・18日(日)

●会場 佐賀大学 文化教育学部

●参加費 大人 4,000円

学生 3,000円

親子割引もあります。詳しくは案内用紙参照。

●懇親会 17日(土)18:00~20:00

佐嘉神社記念館

参加費 4,000円(予定)

※コンベンション・懇親会とも、申し込み後にキャンセルされる場合は必ず事前に、なるべく早くご連絡ください。

●参加申し込み

5月2日(金)必着

同封の申込書をご利用ください。また、ネットで申し込みができるフォームを試験的に導入しようと思っています。詳細は友の会ブログにて掲載いたします。

●お問い合わせ先 川村みゆき

メール: q-syu@plala.to

FAX: 0952-33-2246 (10:00-19:00 常時留守電になっています)

九州友の会ブログ:

<http://q-syu.squares.net/blog.cgi>



昨年の OrigamiUSA Convention にて、右が笑顔の素晴らしいスペシャルゲストの Jean Badengillette さん。左は OUSA 現会長の Wendy Zeichner さん。中央は山口 真氏

◆“6OSME in Tokyo” 最新情報

第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議の参加登録がはじまった。国内外から150を超える発表が集まってきており活発な折り紙学の議論が期待される。

<国際会議の概要>

1. スケジュール

会期) 2014年8月10日(日)より13日(水) 4日間

参加登録) 2014年2月1日より公式ウェブサイト origami.gr.jp/6osme/ からのオンライン登録を開始しています。

参加登録(2014年7月1日より):

一般 25,000円 学生 15,000円

早期登録(2014年6月30日まで):

一般 20,000円 学生 10,000円

会議概要

8月10日(日)

受付およびウェルカムレセプション

8月11日(月)

招待講演 Gregory Epps氏、岡村昌夫氏

8月11日(月)~13日(水)

折り紙に関わる技術、数学、教育、芸術、デザイン、歴史など多岐にわたる研究発表の講演

題数は150演題を超え、ポスターセッションを含め5つのセッションに分かれて行わ

れます。

8月12日(火)夕刻 懇親会(東京ドームホテル)

2. 開催場所

東京大学本郷キャンパス 弥生講堂 (東京都文京区)

会期中、学会会場では発表に関連した作品の展示が行われる予定です。

3. 折紙探偵団コンベンションへ引き続き参加する方の特典

2014年8月15日(金)~17日(日)に東洋大学で開催される第20回折紙探偵団コンベンションへ引き続き参加される方は、コンベンション参加費が半額になる特典があります。両方の参加を検討されている方はお早めに6OSMEへの参加登録を!

本誌143号に掲載された萩原元氏の折り紙作品「バイオリン」が、中国の折り紙作家Leo Lai氏が2010年にFlickr(<http://www.flickr.com/photos/zeatuel/4767821859>、<http://www.flickr.com/photos/zeatuel/4783038120>)上に発表した作品「cello」に非常によく似た構造と仕上げのテイストを持っているとの指摘を折り紙愛好家から受けました。日本折紙学会で確認いたしましたところ、両作品は指摘どおり非常に類似性が高いと認められました。日本折紙学会としては作品掲載時にオリジナリティ、ユニークさを大切にして作品選定を行っていますが、今回、Leo Lai氏の先行作品を見落としていたことを心よりお詫びいたします。

一方で、「バイオリン」作者の萩原元氏の創作実績や人柄についてよく知る私もから考えれば、萩原氏が故意にLeo Lai氏の作品を真似て作ることも考えにく

く、偶然の類似と考えるところでは、萩原氏からも経緯を聞き、先行作品に関しては「origami violin」にて画像検索したということでした。「cello」として発表されているLeo Lai氏の作品は、上記検索では掛かりにくいことは確認できました。しかしながら、日本折紙学会としては重要な先行事例としてLeo Lai氏の作品「cello」を紹介しここに先行業績に敬意を表明いたします。

折り紙作品の類似性については、構造上の特徴(点配置、折り線の構成、インサイドアウトなどの特徴的技法、用紙形、使用枚数)、最終的な形状のデザイン性(フォルム、色、動きなどのドラマ性、機能性、材料の選択、大きさ)、モチーフ(表題)、折り工程のリズムなどの観点で総合的、経験的に評価されるのが実態であり、定量的な基準は明確にありませんが、今回の両作品は構造上の特徴として用紙形(1:4の長方形)および点

配置、デザイン面では写実性(ディテールの選択)などの点で類似性が高いと見られます。①インサイドアウト技法の選択、②用紙形、③点配置、④デザインの傾向のうち、①～③は互いに関連性があり、インサイドアウト技法を選んだ場合の用紙形と点配置の選択は合理性を追求すればある程度収斂し得ると考えられ、デザインも写実性は比較的選択され易い傾向であり偶然の類似はあり得ると考えました。ただし、この判断はこのような解析のみで一般に論じられるとは考えておらず、萩原元氏に対する日本折紙学会の信頼を前提とするものです。143号掲載決定時にLeo Lai氏の先行作品「cello」について本誌編集会議にて認識していれば、事前の確認等を行ってしかるべき類似性との認識には違いなく、ご心配をかけたLeo Lai氏にあらためてお詫びいたします。

◆若手作家勉強会活動報告

若手作家勉強会

「若手作家勉強会」は昨年9月の発足以降、試行錯誤を続けながら月一度の開催を続けているが、今回は1月・2月の活動内容を報告する。

第5回勉強会は1月26日、JOASホールにて行った。参加者10名の中には韓国人の参加者もいた。個人発表は萩原元氏の「自作品の折り図製作の変遷と今後の課題について」。また今回から、個人発表中心ではなく若手作家が一体となるような挑戦を目指し、集団創作に取り組んだ。あるお題に対し、「個人試作→小集団内で作品を1つ選び練り上げる→最終成果発表」と行う試みだ。短時間で即興的に創作し、小集団で最も

良いものを選び、その改善点を見つけ練り上げるという作業は、普段個人で時間をかけ折ることが多い若手作家が不得手とする部分であるが、新鮮で刺激のあるものになった。

第6回勉強会は2月23日、JOASホールにて行った。参加者は12名。個人発表は大内康治氏の「折り紙創作の困難さ」。発表の後は折紙創作集団スクエアが制作した動画「折紙作家の頭の中マンボウ折ろうよ」を代表柏村氏の解説を交えながら鑑賞し、意見交換を行った。さらに第5回に引き続き集団創作を行った。前回から作業工程を改良し、さらに実りのある内容となった。集団創作で生まれた作品はカラーページを参照してほしい。

若手にとって有益な議論の場となるよう活動して半年、次第に成果を発表できるようになった。今後は東京コンベンションを目的にさらに躍進しようとして考えている。新規参加者も引き続き大歓迎だ。(高校生以上、30才以下。)



折り紙の科学 (Science of Origami) 第3号刊行

当初予定より遅れてしまいました。が、会員からの投稿論文を中心にした研究誌『折り紙の科学』(Science of Origami)の第3号が刊行されました。館知宏氏、西村保三氏の、工学的応用と数学に関する最新論文のほか、東秀明氏の論文、川崎敏和氏の解説記事、そして、おまけとして幾何的作品の図もついています。頒布価格は2000円です。購入方法は、WEB(<http://www.origami.gr.jp/>)で案内します。



◆「ヒト細胞・筋肉・臓器の幾何学的及び力学的 解明とモデル化」の研究会

川村みゆき

2月26～28日は明治大学中野キャンパスにて統計数理研究所主催の「ヒト細胞・筋肉・臓器の幾何学的及び力学的解明とモデル化」の研究会(世話人:萩原一郎・明治大学特任教授)に参加させていただきました。生物や細胞の構造と動きを解析し、アクションを含めた“4次元”構造の生体モデルを折紙的な手法を用いて2次元のシートから再構成したい、というのが会の大まかな目標です。21名の講演者の半数が医学・生物系、残りの半数が幾何、工学、コンピュータサイエンスなどで、折紙作家は私1人でした。内容は、錐体・トーラスなどの折り

畳みや、細胞の粘着・収縮を利用した微小構造物の折り畳み、テンセグリティなど、折紙の世界でも比較的馴染みのある話題の他、リハビリ時や無重量状態での身体の重心制御機能の話題、シート状に培養した細胞を重ねて移植用の組織を作る試みなどの話題もありました。中でも、北岡裕子氏(JSOL)の発表は動く肺胞モデルを折紙で製作するというもので、肺胞を模した多面体の1面を抜いて伸縮性を持たせることで、その肺胞が隙間無く空間充填されている肺(の一部)全体が充填構造を保ったまま伸縮しガス交換を行うという動きを、折紙

モデルでシンプルに再現されていました。その他にも、生体内の膜は生成と分解を繰り返し、運動に合わせてリアルタイムで面積が変化するとのこと、既存の折紙体系とは異なる材料・技法が必要になる可能性も示唆されていました。多岐に渡る分野の話題に集中的に触れることができ、とても興味深い3日間でした。



東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00～16:00/研究会=16:00～(開場は13:45)

●4月5日(土)/講師:森末 圭/作品:潜水艦他

●5月10日(土)/講師:井上岳哉/作品:ゴジラ他

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=10:30～15:00

※昼食は各自ご用意下さい。会場は土足禁止です。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

●4月6日(日)午前=講師:山梨明子/作品:りんご(Fujimoto Apple)藤本修三作/午後=ミニ講習 講師:山梨明子/作品:一枚折り富士山、静岡コンベンション打ち合わせ、情報交換会等

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟

303号室/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00～15:30 4月、5月は詳細未定。確定次第、東海友の会HP <http://joas-tokai.fan-site.net> にてご案内。

関西友の会 ※折り紙は各自持参

次回定例会は6月を予定しています。会場=高槻市立総合市民交流センター(予定)詳細が確定の際には、友の会公式サイト http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/ と葉書にてご案内致します。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ/参加費=500円(中学生以下は100円)

●4月20日(日)/時間=13:00～16:00/会場=4F第3研修室B/講師:浜田 勇/作品:未定

●6月22日(日)/時間=13:00～16:00/会場=4F第3研修室B/講師:未定/作品:未定

※5月は九州コンベンション開催のため、通常の例会はお休みです

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Origami ATC研究会」

4月17日(木)/参加費=1,000円(材料費別)/11:00～16:00/講習内容=アーティスト・トレーディングカード(ATC)作りと、折り紙講習、折り紙の情報交換等/講師=松浦英子/定員=20名/お茶を飲みながらの気軽な集まり。初心者大歓迎。

◆「ある折り紙作家の教室」

4月27日(日)、5月3日(日)(2日とも同じ内容)/講師=神谷哲史/講習作品=未定/参加費=3,000円(材料費別)/11:00～16:00/定員=28名

◆「知子の部屋」

6月21日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30～16:00/定員=28名/アットホームな雰囲気の教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「知子の部屋」と「ある折り紙作家の教室」は、キャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■この冬は何十年振りかの大雪に襲われた。■皆さんの周りは被害は無かったでしょうか。■被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。■私の周りではJOAS評議員のM氏が2度にわたり大変な目にあったようだ。■始めの大雪では目的地まで12時間も車が立ち往生だったそうだ。■更に、2度目の大雪では40時間も動けなかったそうだ。■そんな状況でもJOAS関係のメールは送られてきた。■食事はどうしたのと聞いたら、近くで炊き出しがあったそうだ。■そこで、もう一つ、その炊き出しにはM氏の奥様もお手伝いをしたそうである。■2週続けてのお勤めご苦労様でした。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2014年3月25日発行 第24巻6号 通巻144号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.144 / Published on 25, March 2014 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Crested Kingfisher" Produced by Morisue Kei: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第19回折紙探偵団 折り図集vol.19

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 53作品収録

vol.18より **さらに16P増量!**

ジャバラ：川村みゆき、モザイク小物入れ：川崎敏和、ニワトリ：神谷哲史、リヤマ：川畑文昭、サイ：宮島 登、無限の輪：イザ・クライン、自転車：ジェイソン・クー、白ウサギ：ニコラス・ガハルド・エンリケス、グリズリー：セス・フリードマン等、国内外の53作品を収録。

消費税引き上げに伴う価格改定※のお知らせ

(※2014年4月1日より)

今までのおりがみはうすオリジナル商品では、消費税を取らない努力をして参りました。しかし、関係資材等の値上げ、2014年4月1日からの増税を迎え、今後は各商品に消費税分8%を加えさせて頂く事となりました。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込) 複数冊は 異なります お問い合わせ ください	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	5,180円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第19回折紙探偵団 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円	450円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

※PayPalによるお支払いも可能です。詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

折り紙用紙専門のオンラインショップ!
トーヨーの商品を25%引きで販売中!*
(※一部対象外商品有り)

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送付させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

おりがみBOX

折り上がった作品や道具類も収納できます。

¥450
(税抜き)



便利な
仕切りつき
2層式タイプ
おかたづけBOX

〈使用例〉
折り紙・はさみ
ペンはセット
されておりません。



オリジナルBOXを作ってみよう!!

作品を折って
かざってみよう!

おりがみBOX
シールと
なまえシールを
貼ってみよう!

いろいろな
シールで
デコレーションを
してみよう!



 株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所